

履修要項・シラバス

2023

(2021年度以前入学生対象)



札幌保健医療大学

保健医療学部 看護学科

2023年度学事暦

日	月	火	水	木	金	土	看護学科 1年次	看護学科 2年次	看護学科 3年次	看護学科 4年次	全学行事
4月						1	4/3、5、6 新入生ガイダンス	4/3前期授業開始 4/13 健康診断	4/3前期授業開始 4/14健康診断	4/3前期授業開始 4/14健康診断	4/4 入学式 4/28 (予定) 体育大会
	2	3	4	5	6	7	4/7 前期授業開始				
	9	10	11	12	13	14	4/13 健康診断				
	16	17	18	19	20	21					
	23	24	25	26	27	28					
5月	30										
	1	2	3	4	5	6			5/29～11/2 領域別臨地実習	5/22～10/13 領域別臨地実習	5/1 創立記念日
	7	8	9	10	11	12					
	14	15	16	17	18	19					
	21	22	23	24	25	26					
6月	28	29	30	31							
					1	2					6/3補講日
	4	5	6	7	8	9					
	11	12	13	14	15	16					
	18	19	20	21	22	23					
7月	25	26	27	28	29	30					
					1	2	① 7/24～7/28 ② 7/31～8/4 看護基礎実習Ⅰ				
	3	4	5	6	7	8					
	9	10	11	12	13	14					
	16	17	18	19	20	21					
8月	23	24	25	26	27	28					
	30	31									
		1	2	3	4	5	8/14～18 前期定期試験 8/21～25 前期追再試験	8/14～18 前期定期試験 8/21～25 前期追再試験			8/28～9/28 夏期休業 ※学年によって異なる
	6	7	8	9	10	11					
	13	14	15	16	17	18					
9月	20	21	22	23	24	25					
	27	28	29	30	31						
					1	2	9/29 後期ガイダンス	9/19～9/29 地域看護実習			9/22 前期学位授与式
	3	4	5	6	7	8					
	10	11	12	13	14	15					
10月	17	18	19	20	21	22					
	24	25	26	27	28	29					
							10/2 後期授業開始	10/2 後期ガイダンス 10/3 後期授業開始 10/21、28 集中講義		10/16 後期ガイダンス 10/17 後期授業開始 10/21、28 集中講義	10/7～8 (予定) 大学祭
	1	2	3	4	5	6					
	8	9	10	11	12	13					
11月	15	16	17	18	19	20					
	22	23	24	25	26	27					
	29	30	31								
				1	2	3					
	5	6	7	8	9	10		11/11 (予定) グロ-アップ セレモニー 11/20～12/1 看護基礎実習Ⅱ	11/6 後期ガイダンス 11/7後期授業開始		11/11 (予定) グロ-アップ セレモニー 11/25 補講日
12月	12	13	14	15	16	17					
	19	20	21	22	23	24					
	26	27	28	29	30						
	1	2	3	4	5	6					
1月	7	8	9	10	11	12					
	14	15	16	17	18	19					
	21	22	23	24	25	26					
	28	29	30	31							1/20 補講日
2月											
	1	2	3	4	5	6	2/13～16 後期定期試験	2/19～22 後期定期試験	2/19～22 後期定期試験		2/5入学試験日
	4	5	6	7	8	9	2/19～22、26 後期追再試験	2/26～3/1 後期追再試験	2/26～3/1 後期追再試験		
	11	12	13	14	15	16					
	18	19	20	21	22	23					
3月	25	26	27	28	29						
	1	2	3	4	5	6					3/16 学位記授与式
	3	4	5	6	7	8					3/4～3/31 春期休業 ※学年によって異なる

この他に全学行事として避難訓練が予定されています。

入学試験日は入構できません。

試験期間は暫定で記載しています。

学事暦の日程は、一部変更することがあります。

目 次

I 履修要項

I-1	本学の教育理念	2
I-2	本学の教育目的	2
I-3	本学の教育目標	2
I-4	看護学科の教育目的	2
I-5	栄養学科の教育目的	2
I-6	札幌保健医療大学の三方針	
1)	ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	3
2)	カリキュラム・ポリシー（教育課程の基本方針）	4
3)	アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）	5
I-7	履修について	
1)	学期	6
2)	修業年限・在学年限	6
3)	授業科目	6
4)	科目の履修および登録	7
I-8	授業について	
1)	授業時間	8
2)	休講・補講・補講等（補習）・集中講義	8
3)	欠席の取扱い	9
4)	欠席回数自己管理について	9
5)	天候による非常事態への対応	10
6)	授業評価アンケート	10
I-9	試験について	
1)	試験の種類・手続き	11
2)	受験資格	12
3)	試験の方法	12
4)	試験時間	12
5)	受験心得	12
6)	不正行為	13
I-10	単位・成績について	
1)	単位について	14
2)	単位修得に関する事項	14
3)	成績通知	15

II 看護学科

II-1 看護学科の履修要件（先修条件）	
1) 実習の先修条件	17
2) 臨地実習における追実習と再実習について	18
3) 実習以外の科目の先修条件	19
II-2 看護学科の卒業要件・進級要件	
1) 卒業要件	20
2) 進級要件	20
II-3 看護学科の資格の取得	
1) 看護師国家試験受験資格	21
2) 保健師国家試験受験資格（選抜制）	21
3) 養護教諭二種免許	22
II-4 教育課程表（卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧）	23
II-5 科目配置表	25
II-6 オフィスアワー	27

III シラバス

授業科目名と担当者一覧	31
3年次	32
4年次	73

I 履修要項

I-1 本学の教育理念

本学は、吉田学園の建学の精神に込められた「豊かな人間性」と「職業人としての基礎能力」をもつ人材を育成する伝統を継承しています。

本学は、学生一人ひとりの人間力として、「豊かな感性」「高潔な精神」「確かな知力」を培い、これらの人間的調和と自己成長をはかるとともに、「他者と共存」できる医療人を育成します。

この教育理念の実現によって、社会から必要とされる人材を地域に輩出することで、保健医療福祉の充実・向上に貢献します。

◆本学の教育がめざす、人間力とは、

- ・豊かな感性：人の心に寄り添い、他者の思いや苦悩を汲み取る力
- ・高潔な精神：真・善を追求し、公共の使命と責任を全うする意志力
- ・確かな知力：人間的な判断と行動の知的拠り所となる力
- ・他者との共存：多様な文化や社会、個性ある互いを認め合い、他者と共に生きる力

I-2 本学の教育目的

本学の教育理念である「人間力教育」を根幹に、「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」を培い、「他者との共存」ができる人間力を有し、多様化する保健医療の進展と地域のニーズに対応できる実践力を備えるとともに、将来にわたり保健医療の専門性を追求し続ける保健医療専門職者を育成する。

I-3 本学の教育目標

- (1) 人間力を涵養し、社会の一員としての社会的態度と行動をとることができる人材を育成する。
- (2) 生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳と多様な価値観を尊重できる人材を育成する。
- (3) 人間と環境と健康の相互作用を理解し、健康を社会的視点から捉えることができる人材を育成する。
- (4) 保健医療の専門職として求められる知識・技術・態度を有し、実践力のある人材を育成する。
- (5) 社会生活や保健医療福祉に関わる人々との連携および協働できる人材を育成する。
- (6) 保健医療福祉の諸課題への探求心を持ち、将来にわたり学修し、成長し続ける人材を育成する。

I-4 看護学科の教育目的

看護学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、看護学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、看護を实践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する看護専門職者を育成する。

I-5 栄養学科の教育目的

栄養学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、栄養学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、栄養の管理・指導を实践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する栄養専門職者を育成する。

I-6 札幌保健医療大学の三方針

1) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学において卒業時に修得できる学位の名称は、次のとおりです。

学科	学位
看護学科	学士（看護学）
栄養学科	学士（栄養学）

本学の保健医療学部看護学科・栄養学科は、教育理念・目的をふまえ、学部教育目的の「人間と自然、多様な文化や社会に関する知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「専門分野の基礎知識・技術・態度」「多職種との連携協働力」「生涯学習力」の6つの資質・能力のもと、下記の到達目標に応じた看護師、管理栄養士の専門職業人としての人間的基盤の形成および、各専門的能力を修得するとともに各国家試験受験資格の要件となる単位を含む124単位以上の修得を求めます。これらの方針を満たした者は、看護学科においては学士（看護学）、栄養学科においては学士（栄養学）の学位を授与します。

【看護学科】

- (1) 職業人として、日本語および英語の運用能力、ならびに情報リテラシーの基礎を身につけ、これらを用いて論理的な分析と思考・判断および表現する能力を有している。
- (2) 自己の良心と社会規範に従い、社会の一員としての責任感のもとに自己を統制し行動できるとともに、社会のために積極的に関与できる態度を有している。
- (3) 生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための倫理的態度を有している。
- (4) 人間と生活、心身の健康、社会の直面する諸課題についての基礎知識を習得し、人間・健康・社会の関係を体系的に理解する能力を有している。
- (5) 看護の目的と対象となる個人・家族・集団の特性を理解し、健康課題の特定と解決に必要な看護実践ができる基礎的能力を有している。
- (6) 保健医療福祉体制のもとで、看護職と他職種の役割について認識し、多職種とチーム連携・協働するために必要な基礎的能力を有している。
- (7) 自己の看護能力の向上のために、最新の知識・技術を学び続ける学修態度と看護の課題を発見し、課題を解決する能力を有している。

【栄養学科】

- (1) 職業人として、日本語および英語の運用能力、ならびに情報リテラシーの基礎を身につけ、これらを用いて論理的な分析と思考・判断および表現する能力を有している。
- (2) 自己の良心と社会規範に従い、社会の一員としての責任感のもとに自己を統制し行動できるとともに、社会のために積極的に関与できる態度を有している。
- (3) 生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための倫理的態度を有している。
- (4) 社会や環境の人間への影響、および健康との相互関係について基礎的な知識を有し、人間の生活の機構、環境の変化に対する機構、ならびに疾患の成因から治療、保健医療福祉体制について基礎的な知識を有している。
- (5) 栄養学、食品学の基礎的な知識・技術を有し、あらゆる健康レベルおよび全てのライフステージにある人々を対象に、栄養と食生活に関する課題を評価・判定し、適切な栄養・食事管理を総合的にマネジメントする基礎的な能力を有している。
- (6) 地域社会や職域等における健康・栄養問題とその要因を総合的に評価および判定し、効果的な教育や支援活動を実践できる基礎的な能力を有している。
- (7) 望ましい栄養状態、食生活の改善・管理を目的に、関連職種と連携・協働する基礎的な能力を有している。
- (8) 生涯にわたって自ら専門知識や技術の向上をめざして、自己研鑽する能力を有している。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の基本方針）

人間は常に環境の影響を受け、健康はその相互作用によって変化します。「保健医療活動」は、健康の保持・増進、病気の予防、健康の回復を目的に人と環境に働きかけることで、最適な健康状態で生活が維持できるように特定専門分野の知識と技術をもって支援することです。

本学の教育課程は、保健医療における共通概念「人間」「環境」「健康」「保健医療活動」とその関係性を枠組みに、「看護」「栄養と食」に係る専門職業人の育成をめざしています。



本学は、教育課程の基本方針のもと、社会人としての基盤を形成する「基礎教育科目」群からなる基礎教育と看護職あるいは管理栄養士職としての専門職業人の基盤となる「専門基礎科目」「専門科目」群による専門教育で編成されています。

【看護学科】

●基礎教育

基礎教育は、本学部の共通教育課程として、看護学科と栄養学科において共通科目（一部除く）をもって構成されています。基礎教育課程は保健医療の共通概念である「人間」と「環境」を中心に、「学習と思考力」「言語と表現力」「人間と社会」の科目群から構成されています。

●専門教育

看護職としての基盤形成となる「専門基礎科目」および「専門科目」から編成されています。

- (1) 専門基礎科目では、基礎教育科目の学修を活用しながら、看護学の理論と実践の支持基盤として「人間」「環境」「健康」の観点から保健医療福祉に関する学修をします。「個人と健康」「社会と健康」の科目群から構成されています。
- (2) 専門科目では、基礎教育科目と専門基礎科目を基盤にして、看護学の理論と実践を体系的かつ系統的に学修します。「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」「看護の統合と探究」および「公衆衛生看護学」の科目群から構成されています。

【栄養学科】

●基礎教育

基礎教育は、本学部の共通教育課程として、看護学科と栄養学科において共通科目（一部除く）をもって構成されています。基礎教育課程は保健医療の共通概念である「人間」と「環境」を中心に、「学習と思考力」「言語と表現力」「人間と社会」の科目群から構成されています。

●専門教育

管理栄養士職としての基盤形成となる「専門基礎科目」および「専門科目」から編成されています。

- (1) 専門基礎科目では、基礎教育科目の学修を活用しながら、専門科目を修得するうえでの基礎となる知識・技術の修得を目的として系統的に学修します。「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」の科目群から構成されています。
- (2) 専門科目では、基礎教育科目と専門基礎科目を基盤として、管理栄養士に求められる能力を身につけるために、体系的・実践的に学修します。「管理栄養士論」「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」「総合演習」「統合科目」「臨地実習」の科目群から構成されています。

3) アドミッション・ポリシー (入学者の受入れ方針)

本学は、保健医療（看護学、栄養学）の分野における学修と実践活動への意欲ならびに、それらを実現できる適性と能力を備え、特に本学への入学を希望する人を求めます。

- (1) 確かな学力
基礎的な知識をもち、学習意欲が旺盛で、積極的に課題解決に取り組む人。
- (2) 保健医療への関心
人々の健康と生活を支える保健医療への興味・関心をもっている人。
- (3) 豊かな社会性
社会の一員として責任をもち、相手の立場になって考え、様々な人と協力し合いながら行動できる人。
- (4) 強い向上心
保健医療に携わる専門職業人を通して社会の役に立ちたいという意欲をもち、生涯にわたり自己の向上に努力する人。

I-7 履修について

1) 学期

学年を分けて、次の2学期とします。

前期	後期
4月1日～9月30日	10月1日～3月31日

2) 修業年限・在学年限

●修業年限：4年（学則第14条）

4年以上在学し、卒業に必要な単位数を修得した者に卒業を認定します。

●在学年限：8年（学則第15条）

8年を超えて在学することができません。8年で卒業できない場合は、除籍となります。

●休学期間：1年（学則第34条）

ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができます。通算して4年を超えることができません。

3) 授業科目

授業科目は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目および教職に関する科目になります。また、所定の単位数と授業回数が定められており、以下のとおり区分されています。

●必修科目：

卒業までに単位数を修得しなければならない科目です。

●選択科目：

卒業までに定められた各区分の必要単位数以上を修得しなければならない科目です。

●選択必修科目：（栄養学科のみ）

選択必修科目として指定された科目の中から、必要単位数を修得しなければならない科目です。

4) 科目の履修および登録

●履修登録について

- (1) 履修をする科目は、履修登録をしなければなりません。各年次4月の履修登録期間内に1年分を本人が登録します。
- (2) 期間内に履修登録しなかった場合の履修は認められません。
- (3) 各学期の履修訂正期間に履修科目の変更(追加・取消)を行うことができます。
- (4) 在学する学年より上位学年に配当されている科目を履修登録することはできません。
- (5) 休学中または学費未納の学生は、履修登録および受講、試験の受験はできません。
- (6) 同一曜日で同一時限に2科目以上を重複して履修登録することはできません。
- (7) 前年度までに履修し、単位を修得した科目を再度履修登録することはできません。
- (8) 1年間で履修登録可能な単位数には、上限があります(CAP制)。
- (9) 当該年度に単位を修得できず、翌年度以降に再度履修することを再履修といいます。

●CAP制について

大学で学修する講義・演習・実習・実験などの各授業科目には単位数が定められており、単位を修得するためには、大学における授業に加えて予習・復習からなる自己学習が必要です(p.14を参照)。

本学では、学修すべき授業科目を精選して十分な学修時間を確保し、授業内容を深く修得できることを目的にCAP制を導入しています。CAP制とは、各学年が履修できる一年間の総単位数に上限を設定することで、各学科のディプロマ・ポリシーを達成するための学修を計画的に進められるよう適切に授業科目を履修できることを目的とした制度です。1年間の履修科目登録単位の上限は、学科により異なります。また、4月に履修相談会を実施します。

なお、再履修科目はCAP制の対象外となります。

項目	看護学科	栄養学科
履修科目登録単位の上限 (1年間)	40 単位	45 単位
CAP制対象外の科目	<ul style="list-style-type: none"> ・情報管理論 ・スポーツ理論 ・再履修科目 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭一種免許取得に必要な科目 ・再履修科目
卒業要件単位に含まれない科目	<ul style="list-style-type: none"> ・情報管理論 ・スポーツ理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭一種免許取得に必要な科目

※編入生、転学科した学生は、「CAP制」の対象外になります。

I-8 授業について

1) 授業時間

授業時間は、1時限90分を原則としています。

時 限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
授業時間	9:30~11:00	11:10~12:40	13:30~15:00	15:10~16:40	16:50~18:20

2) 休講・補講・補講等（補習）・集中講義

休講、補講、講義変更等の連絡は、掲示板等でお知らせします。

休 講	担当教員等の都合により予定されていた授業が行われないことを「休講」といいます。
補 講	休講等により授業時間が不足した場合、授業回数を補うために「補講」が行われます。
補 講 等 (補 習)	大学が認める特段の理由による欠席として扱われた場合に受けることができます。
集中講義	科目によっては、通常の間割以外のある一定期間（長期休業日等）に集中して授業を行います。これを「集中講義」といいます。

3) 欠席の取扱い

- (1) 欠席により、授業への出席回数不足が生じると、失格となります。
- (2) 授業を欠席した場合は、欠席日を含めた原則5日以内に授業欠席届を学務課に提出してください。
- (3) 遅刻、早退などにより授業を60分以上受講しない場合は、欠席として取り扱います。
- (4) 下記の欠席事由に該当し、かつ必要な手続きを行った場合は、「大学が認める特段の理由」による欠席として扱われ、補講等の配慮を受けることができます。その際は、理由を明確にする証明書類を授業欠席届に添付のうえ、欠席日を含めた原則5日以内に学務課に提出してください。
- (5) 試験を欠席した場合は、p. 11を確認してください。
- (6) 実習を欠席した場合は、p. 18を確認してください。
- (7) その他、疾病等のやむを得ない事由で長期欠席（連続7日以上欠席）する場合は、長期欠席届を学務課へ提出してください。
- (8) 「大学が認める特段の理由」以外の授業の欠席については、特段の指示がない限り病院等の診断書は不要です。

大学が認める特段の理由による欠席の適用範囲

欠席事由	許可日数		必要添付書類等
災害、公共交通機関の障害	当該日のみ		<ul style="list-style-type: none"> ・被災（罹災）証明書 ・事故証明書 ・遅延証明書
忌引き	配偶者	7日以内	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の死亡欄又は葬儀礼状等 ・保護者による証明書（要押印）
	一親等 父母、子	7日以内	
	二親等 祖父母、兄弟姉妹	3日以内	
インフルエンザ等の感染症による出席停止（学生便覧参照）	医師の診断書により、出席停止を必要とされた期間に限る		<ul style="list-style-type: none"> ・医師の診断書 ※病名、受診日および出席停止期間（自宅療養に要する日数または出席停止解除日）の記載が必要。 ・登校許可証明書（感染症用）等
その他教務委員会が認めた事由	欠席事由を証明できる書類等から判断できる期間に限る		<ul style="list-style-type: none"> ・欠席事由を証明できる書類等
<p>【提出期限】</p> <p>① 授業の場合：欠席日を含めた原則5日以内に「授業欠席届」に必要書類を添付し、学務課に提出してください。</p> <p>② 試験の場合：指定された日時までに「追試験受験願」に必要書類を添付し、学務課に提出してください。</p>			

※新型コロナウイルス感染予防に関わる欠席については、別途提示します。

4) 欠席回数の自己管理について

- (1) 授業への出席回数不足（授業出席時間数とその授業時間数の3分の2未満）が生じると、単位を修得できません。出欠席回数については、学生各自の自己管理を徹底してください。
- (2) 科目担当教員や学務課から学生に対し、欠席回数に関する警告連絡はしません。出欠席については自己管理を徹底した上で、確認する場合は学生自身が直接科目担当教員に行ってください。

5) 天候による非常事態への対応

悪天候が予想される場合は、必ず下記の時刻に天気予報を確認してください。なお、休講措置については、確認の意味から学生緊急メールに一斉送信します。メールが受信できない学生は、必ず事前に設定を行っておいてください。

(1) 学生の休講措置の条件

午前7時および午前11時の時点で石狩中部（札幌市、江別市）または石狩全域に次のいずれかの特別警報または警報が発令された場合は、午前および午後の授業を休講にします。

確認時刻	休講する時限
午前7時	1・2時限の授業を休講にします。
午前11時	3・4・5時限の授業を休講にします。

(2) 発令警報の種類

- ① 「暴風特別警報」または「大雨特別警報」が発令されている場合
- ② 「暴風警報」と「大雨警報」が同時発令されている場合
- ③ 「大雪特別警報」または「大雪警報」が発令されている場合
- ④ 「暴風雪特別警報」または「暴風雪警報」が発令されている場合

※1. 注意報は該当しません。

※2. 日本気象協会では、石狩全域を次の3つに分類しています。

- ・石狩北部【石狩市、当別町、新篠津村】
- ・石狩中部【札幌市、江別市】
- ・石狩南部【千歳市、恵庭市、北広島市】

(3) 地震等の災害が発生した時に一斉に緊急メールを送信するので、その指示に従ってください。

6) 授業評価アンケート

履修しているすべての科目について、授業評価アンケートを行います。アンケートの結果は、データ化して記述式回答とともに各科目担当者へフィードバックし、今後の授業改善および組織的教育改善に活用します。集計結果は、掲示および図書館にて開示します。

I-9 試験について

1) 試験の種類・手続き

(1) 定期試験

原則として、学期末（前期末と後期末）の指定された期間に実施する試験です。ただし、学期途中で終了した科目については、学期末以外の時期に実施することがあります。

(2) 追試験

正当な理由によって、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）を欠席した場合に実施する試験です。

評点の上限は、定期試験と同様の扱いとします。届け出をし、教務委員会に認められた場合、各科目1回限り受験することができます。

【追試験受験手続きの流れ】

①「大学が認める特段の理由」による欠席（p. 9の欠席事由に該当）

理由を明らかにする証明書類を「追試験受験願」に添付のうえ、指定された日時までに本人が学務課に提出	➡	教務委員会で認められた場合	無料で受験できます
		教務委員会で認められなかった場合	追試験を受験できません

②「やむを得ない事由」による欠席

理由を明らかにする証明書類を「追試験受験願」に添付のうえ、指定された日時までに本人が学務課に提出	➡	教務委員会で認められた場合	1科目500円で受験できます
		教務委員会で認められなかった場合	追試験を受験できません

※体調不良で定期試験を欠席した場合は、必ず病院等を受診し、診断書を追試験受験願に添付のうえ、学務課へ届け出てください。

診断書には、病名のほか、受診日および出席停止期間（自宅療養に要する日数または出席停止解除日）の記載が必要です。

受診日と診断結果、病名のみでの診断書、また病院等を受診せず、市販薬の領収書等を添付しても証明書としては認められません。

(3) 再試験

定期試験において不合格となり、再試験の該当となった場合は、指定された日時までに学務課窓口にて、本人が受験手続を行ってください。

受験料は1科目2,200円です。

再試験は、原則として各科目1回限り受験することができます。

なお、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）を正当な理由なく欠席した場合は、再試験を受験することはできません。

2) 受験資格

以下のすべてに該当しなければ試験を受けることはできません。受験資格のない者が試験を受けても単位は与えられません。

- (1) 履修登録をしていること。
- (2) 講義、演習、実習および実技における授業出席時間数が、その授業実施時間数の3分の2以上であること。

授業で失格になる欠席回数	
8回実施科目の場合	4回の欠席で受験資格を失います。
15回実施科目の場合	6回の欠席で受験資格を失います。
30回実施科目の場合	11回の欠席で受験資格を失います。

- (3) 授業料その他納付金を納めていること。また、追・再試験の場合は、必要な手続きをしていること。
- (4) 学生証を提示していること。また、追・再試験の場合は、受験許可書または受験票とともに提示すること。

3) 試験の方法

試験は、以下のいずれかの方法で行います。

試験形式	①筆記試験、②口述試験、③レポート試験、④実技試験 ※各科目の試験方法は、シラバスの「評価方法・基準」にて確認してください。
------	---

4) 試験時間

試験の時間割は、必ず掲示で確認してください。

試験時間は、原則1時限60分ですが、科目によっては90分の場合もあります。なお、天候等により試験時間の開始時間が遅くなる場合があります。

時 限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
試験時間	9:30～10:30	11:00～12:00	13:00～14:00	14:30～15:30	16:00～17:00

5) 受験心得

受験にあたっては、下記の注意事項に十分留意のうえ、試験に臨んでください。

また、体調管理を行い、早めに登校するよう心がけてください。特に冬は交通機関の乱れが予想されますので注意が必要です。

- (1) 受験者は、必ず学生証を携行し、試験の際は、試験監督者の見やすい通路側の机の上に提示しなければなりません。
また、追・再試験の場合は、それぞれの受験許可書または受験票も必ず提示してください。
- (2) 学生証を紛失または忘れた場合は、学務課で仮学生証を発行します。仮学生証は、発行当日のみ有効で発行手数料は、500円です。
- (3) 指定された座席で受験してください。教室に座席表が貼られるので確認のうえ着席してください。
- (4) 試験開始10分前には着席してください。

- (5) 試験開始後20分以上遅刻した者は、受験を認めません。遅刻による試験時間の延長も行いません。
- (6) 試験開始後30分が経過するまで及び試験終了5分前からは、退室を認めません。
- (7) 試験場における物品の貸借および私語を禁じます。
- (8) 答案用紙は、原則として再配付しません。
- (9) 机上には、学生証（追試験・再試験受験票）、シャープペンシル、替え芯、鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、時計（時計機能だけのもの）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）、科目担当教員から持ち込みを許可されたものを置くことができます。その他、事前に申請し教務委員会から持ち込みの許可を得たものを置くことができます。それ以外の持ち物は、すべて椅子の下に置いてください。
- (10) 携帯電話や音の出る機器は、電源を切り、かばんに入れてください。
- (11) 答案用紙を提出する場合は、試験監督者の指示する場所に提出してください。
- (12) 体調不良、トイレに行きたい場合などは、挙手をして試験監督者に申し出てください。ただし、原則再入室はできません。
- (13) その他、試験場においては、すべて試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は、不正行為と同様に扱います。
- (14) 解答用紙には、必ず学籍番号と氏名を記載してください。

6) 不正行為

不正行為または疑わしい行為（試験監督者の指示に従わない者も含む）は、即時退室を命じ、それ以降の受験を停止するとともに、当該学期の履修科目のすべてを不合格とし、かつ学則第46条により、懲戒処分を行います。

<不正行為の具体例>

- (1) 問題用紙配付中、配付後及び回収中に、カンニング（ノートやテキストなどを机上等に置いたり見たりすること、他の学生の答案等を見ること、人から答えを教わること）や話をする事。
- (2) 他の受検者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- (3) 回収予定の問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- (4) 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- (5) 「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- (6) 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
- (7) 「解答やめ」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。

I-10 単位・成績について

1) 単位について

単位とは、科目を修得するために必要な学習量を示すもので、単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとしています。例えば、1単位の講義の単位を修得するためには、大学における15時間の講義に加えて30時間の予習・復習の自己学習が伴った45時間の学修をし、授業実施時間数の3分の2以上出席して試験等の評価を受けて合格した場合に授与されます。本学では90分の授業で2時間相当の授業時間とみなしており、90分の講義に対して2時間の予習と2時間の復習が必要です。授業時間だけではなく、自学自習時間として、予習・復習を行う必要がありますので、以下に例を記載します。

(1) 授業形態ごとの単位の計算方法

単位数は、各授業科目に定められており、授業形態によって必要な学習時間が異なります。本学では、次の基準により計算しています（学則第24条）。

講義・演習	講義と演習は、15時間から30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とします。
実験・実習・実技	実験・実習および実技は、45時間をもって1単位とします。
卒業研究等	卒業研究等の授業科目は、その学修の成果を考慮して単位数を定めます。

(2) 単位と自学自習時間について

区分	具体例	必要学修時間	授業時間	授業時間以外の自学自習時間
講義	2単位の講義科目を修得するための学修時間	90時間 (45時間×2回)	30時間 (2時間×15回)	60時間 (4時間×15回)
演習	1単位の演習科目を修得するための学修時間	45時間 (45時間×1回)	30時間 (2時間×15回)	15時間 (1時間×15回)
実習	1単位の実習科目を修得するための学修時間	45時間 (45時間×1回)	45時間 (3時間×15回)	—

2) 単位修得に関する事項

(1) 成績評価

- ① 成績評点は100点満点とし、60点以上を合格、60点未満を不合格とします。
- ② 成績は、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（60点未満）で表示され、可以上を合格とします。
- ③ 追試験の評価は100点満点とし、再試験の評価上限は60点とします。
- ④ 修得した科目（単位）の成績評価は、成績表に記載されます。成績表には、過去に修得したすべての科目の成績が記載されています。

(2) GPA制度

本学はGPA制度を導入しています。GPA制度とは、学生が履修登録した全科目の成績評価、評定に対して点数（グレード・ポイント（以下GP））を設定し、履修登録科目単位数を基に平均値を算出し、履修計画や学修指導、保健師国家試験受験資格希望者選抜、就職活動の際の学校推薦者選抜などに役立てるものです。

GPAの最高値は「4.00」、最低値は「0.00」となります。

① 成績評価とG P

評価区分	評定（英語表記）	付加するG P
100～90 点	秀（S）	4
89～80 点	優（A）	3
79～70 点	良（B）	2
69～60 点	可（C）	1
60 点未満（59～0 点）	不可（D）	0
出席時間数の 2 / 3 に満たない者	失格（P）	0
学期途中での休学、退学	評定不能（W）	0
既修得単位認定科目	認定（N）	G P A の対象としない

② G P A の算出方法

上表の「付加するG P」を基に計算を行います。

$$G P A = \frac{（「秀」の単位数 \times 4 + 「優」の単位数 \times 3 + 「良」の単位数 \times 2 + 「可」の単位数 \times 1）}{総履修登録単位数}$$

※算出された数値の小数点第3位以下は切り捨てる。

③ G P A に関する注意事項

- 転学科（栄養学科）については、単位認定した科目の成績は「認定」となることから、G P A 算出の対象になりません。
- 履修訂正期間内に取り消し手続きを行わなかった場合や履修放棄した場合などは、不合格科目も G P A の算出に含まれます。履修をやめた科目や不必要な科目は、必ず履修登録の訂正期間に取り消しの手続きを行ってください。
- 累積成績に基づく G P A を算出する際に、再履修科目が合格した場合は、当該科目を履修する以前に不合格となった科目（単位数）は計算式（分母）から除きます。
- 入学前に修得した単位のうち、本学で既修得単位と認定した科目は、G P A の対象にはなりません。

(3) 他大学等における科目の履修等（学則第26条参照）

① 教育上有益と認める時は、他大学等との協議に基づき、当該他大学等の科目を履修することができます。修得した単位は、60単位を限度として卒業要件単位として認められる場合があります。

② 入学前の既修得単位の認定（学則第28条参照）

入学する前の大学または短期大学等において修得した単位について、審査を受け承認されると本学の科目として単位が認定されます。なお、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えることはできません。詳細は、「既修得単位認定規程」をご覧ください。

(4) 転学科における科目の履修等

転学科前に在籍していた学科で履修した科目の単位認定は、該当科目において行われます。2年次以降の科目の履修については、担任または学務課で相談してください。

3) 成績通知

最終評価が記載された成績表は、学期末の試験終了後に学生および保護者に通知します。

保護者への送付時期

- 前期：9月下旬
- 後期：3月下旬

Ⅱ 看護学科

Ⅱ-1 看護学科の履修要件（先修条件）

1) 実習の先修条件

臨地実習に係る科目を履修するためには、あらかじめ単位を修得しておかなければならない科目があり、『先修条件』として次のとおり細則で定めています。

臨地実習を受講する際は、各実習のオリエンテーションで「実習要項」を配付しますので、熟読して臨んでください。臨地実習先（病院など）や時期は、科目によって異なります。

【2015 年度以降入学生に適用】

先修条件のほか、専門基礎科目の必修科目については、その科目の開講年度に単位を修得していなければ、次年度開講科目の履修ができません。

科 目	先 修 条 件
看護基礎実習Ⅱ	2年次前期までに開講している専門基礎科目の必修科目すべての単位を修得していること。 看護基礎実習Ⅰ及び看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、援助関係論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。
成人看護実習Ⅱ	3年次前期に開講している成人看護活動論Ⅲの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
高齢者看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。 3年次前期に開講している高齢者看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
小児看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。 3年次前期に開講している小児看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。 3年次前期に開講している母性看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
精神看護実習	4年次前期までに開講している精神看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
在宅看護実習	3年次の臨地実習すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。 4年次前期までに開講している在宅看護論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	3年次の臨地実習すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ	精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び4年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅱ	
公衆衛生看護実習Ⅲ	

2) 臨地実習における追実習と再実習について

(追実習)

臨地実習における追実習とは、「大学が認める特段の理由による欠席」等により、やむを得ず実習を欠席した場合、当該科目を修得するために行う実習をいいます。

- 追実習を受けようとする学生は、「授業欠席届」と「欠席理由を明らかにする証明書類」を当該科目の実習終了後5日以内に学務課に提出する。
- 所定の手続きにより教務委員会で認められた場合、各科目1回限り実習することができる。
- 追実習は原則として履修登録した年度内の全実習終了後、実習施設との調整可能な期間に実施する。ただし、調整が不可能な場合は次年度に実施する。
- 追実習の期間および日程、内容は当該科目欠席日数および学習状況により決定する。
- 単位認定のためには、原則3分の2以上の出席が必要である。
- 評価は、通常の単位認定評価と同様とする。

(再実習)

臨地実習における再実習とは、不合格(60点未満)となった実習科目について当該科目を修得するために行う実習をいいます。

- 再実習は、原則履修登録した当該年度内に行うことはできない。
- 当該年度内に単位が修得できなかった実習科目は、次年度に再履修登録を行い実習に臨まなければならない。
- 単位認定のためには、原則3分の2以上の出席が必要である。
- 評価は、通常の単位認定評価と同様とする。

3) 実習以外の科目の先修条件

また、下記の科目の履修については、次表の先修条件となっている科目の単位を修得していなければならない。

科 目	先修条件 (単位を修得していなければならない科目)
成人看護活動論Ⅰ	成人看護学概論
成人看護活動論Ⅱ	
成人看護活動論Ⅲ	成人看護活動論Ⅰ
	成人看護活動論Ⅱ
高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護学概論
高齢者看護活動論Ⅱ	高齢者看護活動論Ⅰ
小児看護活動論Ⅰ	小児看護学概論
小児看護活動論Ⅱ	小児看護活動論Ⅰ
母性看護活動論Ⅰ	母性看護学概論
母性看護活動論Ⅱ	母性看護活動論Ⅰ
精神看護活動論Ⅰ	精神看護学概論
精神看護活動論Ⅱ	精神看護活動論Ⅰ
公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護活動論Ⅱ	
公衆衛生看護管理論	
公衆衛生看護活動論Ⅲ	公衆衛生看護活動論Ⅰ
	公衆衛生看護活動論Ⅱ
	公衆衛生看護管理論
看護課題研究	看護学研究法
実践総合演習	看護総合実習

Ⅱ-2 看護学科の卒業要件・進級要件

1) 卒業要件

4年以上在学し、卒業に必要な単位数を修得していることが必要です。

科目区分	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目	小計
必修単位	14 単位	23 単位	67 単位	104 単位
選択単位	10 単位以上	4 単位以上	6 単位以上	20 単位以上
小 計	24 単位以上	27 単位以上	73 単位以上	124 単位以上
合 計	124 単位以上			

※養護教諭二種免許状取得申請に必要な科目（情報管理論とスポーツ理論）は、卒業要件に含まれません。

2) 進級要件

上級学年に進級するためには、次の要件を満たしていることが必要です。

● 2年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
1年以上	—	1年次に配当されている 必修科目のすべてを修得	

● 3年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
2年以上	配当されている 必修科目のすべてを修得 選択科目 7 単位以上	2年次に配当されている 必修科目のすべてを修得	

● 4年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
3年以上	—	—	3年次に配当されている 必修科目を 22 単位以上修得

Ⅱ-3 看護学科の資格の取得

1) 看護師国家試験受験資格

本学保健医療学部看護学科を卒業した者は、看護師の国家試験受験資格を取得することができます。

(1) 国家試験申請手続きの流れ

時期 (予定)	内 容
11月	国家試験ガイダンスの実施
12月	大学から願書を一括提出
2月	受験票配付と免許申請ガイダンスの実施
2月	保健師・看護師国家試験
2月	卒業判定会議で卒業の認定
3月	国家試験合格発表

(2) 免許申請について

国家試験合格後の免許の申請は、各自で行ってください。

2) 保健師国家試験受験資格 (選抜制)

本学保健医療学部看護学科が指定する科目を修得して卒業した者は、保健師の国家試験受験資格を取得することができます。定員は 20 名です。

保健師国家試験受験資格取得を希望する者は、公衆衛生看護学履修生審査会の審査が必要なため、次の選考基準をすべて満たしたうえで、申請してください。

(1) 選抜基準

- ① 保健師への興味・関心および学習意欲が認められること。
- ② 2年次までの必修科目の全ての単位を修得していること。
- ③ 2年次までの専門科目 (必修) の全科目成績評価において、GPAが原則2.5以上であること。
- ④ 学業生活全般に安定し、成業の見込みがあること。

(2) 手続きの流れ

選抜方法については、1年次の入学ガイダンスから説明を開始します。

年 次	時期 (予定)	内 容
2年次	2年次後期～	履修申請書、志望理由書配布
3年次	4月	一次審査：履修申請書、志望理由書提出
	5月	二次審査：申請者への面接実施 (成績確認)
	5月	最終審査：審査会による総合審査
	6月	審査結果の通知 (学内公表)
	10月～	対象科目受講

(3) 保健師国家試験受験資格取得要件

卒業要件とあわせて次表の科目を修得していることが必要です。

科目区分	科目名	単位数
専門基礎科目	疫学	2 単位
	保健医療福祉行政論Ⅱ	2 単位
	保健統計学Ⅱ	1 単位
専門科目	慢性看護論	2 単位
	家族看護論	1 単位
	国際看護論	1 単位
	公衆衛生看護学概論	1 単位
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2 単位
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2 単位
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	1 単位
	公衆衛生看護管理論	1 単位
	公衆衛生看護実習Ⅰ	2 単位
	公衆衛生看護実習Ⅱ	2 単位
	公衆衛生看護実習Ⅲ	1 単位

3) 養護教諭二種免許

下記の科目の必要単位数を修得し、かつ保健師免許を取得したうえで、各都道府県教育委員会に申請することによって、養護教諭二種免許を取得することができます。

保健師免許を取得する予定で、養護教諭二種免許も申請しようとする場合は、下記の必要科目の単位を修得してください。養護教諭二種免許取得申請に必要な科目は、次表のとおりです。

なお、※の科目の修得単位は、卒業に必要な単位数および1年間の履修科目の登録上限（40単位）には含みません。

教職免許法施行規則 第66条の6に定める科目		本学の授業科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
日本国憲法	2 単位	法と人権	2 単位
体育	2 単位	スポーツ科学と運動	1 単位
		※スポーツ理論	1 単位
外国語コミュニケーション	2 単位	英語Ⅰ（基礎）	1 単位
		英語Ⅱ（会話）	1 単位
情報機器の操作	2 単位	情報処理	1 単位
		※情報管理論	1 単位

● 免許状申請について

卒業後、保健師免許を取得したうえで、養護教諭二種免許の申請をする場合は、本学で「学力に関する証明書」（上記科目単位の取得を証明するもの）の発行を受けてください。1通500円になります。

北海道で申請する場合は、北海道教育委員会に確認し、各自で申請してください。

必要書類等は、北海道教育委員会のホームページで確認できます。

II-4 教育課程表

(卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧)

看護学科

●看護師・保健師国家試験受験資格および養護教諭二種免許希望者必修科目

科目区分	授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								卒業認定に必要な科目		養護教諭二種免許希望者	卒業必要単位数			
			必修	選択	1年		2年		3年		4年		看護師のみ履修	保健師希望者履修					
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	講義	1	15										●	●	●		
		生物学	講義		1	15													
		化学	講義		1	15													
		論理的思考	講義	2		30										●	●	●	
		情報処理	演習	1		30										●	●	●	
		統計分析法	演習	1		30										●	●	●	
	言語と表現力	英語Ⅰ(基礎)	演習	1		30										●	●	●	
		英語Ⅱ(会話)	演習	1		30										●	●	●	
		英語Ⅲ(読解)	演習		1		30												
		英語Ⅳ(総合)	演習		1						30								
		表現技法Ⅰ(読解・分析)	演習	1		30										●	●	●	
		表現技法Ⅱ(討議・発表)	演習	1		30										●	●	●	
	人間と社会	心理学	講義	2		30										●	●	●	
		倫理学	講義	1		15										●	●	●	
		現代社会論	講義	2		30										●	●	●	
		生態学	講義		1	15													
		生活環境論	講義		2		30												
		教育学	講義		1			15											
		文学と人間	講義		1							15							
		スポーツ科学と運動	演習		1		30											●	
		法と人権	講義		2		30												●
		地域社会文化論	講義		2		30												
		国際社会論	講義		1							15							
		社会貢献と活動	演習		1		30												
小計(24科目)			14	16															
専門基礎科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	講義	2		30									●	●	●		
		形態機能学Ⅱ	講義	2		30									●	●	●		
		感染免疫学	講義	2		30									●	●	●		
		病態学	講義	2		30									●	●	●		
		薬理学	講義	2		30									●	●	●		
		栄養代謝学	講義	2		30									●	●	●		
		生涯発達論	講義	1		15									●	●	●		
		臨床心理学	講義	1		15									●	●	●		
		疾病治療論Ⅰ	講義	2		30									●	●	●		
	疾病治療論Ⅱ	講義	2		30			30						●	●	●			
	社会と健康	環境保健論	講義	1		15									●	●	●		
		社会福祉論	講義	2		30									●	●	●		
		疫学	講義		2				30						●	●	●		
		保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	1					15						●	●	●		
		保健医療福祉行政論Ⅱ	講義		2						30				●	●	●		
		保健統計学Ⅰ	演習	1					30						●	●	●		
		保健統計学Ⅱ	演習		1					30					●	●	●		
		生命倫理	講義		1		15								●	●	●		
小計(18科目)			23	6															
専門科目	看護の基本	看護学概論	講義	2		30									●	●	●		
		看護技術総論	演習	1		30									●	●	●		
		援助関係論	演習	1		30									●	●	●		
		看護技術論Ⅰ	演習	2		60									●	●	●		
		看護技術論Ⅱ	演習	2		60									●	●	●		
		看護技術論Ⅲ	演習	1			30								●	●	●		
		健康教育論	講義	2			30								●	●	●		
		地域保健医療看護論	演習	1		30									●	●	●		
		看護倫理	講義	1			15								●	●	●		
		看護理論	講義	1			15								●	●	●		
		看護基礎実習Ⅰ	実習	1		45									●	●	●		
		看護基礎実習Ⅱ	実習	2		90									●	●	●		

【基礎教育科目】
必修科目14単位
選択科目10単位
以上
計24単位以上修得

【専門基礎科目】
必修科目23単位
選択科目4単位
以上
計27単位以上修得

教育課程表

(卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧)

●看護師・保健師国家試験受験資格および養護教諭二種免許希望者必修科目

科目区分	授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								卒業認定に必要な科目		養護教諭二種免許希望者	卒業必要単位数
			必修	選択	1年		2年		3年		4年		看護師のみ履修	保健師希望者履修		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門科目	成人看護学概論	講義	1			15							●	●	●	【専門科目】 必修科目67単位 選択科目6単位 以上 計73単位以上修得
	成人看護活動論Ⅰ	講義	2				30						●	●	●	
	成人看護活動論Ⅱ	演習	1					30					●	●	●	
	成人看護活動論Ⅲ	講義	1						15				●	●	●	
	成人看護実習Ⅰ	実習	3							135			●	●	●	
	成人看護実習Ⅱ	実習	3							135			●	●	●	
	高齢者看護学概論	講義	1			15							●	●	●	
	高齢者看護活動論Ⅰ	演習	1				30						●	●	●	
	高齢者看護活動論Ⅱ	講義	1					15					●	●	●	
	高齢者看護実習	実習	4							180			●	●	●	
	小児看護学概論	講義	2			30							●	●	●	
	小児看護活動論Ⅰ	演習	1				30						●	●	●	
	小児看護活動論Ⅱ	講義	1					15					●	●	●	
	小児看護実習	実習	2						90				●	●	●	
	母性看護学概論	講義	2			30							●	●	●	
	母性看護活動論Ⅰ	演習	1				30						●	●	●	
	母性看護活動論Ⅱ	講義	1					15					●	●	●	
	母性看護実習	実習	2						90				●	●	●	
	精神看護学概論	講義	2					30					●	●	●	
	精神看護活動論Ⅰ	演習	1						30				●	●	●	
	精神看護活動論Ⅱ	講義	1							15			●	●	●	
	精神看護実習	実習	2							90			●	●	●	
	在宅看護論Ⅰ	講義	2						30				●	●	●	
	在宅看護論Ⅱ	演習	1							30			●	●	●	
	医療安全論	講義	2				30						●	●	●	
	看護学研究法	講義	2						30				●	●	●	
	看護課題研究	演習	2								60		●	●	●	
	リハビリテーション看護論	講義	2							30						
	がん看護論	講義	2							30						
	クリティカル看護論	講義	2							30						
慢性看護論	講義	2							30			●	●			
終末期看護論	講義	1							15							
家族看護論	講義	1				15						●	●			
国際看護論	講義	1								15		●	●			
看護管理論	講義	1						15								
看護教育論	講義	1								15						
在宅看護実習	実習	2							90			●	●	●		
看護総合実習	実習	2							90			●	●	●		
実践総合演習	演習	1								30		●	●	●		
公衆衛生看護学概論	講義	1					15						●	●		
公衆衛生看護活動論Ⅰ	講義	2						30					●	●		
公衆衛生看護活動論Ⅱ	演習	2						60					●	●		
公衆衛生看護活動論Ⅲ	講義	1							15				●	●		
公衆衛生看護管理論	講義	1						15					●	●		
公衆衛生看護実習Ⅰ	実習	2								90			●	●		
公衆衛生看護実習Ⅱ	実習	2								90			●	●		
公衆衛生看護実習Ⅲ	実習	1								45			●	●		
小計 (59科目)			67	25												
合計 (101科目)			104	47												
養護教諭二種免許取得申請に必要な科目	情報管理論	講義	1		15										●	
	スポーツ理論	講義	1		15										●	
合計 (2科目)			0	2												

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

基礎教育科目では24単位以上(必修14単位および選択科目10単位以上)、専門基礎科目27単位以上(必修23単位および選択科目4単位以上)、専門科目73単位以上(必修67単位および選択科目6単位以上)を履修し、合計124単位以上を修得していること。

※原則、基礎教育科目のうち選択科目の履修は開講年次とするが、当該科目の単位修得状況により下級年次配当科目の履修を認める。

【資格取得要件及び履修方法】

1年間の履修科目の登録の上限は、40単位とする。

【保健師国家試験受験資格取得に必要な要件】

卒業要件(124単位)の他に、公衆衛生看護学科目の全て(12単位)を修得すること。なお、専門基礎科目及び専門科目の選択科目のうち、「疫学」「保健医療福祉行政論Ⅱ」「保健統計学Ⅱ」「慢性看護論」「家族看護論」「国際看護論」の単位は必ず選択することとし、合計137単位以上を修得していること。

【養護教諭二種免許取得に必要な要件】

保健師国家試験受験資格取得に必要な科目のほかに養護教諭二種免許取得申請に必要な科目の全てを修得すること。なお、基礎教育科目の選択科目のうち、「法と人権」「スポーツ科学と運動」の単位は必ず修得していること。なお、「情報管理論」「スポーツ理論」の単位数は、卒業要件および履修科目の登録の上限40単位には含まない。

【過年度の開講科目学期変更】

平成26年度：①「成人看護活動論Ⅰ」後期→通年、②「小児看護学概論」後期→前期、③「母性看護学概論」後期→前期

平成27年度：①「保健統計学Ⅰ」前期→後期、②「成人看護学概論」2年前期→1年後期

平成28年度：①「看護技術論Ⅲ」前期→後期

Ⅱ－５ 科目配置表

看護学科

区分	1年次				2年次				
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	1	統計分析法	1				
		生物学	(1)						
		化学	(1)						
		論理的思考 情報処理	2 1						
言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）	1	英語Ⅱ（会話）	1	英語Ⅲ（読解）	(1)			
	表現技法Ⅰ（読解・分析）	1	表現技法Ⅱ（討議・発表）	1					
人間と社会	心理学	2	スポーツ科学と運動	(1)	生活環境論	(2)	教育学	(1)	
	倫理学	1	地域社会文化論	(2)	社会貢献と活動	(1)			
	生態学	(1)	法と人権	(2)					
	現代社会論	2							
基礎教育科目 小計 (内選択科目計)	11科目 (選択3科目)	14	6科目 (選択3科目)	8	3科目 (選択3科目)	4	1科目 (選択1科目)	1	
専門基礎科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	2	形態機能学Ⅱ	2	薬理学	2	疾病治療論Ⅱ	2
		感染免疫学	2	栄養代謝学	2	臨床心理学	1		
病態学		2	臨床心理学	1	疾病治療論Ⅰ	2			
生涯発達論		1	環境保健論	1	生命倫理	(1)	社会福祉論	2	
社会と健康									
専門基礎科目 小計 (内選択科目計)	1科目	2	5科目	8	5科目 (選択1科目)	8	2科目	4	
専門科目	看護の基本	看護学概論	2	看護技術論Ⅰ	2	看護技術論Ⅱ	2	看護技術論Ⅲ	1
		看護技術総論	1			地域保健医療看護論	1	健康教育論	2
		援助関係論	1					看護倫理	1
		看護基礎実習Ⅰ	1					看護理論	1
人間の発達段階と看護活動			成人看護学概論	1	成人看護活動論Ⅰ（通年）	1	成人看護活動論Ⅰ（通年）	1	
					高齢者看護学概論	1	成人看護活動論Ⅱ	1	
					小児看護学概論	2	高齢者看護活動論Ⅰ	1	
					母性看護学概論	2	小児看護活動論Ⅰ	1	
							母性看護活動論Ⅰ	1	
看護の統合と探究						家族看護論	(1)		
公衆衛生看護学									
専門科目 小計 (内選択科目計)	4科目	5	2科目	3	6科目	9	11科目 (選択1科目)	13	
合計 (内選択科目計)	16科目 (選択3科目)	21	13科目 (選択3科目)	19	14科目 (選択4科目)	21	14科目 (選択3科目)	18	
養護教諭二種免許 取得申請に必要な科目			情報管理論	(1)					
			スポーツ理論	(1)					
合計 (内選択科目計)			2科目 (選択2科目)	(2)					

※単位数の（数字）は選択科目、その他は必修科目である。表中の通年科目の単位数は、前期、後期各半分でカウント。

※平成26年度以降開講科目学期変更 「成人看護活動論Ⅰ」：後期→通年、「小児看護学概論」：後期→前期、「母性看護学概論」：後期→前期

※平成27年度以降開講科目学期変更 「保健統計学Ⅰ」：前期→後期、「成人看護学概論」：2年前期→1年後期

※平成28年度以降開講科目学期変更 「看護技術論Ⅲ」：前期→後期

科目配置表

区分	3年次				4年次				単位計 (内選択計)	
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎教育科目	学習と思考力								7 (選択2)	
	言語と表現力						英語Ⅳ (総合)	(1)	6 (選択2)	
	人間と社会						文学と人間 国際社会論	(1) (1)	17 (選択12)	
基礎教育科目 小計 (内選択科目計)							3科目 (選択1科目)	3	30 (選択16)	
専門基礎科目	個人と健康								18	
	社会と健康	疫学	(2)	保健医療福祉行政論Ⅰ 保健統計学Ⅰ	1 1	保健医療福祉行政論Ⅱ 保健統計学Ⅱ	(2) (1)		11 (選択6)	
専門基礎科目 小計 (内選択科目計)	1科目	2	2科目	2	2科目 (選択2科目)	3			29 (選択6)	
専門科目	看護の基本								17	
	人間の発達段階と看護活動	成人看護実習Ⅰ (通年)	1.5	成人看護実習Ⅰ (通年)	1.5	精神看護活動論Ⅱ	1			36
		成人看護実習Ⅱ (通年)	1.5	成人看護実習Ⅱ (通年)	1.5	精神看護実習	2			
		高齢者看護実習 (通年)	2	高齢者看護実習 (通年)	2					
小児看護実習 (通年)		1	小児看護実習 (通年)	1						
母性看護実習 (通年)		1	母性看護実習 (通年)	1						
成人看護活動論Ⅲ		1	精神看護活動論Ⅰ	1						
高齢者看護活動論Ⅱ		1								
小児看護活動論Ⅱ		1								
母性看護活動論Ⅱ		1								
精神看護学概論	2									
看護の統合と探究	医療安全論	2	在宅看護論Ⅰ	2	看護課題研究 (通年)	1	看護課題研究 (通年)	(1)	27 (選択13)	
	看護学研究法 (通年)	1	在宅看護論Ⅱ	1	看護総合実習	2	国際看護論	(1)		
			看護学研究法 (通年)	1	リハビリテーション看護論	(2)	看護教育論	(1)		
			看護管理論	(1)	がん看護論	(2)	実践総合演習	1		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	(1)	公衆衛生看護活動論Ⅰ	(2)	公衆衛生看護活動論Ⅲ	(1)	公衆衛生看護実習Ⅰ	(2)	12 (選択25)	
			公衆衛生看護活動論Ⅱ	(2)			公衆衛生看護実習Ⅱ	(2)		
			公衆衛生看護管理論	(1)			公衆衛生看護実習Ⅲ	(1)		
専門科目 小計 (内選択科目計)	13科目	17	13科目	18	11科目	18	7科目 (選択1科目)	9	92 (選択6)	
合計 (内選択科目計)	14科目 (選択3科目)	19	15科目 (選択3科目)	20	13科目 (選択4科目)	21	10科目 (選択3科目)	12	151 (選択47)	
養護教諭二種免許 取得申請に必要な科目									2 (選択2)	
合計 (内選択科目計)									2 (選択2)	

II-6 オフィスアワー

教員が特定の曜日・時間を定め、学生からの授業や学生生活全般に関する質問、相談に応じるシステムです。

面接を希望する学生は、各教員の実施方法を確認のうえ、面談希望教員と連絡を取り面談日を調整してください。

未決定の教員は、決定後、掲示にてお知らせします。

時間帯 (①②方式)

① 1週間のうち、一定期間を教員の個々のスケジュールにより決定しています。

② 特に時間を設定していません。

面談方式 (ab方式)

a オープン方式：学生は自由に教員を訪問することができます。

b アポイント方式：学生が各教員とアポイントを取ったうえで訪問することができます。

(メールアドレスを参考にしてください。)

看護学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
基礎看護学 分野	教授 (学長)	オホナタ テルミ 大日向 輝美	月～金	②	b	oohinata.t@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	4101
基礎教育 分野	教授	スエシ アツオ 末光 厚夫	月～金	②	b	sue@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1314
	教授	マツオ フミコ 松尾 文子	月～金	②	b	fmatsuo@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1221
専門基礎 教育分野	教授	イエコ マサヒロ 家子 正裕	火 以外	②	b	masa2023@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1211
基礎看護学 分野	准教授	シユドウ エリカ 首藤 英里香	月～金	②	b	eshudo@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1217
	講師	ソノダ リコ 園田 典子	月～金	②	b	sonoda@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1214
	講師	モトヨシ アケミ 本吉 明美	月～金	②	a	a-motoyoshi@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1215
	助教	ヨコヤマ ケイコ 横山 桂子	月～金	②	a	yokoyama@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
成人看護学 分野	教授	フジイ ミヅエ 藤井 瑞恵	月～金	②	b	fujii@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1315
	准教授	オノ ヨシキ 小野 善昭	月～金	②	b	ono-y@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1321
	講師	イトウ マドカ 伊藤 円	月～金	②	a	m-ito@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1323
	講師	カト タクト 加藤 剛寿	月～金	②	b	kato-t@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1322
	助教	イケノ コウヘイ 池野 航平	月～金	②	a	ikeno@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
	助教	イマイズミ リエ 今泉 里絵	月～金	②	a	imaizumi@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
高齢者 看護学分野	教授	ハツリ ユカリ 服部 ユカリ	月～金	②	b	luna@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1212
	准教授	カキ マイ 中田 真依	月～金	②	a	mainakata@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1319
	助教	ナカタク ナツノ 中武 延	月～金	②	a	nakatake@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325

オフィスアワー

看護学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
母性看護学 分野	教授	サイノウ かし 齋藤 早香枝	月～金	②	a	sasai@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1218
	准教授	サワダ エミ 澤田 優美	月～金	②	b	sawada@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1213
	教授	ノザキ ユキ 野崎 由希子	月～金	②	a	nozaki@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1325
小児看護学 分野	教授	カワサキ カズコ 河崎 和子	月	16:00～ 17:30	b	kawasaki@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1313
	助教	ササキ 佐々木 めぐみ	月～金	②	a	sasaki@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1325
精神看護学 分野	准教授	ハラダ コ 原田 由香	月～金	②	b	harada@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1312
	助教	タカハシ マサキ 高橋 正樹	月～金	②	b	masaki-ta@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1325
総合看護学 分野	教授	キヅ ユミ 木津 由美子	月	12:40～ 13:30	a	kizu@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1316
	講師	ヨシダ ユキ 吉田 祐子	月～金	②	b	yuko-y@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1317
地域看護学 分野	教授	コンドウ アキヨ 近藤 明代	月～金	②	a	kondoh@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1220
	准教授	アンドウ ヨコ 安藤 陽子	月～金	②	a	ando@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1219
	准教授	タケザワ ヒロ 武澤 千尋	月～金	②	b	c-takezawa@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1311
	講師	オガワ カツコ 小川 克子	月～金	②	a	k.ogawa@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1222
	講師	カワガuchi ケイシ 川口 桂嗣	水	12:40～ 13:30	a	k-kawaguchi@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1320
	講師	サクナミ アキヨ 作並 亜紀子	月～金	②	a	sakunami@sapporo-hokeniryou-u. ac. jp	1216

オフィスアワー

栄養学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
社会・環境と健康	教授	ハマオカ ナホロ 濱岡 直裕	月～木	②	b	hamaoka@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5308
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	教授	チバ ヒシ 千葉 仁志	月～金	②	b	chiba-h@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5302
	准教授	キンタカ ムリ 金高 有里	月～金	②	b	kintaka@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5307
	講師	ツクイ タカキ 津久井 隆行	月～金	②	b	tsukui@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5103
食べ物と健康	教授	イタガキ ヤスル 板垣 康治	月～金	②	b	itagaki@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5301
	教授	サカモト メグミ 坂本 恵	月～金	②	b	sakamoto@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5105
基礎栄養学	准教授	マツカワ リコ 松川 典子	月～金	②	a	matsukawa@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5310
応用栄養学	講師	イワベ マイ 岩部 万衣子	月～金	②	a	iwabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5102
栄養教育論	教授	モモセ 百々瀬 いづみ	月～金	②	a	momose@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5311
臨床栄養学	教授	オカモト トモ 岡本 智子	月～金	②	b	okamoto@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5306
	講師	ウジケ シ 氏家 志乃	月～金	②	a	ujike@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5305
公衆栄養学	准教授	ツチモト コジ 槌本 浩司	月～金	②	b	tsutimoto@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5106
給食経営管理論	教授	ヤマベ シュウコ 山部 秀子	月～金	②	a	yamabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5107
	講師	ワタナベ 渡辺 いつみ	月～金	②	a	watanabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5104
教職課程	教授	アンネ ヤスマサ 安念 保昌	月～金	②	b	dpforest@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5304
	教授	カト タカ 加藤 隆	月～金	②	a	katotaka@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5312
	助教	アビコ ヒロミ 安彦 裕実	月～金	②	a	abiko@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助教	ムラオ ト 村尾 咲音	月～金	②	a	murao@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助教	ヨネタ ミ 米田 実央	月～金	②	a	yoneta@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助手	ヒダ マミ 樋田 真弓	月～金	②	a	hida@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助手	オサベ タコ 長部 泰子	月～金	②	a	osabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101

Ⅲ シラバス

2021年度以前入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
疫学	講義	3	前		2	濱岡 直裕、小林 宣道	32
保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	3	後	1		○川口 桂嗣、○安藤 陽子、○武澤 千尋、○作並 亜紀子、○榎本 浩司、○近藤 明代	34
保健統計学Ⅰ	演習	3	後	1		志渡 晃一、米田 龍大	36
成人看護活動論Ⅲ	講義	3	前	1		○藤井 瑞恵、○加藤 剛寿、○伊藤 円、○小野 善昭、○池野 航平、○今泉 里絵	38
成人看護実習Ⅰ	実習	3	通年	3		○小野 善昭、○加藤 剛寿、○伊藤 円、○池野 航平、○今泉 里絵、○藤井 瑞恵	40
成人看護実習Ⅱ	実習	3	通年	3		○藤井 瑞恵、○伊藤 円、○加藤 剛寿、○池野 航平、○今泉 里絵、○小野 善昭	41
高齢者看護活動論Ⅱ	講義	3	前	1		○中田 真依、○中武 延	42
高齢者看護実習	実習	3	通年	4		○服部 ユカリ、○中田 真依、○中武 延	44
小児看護活動論Ⅱ	講義	3	前	1		○河崎 和子、○佐々木 めぐみ	45
小児看護実習	実習	3	通年	2		○河崎 和子、○佐々木 めぐみ	47
母性看護活動論Ⅱ	講義	3	前	1		○齋藤 早香枝、○澤田 優美、○野崎 由希子	48
母性看護実習	実習	3	通年	2		○齋藤 早香枝、○澤田 優美、○野崎 由希子	50
精神看護学概論	講義	3	前	2		吉野 淳一、○原田 由香、佐々木 晶子	51
精神看護活動論Ⅰ	演習	3	後	1		○原田 由香、○高橋 正樹	53
在宅看護論Ⅰ	講義	3	後	2		○安藤 陽子、増田 陽介	55
在宅看護論Ⅱ	演習	3	後	1		○作並 亜紀子、○安藤 陽子、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣、増田 陽介、室田 ちひろ、木浪 江衣子、武田 祐貴	57
医療安全論	講義	3	前	2		○吉田 祐子、福岡 啓子、葛西 陽子	59
看護学研究法	講義	3	通年	2		○吉田 祐子、○木津 由美子、末光 厚夫	62
看護管理論	講義	3	後		1	○吉田 祐子、浪岡 まさみ	64
公衆衛生看護学概論	講義	3	前		1	○近藤 明代	66
公衆衛生看護活動論Ⅰ	講義	3	後		2	○武澤 千尋、○川口 桂嗣、○近藤 明代	67
公衆衛生看護活動論Ⅱ	演習	3	後		2	○小川 克子、○武澤 千尋、○川口 桂嗣、○近藤 明代、○作並 亜紀子、渡辺 千鶴	69
公衆衛生看護管理論	講義	3	後		1	○近藤 明代、○安藤 陽子	72
英語Ⅳ(総合)	演習	4	後		1	松尾 文子	73
文学と人間	講義	4	後		1	畠山 瑞樹	75
国際社会論	講義	4	後		1	翁 康健	77
保健医療福祉行政論Ⅱ	講義	4	前		2	○武澤 千尋、○小川 克子、安藤 陽子、○川口 桂嗣、○近藤 明代	79
保健統計学Ⅱ	演習	4	前		1	志渡 晃一、米田 龍大	81
精神看護活動論Ⅱ	講義	4	前	1		○原田 由香、○高橋 正樹	83
精神看護実習	実習	4	前	2		○原田 由香、○高橋 正樹	84
看護課題研究	演習	4	通年	2		○木津 由美子、○吉田 祐子 他	85
リハビリテーション看護論	講義	4	前		2	○小野 善昭、佐藤 由佳子、村井 昌子	87
がん看護論	講義	4	前		2	小島 悦子、大串 祐美子、菊地 美香	89
クリティカル看護論	講義	4	前		2	○小野 善昭、春名 純平、村中 沙織	91
慢性看護論	講義	4	前		2	○藤井 瑞恵、○加藤 剛寿、渡辺 美和、若林 マリア	93
終末期看護論	講義	4	前		1	○伊藤 円、小島 悦子、青田 美徳、梶原 陽子	95
国際看護論	講義	4	後		1	正岡 経子、石川 祐美 近藤 美智子、小池 真理子、北間 砂織、鈴木 幹子	97
看護教育論	講義	4	後		1	○大日向 輝美	99
在宅看護実習	実習	4	前	2		○安藤 陽子、○作並 亜紀子、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	101
看護総合実習	実習	4	前	2		○木津 由美子、○吉田 祐子、他	102
実践総合演習	演習	4	後	1		○木津 由美子、○吉田 祐子、他全看護教員	103
公衆衛生看護活動論Ⅲ	講義	4	前		1	○小川 克子、○武澤 千尋、○川口 桂嗣、○近藤 明代	105
公衆衛生看護実習Ⅰ	実習	4	後		2	○近藤 明代、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	107
公衆衛生看護実習Ⅱ	実習	4	後		2	○近藤 明代、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	108
公衆衛生看護実習Ⅲ	実習	4	後		1	○近藤 明代、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	109

(注) 1. 各科目の責任者は科目担当者の先頭記載者

2. ○印は学科所属の専任教員で医師、看護師、保健師を経験している実務経験者

授業科目	疫学 Epidemiology	担当教員	濱岡 直裕、小林 宣道
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	疫学は、人間集団における疾病および健康現象の発生状況を把握し、それらに影響を及ぼしている要因や条件を総合的に探る学問である。この基本的考え方や方法を理解し、健康問題について論理的な思考で原因を追究する手法を身につけ、疫学の考え方が保健対策や公衆衛生看護活動の基礎となっていることを理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学の概念・考え方、および疫学における各種の指標について理解する。 2. 疫学の研究方法について、特徴と意義、および各方法の差異を理解する。 3. スクリーニングについて、特性と意義を理解する。 4. 保健対策・公衆衛生看護活動において疫学の考え方が実践されていることを理解する。 		
関連科目	公衆衛生看護学の各科目に関連する。		
テキスト	大木秀一著「基本からわかる看護疫学入門（第3版）」（医歯薬出版）		
参考書	適宜紹介する		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	60	
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物		
その他	10		
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に集中し、復習により知識を身につけ、問題演習を通じて知識をアウトプットする能力を養うこと。 ・ 配付資料のみでなく、テキストを3回読み込んで、体系的に復習を行うこと。 		
課題に対するフィードバックの方法	小テストの出題内容は講義中に解説する。		
実務経験を活かした教育内容			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (濱岡)	疫学の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疫学の概念を理解する。 ・ 疫学における「因果関係」とは何かを理解する。 	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
2 (小林)	疫学で用いられる指標 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。比、率、割合。有病率と罹患率と累積罹患割合。 	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
3 (小林)	疫学で用いられる指標 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。相対危険と寄与危険。 	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
4 (小林)	疫学で用いられる指標 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。死亡率、年齢調整死亡率、致命率。 	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
5 (小林)	疫学指標について小まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小まとめ ・ 問題演習 	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
6 (小林)	確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト1 ・ 解答解説を通じて理解を深める。 	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
7 (濱岡)	記述疫学、分析疫学 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記述疫学の目的と特色を理解する。 ・ 生態学的研究、横断研究の目的と特色を理解する。 	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (濱岡)	分析疫学(2)、介入研究	・コホート研究、症例対照研究の目的と特色を理解する。 ・介入研究の目的と特色を理解する。	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
9 (濱岡)	真実と誤差、バイアス、交絡	・調査研究の結果に含まれる真実と誤差について理解する。 ・バイアス、交絡因子、信頼性と妥当性について理解する。	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
10 (濱岡)	疫学調査とEBM・EBN	・疫学調査とEBM・EBNについて理解する。 ・問題演習	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
11 (濱岡)	疫学研究方法について 小まとめ・確認テスト	・小テスト2 ・解答解説を通じて理解を深める。	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
12 (濱岡)	スクリーニングの概要	・スクリーニングの意義・方法を理解する。 ・スクリーニングの実施上の原則、感度と特異度を理解する。	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
13 (濱岡)	スクリーニングの実際	・スクリーニングの実際を理解する。 ・問題演習	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
14 (濱岡)	スクリーニングについて 小まとめ・確認テスト	・小テスト3 ・解答解説を通じて理解を深める。	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
15 (濱岡)	総まとめ	・実際の疫学研究例から、疫学研究の意義を理解する。 ・関連する国家試験問題解説	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。

授業科目	保健医療福祉行政論 I Health & Welfare Administration	担当教員	川口 桂嗣、安藤 陽子、武澤 千尋、 作並 亜紀子、槌本 浩司、近藤 明代
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	保健医療業務は人間の生命や健康に直接関係するため、業務従事者の資格や業務内容及び国民への業務の提供システムについては、多くの法規によって規制されている。さらに、関係する保健医療従事者との連携・協働も法規で求められている。したがって、保健医療行政の役割や仕組み及び関係法規の体系や内容を理解することは、看護職が自己の役割や責任を果たす上で欠かすことのできないことであることを学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療活動における行政の役割と仕組み及び行政の基盤である関係法規の体系を説明できる。 2. 医事と薬事に関する主要な法規の内容を説明できる。 3. 保健衛生と予防衛生に関する主要な法規の内容を説明できる。 4. 学校保健と労働衛生（産業保健）に関する主要な法規の内容を説明できる。 		
関連科目	2年次後期に履修した社会福祉論と密接に関連します。また4年次前期の選択科目、保健医療福祉行政論IIの関連科目です。		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森山幹夫「系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令（第54版）」（医学書院） 2. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる2022-2023」（メディックメディア） 3. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2023/2024」（厚生労働統計協会） 		
参考書	1. その他、必要に応じプリント配付します。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 ・定期試験：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価します（川口12点分、安藤26点分、武澤26点分、作並12点分、槌本12点分、近藤12点分）。
	試験	100	
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健医療福祉行政」のうちの「福祉分野の行政と法規」については、2年次の「社会福祉論」の復習に努め、「保健医療分野」と「福祉分野」を関連させながら学習してください。 ・講義は教科書、配布プリントをもとに進めます。該当部分に目を通して授業に臨んでください。 ・各医療従事者の資格法については、共通の事項である「医療従事者の資格・業務に関する基本的な考え方」として講義し他の部分は省略しますが、医師法、歯科医師法、保助看法については更に特殊の事項についてだけ触れます。 		
課題に対するフィードバックの方法	授業中に到達目標の達成状況について理解度を確認し、講義終了後に全体へのフィードバックを行います。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域保健活動体験を講義に織り交ぜながら、衛生法規を学ぶ重要性を理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (安藤)	衛生法規の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法規の概要 1) 法の概念 2) 法の種類 3) 他の面からみた法の種類 4) 法規の効力の優劣 5) その他の法規に関する事項 2. 衛生法規の概念 3. 衛生法規の分類 	<p>事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。</p> <p>事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。</p>
2 (武澤)	看護法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 	<p>事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。</p> <p>事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。</p>
3 (安藤)	医事法・薬事法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療法 2. 医療従事者の資格・業務に関する基本的な考え方 3. 医師法・歯科医師法 4. 医薬品医療機器等法 5. 麻薬及び向精神薬取締法 	<p>事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。</p> <p>事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）</p>
4 (槌本)	保健衛生法規	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域保健法 2. 健康増進法 3. がん対策基本法 	<p>事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。</p> <p>事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。</p>
5 (川口)	保健衛生法規	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者医療確保法 2. 精神保健福祉法 	<p>事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。</p> <p>事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。</p>

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (近藤)	保健衛生法規	1. 母子保健法 2. 母体保護法	事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。
7 (作並)	予防衛生法規	1. 感染症法 2. 予防接種法	事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。
8 (武澤)	学校保健法規と労働衛生（産業保健）法規	1. 学校保健安全法 2. 労働安全衛生法	事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。

授業科目	保健統計学Ⅰ Health Statistics		担当教員	志渡 晃一、米田 龍大
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位	
授業目的	人口統計と保健・医療統計について学習し、人口構造や動向と社会・医療とのつながりを理解する。			
到達目標	保健・医療・福祉にかかわる統計調査の基礎を学び、健康や疾病の関する統計を取る意味を理解する。			
関連科目	保健統計学Ⅱ			
テキスト	1. 大木秀一「基本からわかる看護統計学入門 第2版」(医歯薬出版株式会社) 2. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2023/2024年度版」			
参考書	1. 鈴木庄亮「シンプル衛生公衆衛生学 2024」(南江堂)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点	
	試験	100	目標の到達状況を定期試験により評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
その他				
履修上の留意事項	・ 授業に集中し、復習により知識を身につけること。 ・ 配付資料のみでなく、テキストを3回読み込んで、体系的に復習を行うこと。			
課題に対するフィードバックの方法				
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、調査研究事例などを講義に織り交ぜ、統計資料の読み方や調査手法、各種指標について理解しやすいように授業を行う。			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習	
1 (志渡)	ガイダンス	講義目的、内容の概説	テキストの目次を読み、事前に科目の全体像を把握しておく(1.5時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
2 (米田)	統計調査概論	統計調査の意義と役割、保健統計の種類	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
3 (米田)	人口統計①	人口静態統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
4 (米田)	人口統計②	人口動態統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
5 (志渡)	人口統計③	生命表、平均寿命、平均余命、健康寿命、年齢調整死亡率、SMR	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
6 (志渡)	社会調査概論①	国民生活基礎調査	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
7 (志渡)	社会調査概論②	国民健康・栄養調査	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
8 (志渡)	保健統計概論①	我が国の保健統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
9 (志渡)	保健統計各論①	患者調査、国際疾病分類、精神保健関連統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10 (米田)	保健統計各論③	感染症発生動向調査	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
11 (米田)	保健統計各論④	学校保健統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
12 (米田)	保健統計各論⑤	母子保健統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
13 (志渡)	医療体制の動向	医療保険制度、公費医療、国民医療費	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
14 (志渡)	保健統計各論③	感染症発生動向調査	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
15 (志渡)	まとめ		

授業科目	成人看護活動論Ⅲ Adult Nursing III	担当教員	藤井 瑞恵、加藤 剛寿、伊藤 円、小野 善昭、池野 航平、今泉 里絵
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	成人期にある対象の紙上事例をもとに、看護過程の一連の流れを理解し展開する。また、この科目の学びを成人看護実習Ⅰ・Ⅱで活用できるようになることを目指し、患者・家族の対象理解を深めるための思考過程を整え、看護問題を解決するための看護実践能力の基盤を培う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護実習に必要な基盤となる知識・技術・態度を身につけることができる。 2. 意図的な情報収集を行うことができ、得られた情報を整理し対象理解ができる。 3. 得られた情報を調べた内容と複合的に関連させ、他者に伝えるアセスメントが記述できる。 4. 情報と情報を結び付けて描画し、対象を全体的に捉えることができる。 5. 対象に合った個別性のある具体的な看護計画を立案することができる。 		
関連科目	成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護実習Ⅰ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野崎真奈美他編「成人看護学 成人看護技術」(南江堂) 2. 矢永勝彦他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院) 3. 北島政樹他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」(医学書院) 		
参考書	科目の中で適宜紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標に沿って、提出物で総合的に評価する。提出物は期限、提出方法を遵守する。提出期限に遅れたものは評価の対象としない。提出物の配点は、アセスメント40%、関連図20%、看護計画20%、シミュレーション20%。詳細はガイダンス時に説明する。
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100%	
その他			
履修上の留意事項	成人看護実習ⅠおよびⅡの先修要件に関わる科目です。この科目は、成人看護学の視点で紙上事例のアセスメントに取り組み、看護過程についての理解を深めるとともに、実習前の準備状況を整えるための内容になっています。看護過程に対する理解を深められるように、それぞれが主体的に取り組み、学習してください。また、シミュレーション演習では臨床場面を想定して行いますので、基礎的な看護実践能力を修得できるよう練習と振り返りを行ってください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに1～3時間の時間を要します。		
課題に対するフィードバックの方法	授業初回開始前の事前課題にはコメントを付して返却する。また、授業開始時に前回提出済みの課題における各教員のコメントを集約し全体に向けたフィードバックの実施や、各グループワーク時に各教員がグループ全体に向け助言を行う。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを演習に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (加藤) (全担当教員)	成人期にある患者・家族の看護過程の展開：アセスメント①	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(科目の目的、方法、評価、成人看護実習との関連) 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. アセスメント 	<p>事前学習：事例の看護過程が展開できるよう病態ならびに治療を予習する。</p> <p>事後学習：アセスメントの見直し、修正</p>
2 (加藤) (全担当教員)	看護過程の展開：アセスメント②	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントの振り返り 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. 関連図の書き方 	<p>事前学習：アセスメントを修正し、他者に説明できるようにしておく。</p> <p>事後学習：アセスメントの修正、関連図の作成</p>
3 (加藤) (全担当教員)	看護過程の展開：アセスメントのまとめ③、関連図①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体像の共有、他者への説明 2. 関連図の描画の視点 	<p>事前学習：前回までのアセスメントを見直し、他者に説明できるようにしておく。また、関連図を作成しておく。</p> <p>事後学習：アセスメントの提出に向けて見直し、修正</p>
4 (加藤) (全担当教員)	看護過程の展開：関連図②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体像の共有、他者への説明 2. 看護問題の明確化 	<p>事前学習：関連図を修正しておく。</p> <p>事後学習：関連図の提出に向けて見直し、修正</p>

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：看護計画の立案①	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 全体像、目標、期待される結果と看護の関連を共有、他者への説明	事前学習：具体的な看護に結びつくよう参考書を選定、持参する。 事後学習：看護計画の見直し、修正
6 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：看護計画の立案②	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 次回シミュレーションのガイダンス	事前学習：看護計画を振り返り、修正しておく 事後学習：看護計画の提出に向けて見直し、修正
7 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：シミュレーション	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※7回、8回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出
8 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：シミュレーション	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※7回、8回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出

授業科目	成人看護実習Ⅰ Adult Nursing : Practicum I	担当教員	小野 善昭、加藤 剛寿、伊藤 円、池野 航平、今泉 里絵、藤井 瑞恵
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	3単位
ねらい	急性期にある患者・家族を多側面からアセスメントし、患者・家族の健康段階に応じた知識・技術・態度を養う。特に、身体侵襲が患者に及ぼす影響について理解を深めるとともに、心身の侵襲を最小限にし、回復のための看護過程を展開する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を理解できる。 2. 急性期（急性疾患、周手術期、慢性疾患の急性増悪等）における患者の健康上の課題をとらえ、看護過程を展開することができる。 3. 患者・家族を生活者の視点でとらえ、回復促進のための援助ができる。 4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。 6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。 		
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。更に関連する科目は、専門基礎科目の「個人と健康」、専門科目の「看護の基本」「看護の統合と探求」全ての科目も関連する。		
実習内容	急性期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 詳細は実習要項を参照のこと。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	100	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってください。また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。		
課題に対するフィードバックの方法	実習記録へのコメントや個別指導を行い、日々の学習内容に対するフィードバックを行います。また、実習中間時点で形成評価のために面談を実施し、目標の達成状況や課題についてルーブリック表を用いながら助言します。		
実務経験を活かした教育内容	急性期領域での勤務経験や実習指導の経験をふまえて、急性期にある対象の看護過程について個々の学生が理解しやすいように指導を行います。		
実習方法	詳細は実習要項を参照のこと。		
実習施設	札幌東徳洲会病院、札幌徳洲会病院、札幌医科大学附属病院、手稲溪仁会病院		

授業科目	成人看護実習Ⅱ Adult Nursing : PracticumⅡ	担当教員	藤井 瑞恵、伊藤 円、加藤 剛寿、池野 航平、今泉 里絵、小野 善昭
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	3単位
ねらい	成人期にある患者・家族が、疾患を抱えながら生活することの意味を捉え、疾患そのものや治療が与える、心身ならびに生活の営みへの影響を理解するとともに、そのセルフケアを支えるための基礎的な看護実践力を修得する。また、継続的な療養生活に向けた社会資源の活用、地域の保健医療福祉チームとの連携、看護の役割を学ぶ。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を統合的に理解できる。 2. 慢性的に経過する疾患を抱える患者・家族の看護上の問題を明らかにし、看護過程を展開できる。 3. 看護実践における人間関係形成の重要性を認識し、相互に成長することの意味を深め、援助的人間関係を形成できる。 4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。 6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。 		
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、成人看護実習Ⅰが主な関連科目となります。更に、専門基礎科目の「個人と健康」、専門科目の「看護の基本」「看護の統合と探求」の全ての科目とも関連します。		
実習内容	原則として、慢性期・回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開します。詳細は、実習要項を参照して下さい。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	実習要項に記載	100	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。
履修上の留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってください。また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。		
課題に対するフィードバックの方法	実習記録へのコメントや個別指導を行い、日々の学習内容に対するフィードバックを行います。また、実習の中間時点で形成評価のために面談を実施し、目標の達成状況や課題についてルーブリック表を用いながら助言します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、成人期にある対象の看護について理解しやすいように実習指導を行います。		
実習方法	詳細は、実習要項を参照して下さい。		
実習施設	北海道がんセンター、札幌溪仁会リハビリテーション病院、北光記念病院、石橋胃腸病院		

授業科目	高齢者看護活動論Ⅱ Gerontological Nursing II	担当教員	中田 真依、中武 延
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	本科目では、紙上事例を用いて老年期にある対象への看護過程を展開し、病院実習に向けた看護実践能力を養う。また、介護老人保健施設での看護の実際や保健医療福祉チームの連携の在り方について理解し、介護老人保健施設実習に向けた基礎的能力を養う。これらの学修を通して臨地実習で活用できることを目指す。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 紙上事例をもとに老年期にある対象への看護過程を展開できる。 <ol style="list-style-type: none"> 事例の健康状態を捉え生活機能の視点でアセスメントできる。 アセスメントを統合し、関連図の作成を経て全体像と看護問題、援助の方向性を明確化できる。 対象の強みを活かし、個別性に応じた看護目標や看護計画を立案できる。 個別指導やグループワークを通して自らの看護過程を振り返り、修正できる。 介護老人保健施設の役割と機能および看護の実際と保健医療福祉チームの在り方について説明できる。 		
関連科目	高齢者看護学概論、高齢者看護活動論Ⅰ、高齢者看護実習		
テキスト	1. 北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」(医学書院)		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」(医学書院) 江川隆子「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」(ヌーベルヒロカワ) 正木治恵「パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開ー老年看護実習ガイド」(照林社) 大川弥生著「生活機能とは何か -ICF：国際生活機能分類の理解と活用 -」(東京大学出版会) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標の到達状況を、事前課題および看護過程課題、小テストから総合的に評価する。
	レポート		1. 事前(春休み)課題：10点
	小テスト	15	2. 看護過程課題：75点 ・課題①：アセスメント 30点、関連図・全体像と看護問題および援助の方向性 20点、看護計画 10点
	提出物	85	・課題②：課題①の修正・改善度 15点
その他		3. 小テスト(介護老人保健施設に関する内容)：15点	
履修上の留意事項	高齢者看護学概論、高齢者看護活動論Ⅰを復習し、必要な準備を整えて臨むこと(個人パソコン、電子媒体、関連資料等)。提出物が遅れた場合は原則評価に影響する。		
課題に対するフィードバックの方法	すべての課題はコメントを記し、返却します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における事例などを織り交ぜ、高齢者看護について理解しやすいよう講義・演習を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (中田)	ガイダンス	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス：紙上事例を用いた看護過程演習 アセスメントガイドの説明 【課題提示】 看護過程の展開	事前学習：シラバスを読む、高齢者看護活動論Ⅰの復習(2時間) 事後学習：演習の準備、課題①の作成(2時間以上)
2 (中田)	講義：老年期にある対象の看護過程①	<ol style="list-style-type: none"> 老年期にある対象の看護過程 アセスメント 	事前学習：講義の予習(2時間) 事後学習：課題①の作成(2時間以上)
3 (中田)	講義：老年期にある対象の看護過程②	<ol style="list-style-type: none"> 関連図、全体像と援助の方向性 看護目標、看護計画 	事前学習：講義の予習(2時間) 事後学習：課題①の作成(2時間以上)
4 (中田)	講義：老年期にある対象の看護過程③	<ol style="list-style-type: none"> 看護経過記録(SOAP) 看護計画の評価 	事前学習：講義の予習(2時間) 事後学習：課題①の作成(2時間以上)
5 (中田)	講義：介護老人保健施設の実際	GS：介護保険施設に勤務する老人看護専門看護師 <ol style="list-style-type: none"> 介護老人保健施設の看護の役割とIPW 	事前学習：講義、高齢者看護学概論の復習(2時間) 事後学習：講義の復習(2時間以上)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (中田)	講義：老年期にある対象の 看護過程④	1. 課題①の返却 2. 全体フィードバック	事前学習：講義の予習（2時間） 事後学習：課題②の作成（2時間以上）
7 (中田 他)	演習：グループワーク	1. 作成した看護過程の共有 グループは2事例の混合グループで構成し、各自が工夫 した点や悩んだ点などを含め、学びを共有する	事前学習：グループワーク準備（1～2 時間） 事後学習：グループワークの復習、課 題②の作成（2時間以上）
8 (中田)	小テスト 講義：老年期にある対象の 看護過程⑤	1. 小テスト（15分） 2. 課題②の返却 3. 全体フィードバック、高齢者看護活動論Ⅱの総括	事前学習：課題①②の復習 事後学習：全体の復習（2時間以上）

授業科目	高齢者看護実習 Gerontological Nursing Practicum	担当教員	服部 ユカリ、中田 真依、中武 延
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	4単位
ねらい	<p>本科目では、健康課題をもつ老年期にある対象への看護実践能力を、看護実践の展開、対人関係の形成、社会資源の活用とチーム連携、倫理的行動と問題認識の4つの課題のもとに修得する。病院実習と介護老人保健施設実習を通して、老年期にある対象を全人的に理解し、対象や家族が望む目標を志向しながら、健康課題や生活機能に応じた看護をエンドオブライフ・ケアの視点で実践する基礎的知識・技術・態度を養う。</p> <p>また、老年期にある対象を取り巻く環境や家族関係を踏まえ、保健医療福祉チームにおける専門職連携の在り方を理解し、看護師の役割を果たすための能力を養う。さらに、実習の過程を通して、看護専門職を志す学生として主体的に学習し、倫理的側面からの学びを経て高齢者看護学の実践に繋がる感性を養う。</p> <p>病院実習では、老年期にある対象への看護を展開し、高齢者への看護実践能力を修得する。介護老人保健施設実習では、施設の機能や役割を理解し、施設内で生活する高齢者への看護の実践を学ぶ。</p> <p>また、病院実習、介護老人保健施設実習を通して高齢者を取り巻く環境や家族関係等をふまえ、社会資源の活用、保健医療福祉チームの連携の実際と看護師の役割、高齢者の倫理的課題を学ぶ。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象を身体的・心理的・社会的・発達の側面、および価値・信念を捉え全人的に理解し、対象や家族が望む援助の方向性について余生を踏まえて説明できる。 2. 老年期にある対象に必要な看護計画を立案し、目標を志向した看護援助を実施・評価できる。 3. 介護老人保健施設の役割と機能を理解し、参加観察や利用者との交流から看護の在り方や利用者を支える専門職の役割・連携について説明できる。 4. 看護学生として責任を自覚し、老年期にある対象の倫理的課題を思考できる。 		
関連科目	高齢者看護学概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護活動論Ⅰ・Ⅱ		
実習内容	病院実習3週間(3単位)と、介護老人保健施設1週間(1単位)の合計4週間(4単位)の実習である。本実習内容の詳細は、実習要項に沿ってガイダンス時に説明する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点 実習目標の到達度を評価基準に基づき評価する。 ※実習要項参照
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100	
その他			
履修上の留意事項	高齢者看護学の講義内容を復習し、講義資料や作成した課題(脳卒中、認知症、事前課題)、高齢者看護活動論Ⅱで利用した記録見本やアセスメントガイドを準備して実習に臨むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	実習期間中には記録に対する個別フィードバックを行い、評価確定後に実習ファイルを返却する。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、老年期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。		
実習方法	実習方法の詳細は実習要項を参照すること。主な内容として、病院実習では老年期にある対象を受け持ち、看護過程を展開する。介護老人保健施設実習では特定の高齢者を受け持たず、施設に入所もしくは通所している様々な高齢者と関わり学びを得る。		
実習施設	病院：愛全病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院、札幌白石記念病院、札幌西円山病院、東苗穂病院、北海道脳神経内科病院 介護老人保健施設：あつべつ、グラーネ北の沢、コミュニティホーム白石、デイ・グリュエーン、ひまわり、もえれパークサイド		

授業科目	小児看護活動論Ⅱ Pediatric Nursing II	担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	本科目では、既習の概論、活動論Ⅰの学習内容を臨地実習で活用できることを目的とし、小児と家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を学ぶ。また、健康な小児との関わりの実際を理解し、子どもの各期の成長発達段階に対応した生活支援のあり方を学ぶ。看護過程演習については、小児看護活動論Ⅰで展開した紙上事例を用いて、立案した看護計画を模擬実践し、実施、評価について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達の特徴を理解し成長発達段階に対応した生活支援について理解する。 2. 紙上事例の小児と家族の健康状態を既習のツールを用いてアセスメントできる。 3. 2をもとに小児と家族の全体像を把握し、看護問題を明確化できる。 4. 3で明らかになった看護問題を解決するため具体的かつ科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。 5. 4の看護計画立案では安全・安楽性、成長・発達を考慮した教育・指導あるいはプレパレーション内容を模擬実践できる。 6. 看護問題が解決、改善されたかを判断する看護評価の視点が考えられる。 7. 小児看護に必要な看護技術について模擬人形を用いて実践できる。 8. 救急外来や集中治療室など状況別にみる子どもと家族の看護について説明できる 		
関連科目	小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰ		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学概論改訂第4版」(南江堂) 2. 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護技術改訂第4版」(南江堂) 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」(医学書院) 2. 新看護観察のキーポイントシリーズ「小児Ⅰ」(中央法規) 3. 医療情報科学研究所「病気がみえる小児科」(メディックメディア) 4. 山本恵子監修「写真でわかる小児看護技術 改訂2版」(インターメディアカ) 5. 山口桂子他「エビデンスに基づく小児看護ケア関連図」(中央法規) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標への到達状況を①②③により総合的に評価する。
	レポート	10	①レポートは、保育園園長の講義より「健康な子どもの成長発達と支援」についてレポートする(10点)。
	小テスト	20	②提出物は、グループでの看護過程および個別のワークシート提出(70点～看護計画10点、媒体20点、実践20点、評価10点、個別ワークシート10点)、各自の役割遂行内容から総合的に評価する。
	提出物	70	③第8回講義終了時に小テストを行う(20点)。
その他			
履修上の留意事項	本科目は、小児看護実習に臨むうえで総括的な意味をもつ科目であるため、各自、小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰを十分に復習して授業に取り組むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	課題提出後、次の講義で全体へフィードバック、または、teamsにてコメントの返却をする。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (河崎)	ガイダンス/入院における子どもの家族の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス 本科目の学習目的・目標および学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項とテキスト・参考図書について説明する。 2) 入院における子どもの家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> ①子どもの入院の特徴 ②入院時の子どもと家族の看護 ③入院中の子どもの看護 	事前学習：小児看護活動論Ⅰで看護展開した事例の記録を見直し、復習しておく(1時間)。 事後学習：講義内容を踏まえ、看護計画の見直しをする(1時間)。 ※講義時には「子どもの成長・発達ノート」を持参する。
2 (河崎)	小児における看護過程の展開 (グループワーク①)	グループ編成表参照 <ol style="list-style-type: none"> ① 看護計画の立案(配点10点) ② 計画実践に必要な媒体の作成(配点20点) 	事前学習：自己の立案した看護計画から必要な媒体について検討してグループワークに臨む(1時間)。 事後学習：看護に必要な媒体等の作成・準備(2時間)
3 (河崎)	小児における看護過程の展開 (グループワーク②)	<ol style="list-style-type: none"> ①看護実践に向けた技術演習 ②模擬実践 	事前学習：看護に必要な媒体等の作成および看護技術演習(2時間) 事後学習：看護に必要な媒体等の作成および看護技術演習(2時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4・5・6 (河崎・ 佐々木)	小児看護技術の実際 (模擬実践および発表)	1) グループでロールプレイ ①看護計画の発表および実践 (配点 20 点) 立案した看護計画に基づき、作成した媒体を用いながらグループごとに模擬実践を行う。各役割の遂行。 ②実践後、役割ごとに意見交換 ③録画データをもとに、実践の振り返りの実施(グループ討議) 良かった点、改善点について意見交換し、グループごとにシートにまとめる。 2) デブリーフィング ※講義終了後、グループでのシート提出(様式5の記載:実施・評価)(配点10点) 個別ワークシートは翌日までに teams へ提出 (配点10点)	事前学習: 模擬実践のロールプレイに向けて各自自己演習してくる(2時間)。 事後学習: 看護実施の評価を様式5に記載し個別に指定日までに提出する。
7 (吉田・ 河崎)	健康な子どもの生活 の実際	保育園園長より講話 ゲストスピーカー: 吉田久美子園長(やしの木保育園) ①コロナ禍における保育園の現状と園児の生活の実際 ②健康な子どもの成長・発達に合わせたかかわり方 ③健康な子どもの遊びと学習 講義後、レポート課題(配点10点)あり。	事前学習: 図書館所蔵の子どもの発達(幼児期)DVDを視聴する(1時間)。 事後学習: 講義終了後、「健康な子どもの成長発達と生活支援」についてレポートし、指定の期日までに teams に提出する(1時間)。 ※期日時間厳守
8 (河崎)	状況別にみる 子どもと 家族の看護/まとめ	1) 救急外来における子どもと家族の看護 2) 集中治療を受ける子どもと家族の看護 3) 活動制限が必要な子どもと家族の看護 4) 隔離が必要な子どもと家族の看護 ※講義終了時、第1・8回の内容について小テストを行います(20点)。	事前学習: 左記の該当テキストを読んできて(30分)。 事後学習: 小テスト後、復習する。自分なりに要点をノートにまとめる(1時間)。

授業科目	小児看護実習 Pediatric Nursing Practicum	担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	小児期の健康課題・問題をもつ子どもと家族に対しての看護実践展開能力、対人関係の形成、社会資源の活用とチームワーク連携、倫理的行動を習得する。対象となる子どもと家族の健康状態を明らかにし、成長発達段階に応じた日常生活支援および健康の回復、維持、増進を図るための看護のあり方について学ぶ。 また、実践を通じて、子どもを主体的な存在として尊重する姿勢を身につけるとともに、小児を取り巻く保健・医療・福祉および教育の連携の重要性を学び、チームにおける看護の役割を理解する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受けもった子どもと家族（対象者）とのコミュニケーション・観察を通して、健康障害および入院に伴う生活の変化や思いを理解し、看護の視点から優先度の高い看護問題を明らかにできる。 2. 明らかになった優先度の高い看護問題に対して看護計画を立案し、対象者の発達段階を考慮し実践できる。 3. 実践した看護が有効であったかを対象者の反応から評価し計画の修正ができる。 4. 実習生として子どもと家族の安全と人権に配慮し、自覚と責任をもち主体的に取り組むことができる。 5. 子どもと家族への看護を通して、医療チームにおける小児看護の専門性と自分の考えを考察できる。 		
関連科目	小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰ・Ⅱ		
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いてオリエンテーション時に説明する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	100%	実習目標到達度を評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。 *評価項目および評価基準は実習要項参照
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	実習病院により対象である小児の健康障害の内容や程度が異なるので、講義・演習の学習内容を復習する他、実習前に提示された事前学習を行い実習に取り組むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	提出された記録は速やかに返却、または口頭でコメントをして、次に活かせるようにします。日々の実習の中での課題については随時、状況に応じてフィードバックしていき、学生自身が改めて考え、自己の力を発揮できるように支援します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、小児期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習は2週間とする。 2. 実習初日は、学内において小児看護技術を中心に演習内容を復習する。 3. 実習2日目から2週目水曜日まで病院実習を行う。 4. 2週目の木・金曜日は意見交換および記録整理を行い、最終日には記録物一式を提出する。 5. 病院実習初日には、各施設の管理者および病棟管理者、指導者より病院および病棟オリエンテーションを受ける。 6. 対象は健康障害をもつ小児およびその家族である。 7. 対象は急性期、慢性期、回復期、周手術期と多岐にわたり、発達段階は乳児期から思春期にわたる。 8. 病院実習の2週目の後半にカンファレンスを行い、受けもち患児と家族への看護から学生間の学びを共有する。 <p>*実習方法の詳細は実習要項をもとにオリエンテーションを実施するため、必ず出席すること。</p>		
実習施設	JCHO 札幌北辰病院、JCHO 北海道病院、札幌北楡病院、市立札幌病院、手稲溪仁会病院、北海道立子ども総合医療・療育センター、札幌医科大学附属病院		

授業科目	母性看護活動論Ⅱ Maternal and Newborn Care Nursing Ⅱ	担当教員	齋藤 早香枝、澤田 優美、野崎 由希子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	母子および家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を習得するために、事例を用いて基本的な看護過程の展開を行う。既習の知識を整理・統合しながら、事例の情報をアセスメントし、健康課題に対する看護計画の立案および実施、評価について学習する。統合体としての対象者の全体像を理解し、健康課題を明らかにする過程で、健康の保持・増進への看護についても学ぶ。母性を取り巻く地域の保健医療福祉チームとの連携・協働について理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例の妊娠期・分娩期の経過を踏まえ、ウェルネス的視点で褥婦の健康課題を考えることができる。 2. 褥婦の健康課題を解決するために必要な看護ケアとその根拠を説明できる。 3. 事例の産褥経過についてアセスメントを行い、個別の看護援助を考えることができる。 4. 早期新生児期にある児が胎外生活に適應する変化の過程をアセスメントすることができる。 5. 事例に必要な看護援助技術を修得する。 6. 事例を通じて、地域の保健医療福祉チームとの連携・協働について考えることができる。 7. 産褥期の看護を展開する上で必要な基本的知識を復習することができる。 		
関連科目	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護実習		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論」(医学書院) 2. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論」(医学書院) 		
参考書	講義の中で、随時紹介します。 *母性看護学のアセスメントに必要なツールは講義時に配布します。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標への到達状況を小テスト、提出物により総合的に評価する。母性看護の対象者に必要な援助を具体的に考えるための課題を課す。詳細は授業で説明する。小テストでは、妊産褥婦および新生児期の看護を展開する上で必要な基礎的知識を問う。
	レポート		
	小テスト	50	
	提出物	50	
その他			
履修上の留意事項	母性看護活動論Ⅰの学習内容を踏まえて授業は行われます。個人の課題学習をしっかりと行って授業に臨んでください。初回の授業を受ける前に、母性看護活動論Ⅰの事例情報と、看護過程授業資料を読んで臨むこと。また、その資料を必ず持参してください。		
課題に対するフィードバックの方法	小テストは次の授業時に返却します。 提出物はコメントし返却します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を講義に組み込み、理解しやすい授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (齋藤)	帝王切開術を受ける患者の看護	帝王切開術を受ける患者の看護を理解する。	事前学習：母性看護活動論Ⅰの事例を確認しておく (2時間) 事後学習：課題の実施 (2時間)
2 (全教員)	産褥期の看護過程①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の褥婦に対するアセスメントを理解する。 2. 褥婦のもつ健康課題を解決するために必要な看護の要点を理解する。 	事前学習：課題の実施 (2時間) 事後学習：課題の実施 (2時間)
3 (全教員)	産褥期の看護過程②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の看護過程の評価について理解する。 	事前学習：課題の実施 (2時間) 事後学習：課題の実施 (2時間)
4 (全教員)	産褥期の看護過程③	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退院後の生活を見通した援助について理解する。 2. 褥婦と新生児の健康課題を解決するために必要な看護看護技術について理解する。 	事前学習：課題の実施 (2時間) 事後学習：課題の実施 (2時間)
5 (全教員)	産褥期の看護過程④	産褥期のマイナートラブルに対する援助を理解する。	事前学習：課題の実施 (2時間) 事後学習：看護技術の予習 (1時間) 課題の実施 (1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (全教員)	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助	産褥期の看護技術（授乳時の援助） 新生児期の看護技術（保清・沐浴、全身観察）	事前学習：看護技術について予習しておく（1時間）。 事後学習：自らの看護技術の到達度を評価し、習得のために自己学習を行う（1時間）。
7 (全教員)	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助	産褥期の看護技術（授乳時の援助） 新生児期の看護技術（保清・沐浴、全身観察）	事前学習：看護技術について予習しておく（1時間）。 事後学習：自らの看護技術の到達度を評価し、習得のために自己学習を行う（1時間）。
8 (齋藤)	まとめ	1. 産褥期にある対象者へのウェルネスの視点での援助を理解する。 2. 早期新生児期にある児のアセスメントと看護援助を理解する。	事前学習：課題の実施（1時間） 事後学習：課題の修正と提出（3時間）

授業科目	母性看護実習 Maternal Nursing Practicum	担当教員	齋藤 早香枝、澤田 優美、野崎 由希子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	妊娠、分娩、産褥という時期にある女性が健康的に過ごし、次世代を育成するという発達課題を達成していく過程を支援するために必要な看護を学ぶ。また保育園における乳幼児保育に参加し、対象者の発達課題に応じた日常生活の援助と子育て支援についての考えを深める。実践を通じて倫理的配慮に基づいた行動および多職種と協働できる基礎的能力を身につける。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期から産褥期までのいずれかの過程にある対象者に対し、健康課題を捉え、看護援助の実際を体験する。 2. 保育を受ける乳幼児とその家族への援助を学ぶ。 3. 受持ち対象者および家族の価値観や権利を尊重し、誠実な態度で実習することができる。 4. 看護学生として他者と協働するうえで基本となる態度を養う。 5. 次世代を育成する発達課題に対する支援と看護者の役割について、自己の学びを考察できる。 		
関連科目	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護活動論Ⅱ		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標到達度を評価基準に基づき、実習場での実習内容・態度・実習記録から総合的に評価する。
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他	100		
履修上の 留意事項	母性看護学に関する基礎知識を身につけて実習に臨むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	実習中に教員および実習指導員から適宜助言、フィードバックを行います。 実習ファイルは評価確定後返却します。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。		
実習方法	詳細は、実習要項およびオリエンテーション資料を参照のこと。		
実習施設	倶知安厚生病院、札幌医科大学附属病院、市立札幌病院、JCHO 北海道病院、札幌徳洲会病院、勤医協札幌病院、吉田学園くりの木保育園、吉田学園さくら保育園、吉田学園やしの木保育園		

授業科目	精神看護学概論 Introduction to Psychiatric Nursing	担当教員	吉野 淳一、原田 由香、佐々木 晶子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	精神看護の概念や精神障がい者問題の社会的背景に対する理解を深めるとともに、人の成長発達の過程や社会状況の中で生じる危機およびその対応について学ぶ。現在の精神保健医療福祉および精神看護の動向、歴史の変遷、精神保健福祉法などの精神医療に関する法律、精神看護における倫理的問題と人権保障について学び、精神看護および精神保健の現状と課題について総合的な理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の考え方について理解できる。 2. 精神保健医療福祉の歴史の変遷と現状について理解することができる。 3. 精神看護学の関連理論およびE.H. エリクソンの発達理論の特徴について理解できる。 4. 各ライフステージにおける精神的健康上の課題について社会的状況と関連付けながら理解することができる。 5. 精神科領域で用いられる看護モデルについて理解することができる。 6. 精神看護領域における人権擁護と倫理について理解できる。 7. 精神を病むということがどのようなことかについて理解を深める。 		
関連科目	精神看護活動論Ⅰ、精神看護活動論Ⅱ、精神看護実習		
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア 改訂第3版」(南江堂) 2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版」(南江堂) 2022		
参考書	* 講義の都度紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	80	試験：定期試験を実施し、学習到達度を評価する (80%) 吉野 20%、原田 50%、佐々木 10%
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	提出物：講義時間内に授業内容に関するワークシートを1回課す (20%)
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。 ・事前学習はテキストの該当ページに沿った予習を、事後学習は配布資料にて復習すること。 [実務経験を活かした教育内容] ・臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神的健康上の課題について理解しやすいように授業を行います。 		
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。		
実務経験を活かした教育内容	・臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神的健康上の課題について理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (原田)	・ガイダンス：本科目の目的・目標・評価方法について ・こころ (精神) の健康とは	・こころ (精神) の健康とは ・精神看護学の基本的な考え方 ・精神障がいとは	・事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。 ・該当ページをテキストで予習し (2 時間)、配布資料にて復習する (2 時間)。
2 (吉野)	こころの機能と発達	J. フロイトのいうこころの構造と発達理論、防衛機制	・該当ページをテキストで予習し (2 時間)、配布資料にて復習する。(2 時間)
3 (吉野)	精神科リハビリテーションとリカバリー概念	・対象喪失という概念とストレングスモデル ・リカバリー	・該当ページをテキストで予習し (2 時間)、配布資料にて復習する (2 時間)。
4 (原田)	ライフサイクルと精神保健①	・エリクソンの心理社会的発達理論 ・ライフサイクルから見た精神看護 ・乳幼児期における精神の健康	・該当ページをテキストで予習し (2 時間)、配布資料にて復習する (2 時間)。
5 (原田)	ライフサイクルと精神保健②	・学童期、思春期・青年期における精神の健康	・該当ページをテキストで予習し (2 時間)、配布資料にて復習する (2 時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (原田)	ライフサイクルと精神保健③	・成人期、老年期における精神の健康	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
7 (原田)	精神看護に用いる理論とモデル	・患者 - 看護師関係 ・セルフケア理論 ・プロセスレコードについて	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
8 (原田)	家庭・学校における精神保健	・家族と精神保健 ・学校と精神保健	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
9 (佐々木)	リエゾン精神看護	・リエゾン精神看護とは ・一般病床における精神科的問題と看護 ・看護師のメンタルヘルス	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
10 (原田)	害精神医学	・災害精神医学とは ・ストレスとメンタルヘルス ・災害と関連する主な疾患	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
11 (原田)	精神保健医療福祉の歴史の変遷	・世界における精神医療の歴史の変遷 ・日本における精神医療の歴史の変遷	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
12 (原田)	精神保健医療福祉に関連した法制度とその活用	・精神保健福祉の概要 ・精神保健福祉に関連した法律	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
13 (原田)	人権を守るために－精神看護における基本的人権と倫理的問題	・人権とは ・医療者が行うべき倫理的配慮 ・精神科医療現場で注意すべきこと ・原則と倫理綱領 ・守秘義務と個人情報の保護 ・患者の権利と人間の尊厳	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
14・15 (原田)	精神を病むということ	映画「A Beautiful Mind」 視聴	・事後学習:ワークシートを整理するとともに、概論での学びについて総復習する(2時間)。

授業科目	精神看護活動論Ⅰ Psychiatric Nursing Ⅰ	担当教員	原田 由香、高橋 正樹
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	精神疾患に関する病態・治療等の基礎的知識ならびに精神疾患のある人とその家族に対する看護について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障がいをもって生きるということについて理解できる。 2. 生物学的モデルとしての脳と精神とのつながり、神経細胞と神経伝達物質について理解できる。 3. 主な精神疾患の病態と診断・治療について理解できる。 4. 精神疾患の代表的な検査と治療法について理解できる。 5. 精神科領域における入院治療と看護の展開について理解できる。 6. 精神障がいをもつ人とその家族に対する看護について理解できる。 7. 地域で暮らす精神障がいをもつ人の生活を支援する方法や制度について理解できる。 		
関連科目	精神看護学概論、精神看護活動論Ⅱ、精神看護実習		
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰ ころの健康と地域包括ケア 改訂第3版」(南江堂) 2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版」(南江堂) 2022		
参考書	* 随時紹介予定		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60点以上を合格とする。 試験：定期試験を実施し、学修到達度で評価する(80%) 提出物：講義時間内に授業内容に関するワークシートを3回課す(20%)
	試験	80	
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
その他			
履修上の留意事項	講義終了後、配布資料に基づき復習すること。		
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する		
実務経験を活かした教育内容	精神科病棟・病院にて実務経験のある教員が具体例を交えて、理解しやすいように授業をします。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (原田)	ガイダンス、精神を病む人の状態について	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学の考え方、その対象、役割について ・精神の病む人の現症と精神症状について 	事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)
2 (原田・高橋)	精神障がいをもって生きるとは	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障がいをもつ人の手記からの学びについてグループ内で意見交換することにより、精神を病む人のつらさや周囲の対応について考える。<2教室> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前：精神障がいをもつ人の手記を読み、学びや気づきについてまとめる(1時間) ・事後：グループワークと報告会を通しての学びについてまとめる(30分)
3 (原田)	脳と精神の繋がり(特別講師：医師)	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と精神機能 ・神経伝達物質と精神機能 	事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)
4 (高橋)	精神科における代表的な検査、身体療法と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科における代表的な検査について ・電気けいれん療法など、身体療法を受ける人の看護について 	事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)
5 (高橋)	薬物療法と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物療法とその副作用について ・薬物療法を受ける人の看護 	事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)
6 (原田)	対象を理解するための考え方：統合失調症①	<ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症の病態と治療 	事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (原田)	対象を理解するための 考え方：統合失調症 ②	・統合失調症をもつ人とその家族への支援	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
8 (原田)	対象を理解するための 考え方：気分障がい①	・気分障がいの病態と治療について	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
9 (原田)	対象を理解するための 考え方：気分障がい ②	・気分障がいをもつ人とその家族への支援	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
10 (原田)	対象を理解するための 考え方：精神作用物 質関連障がい	・物質関連障がい（アルコール関連障がい、精神刺激 薬使用障がい、ゲーム障がい）の病態・治療と看護 ・セルフヘルプグループ	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
11 (原田)	対象を理解するための 考え方：行動症候群 （摂食障がい）パーソ ナリティ障がい、性別 違和	・生理的障がいおよび身体要因に関連した行動症候 群（摂食障がい）、 パーソナリティ障がいの病態・治療 ・性別違和の病態・治療と看護	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
12 (原田)	対象を理解するための 考え方：症性障がい、 ストレス関連障がい、 身体症状症	・神経症性障害の病態・治療と看護 ・ストレス関連障害の病態・治療と看護 ・身体症状症の特徴について	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
13 (原田)	対象を理解するための 考え方：心理的発達の 障がい（CNS）	・発達障がいの病態・治療と看護	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義に関する学びや気づき についてワークシートにまとめ、期限 までに提出する。講義資料の復習・ 教科書の再読をする（1時間）
14 (高橋)	地域での自立、統合へ の支援	・偏見・差別・スティグマ ・精神の健康に関する普及啓発活動 ・多職種によるアウトリーチ（訪問支援）	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
15 (原田)	精神科領域における看 護過程、看護診断	精神科領域で看護過程を展開する際の考え方やアセ スメント、看護問題の特徴について学ぶ。	事前：ゴードンのアセスメントパタ ーンについて復習しておく（20分） 事後：講義資料の復習をする（30分）

授業科目	在宅看護論Ⅰ Home Care Nursing Ⅰ	担当教員	安藤 陽子、増田 陽介
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	病気や障がいを抱えても住み慣れた地域や自宅等で暮らし続けたいという希望を多くの人が持っている。在宅看護は、そのような人々のニーズに応え、QOLを尊重した支援することが求められており、近年その役割は増大している。本科目では、対象となる在宅療養者や家族を理解し、在宅看護の目的と理念、看護職の役割・機能、対象を支援する関係機関や職種、社会資源に関する知識を修得する。また、在宅療養者に対する看護過程の展開方法を修得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅療養者と家族が暮らす地域社会の現状を理解する。 2.在宅看護の理念と目的、特徴を学び、看護職者の役割・機能を理解する。 3.在宅看護の対象となる療養者と家族を理解する。 4.在宅療養者と家族を支援する関係機関・職種、社会資源を理解する。 5.地域包括ケアシステム、制度・政策を理解する。 6.在宅療養者と家族に対する看護過程の展開方法を理解する。 		
関連科目	2年前期 地域保健医療看護論、2年後期 家族看護論 が関連科目である。		
テキスト	臺有佳他編「地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア」(メディカ出版)		
参考書	講義の時に必要な参考文献を紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 ・定期試験(80点):到達目標に関する定期試験(筆記試験)によって、目標の達成度を評価する。 ・課題レポート(20点):講義を踏まえ、「在宅看護の役割」、「在宅看護において必要な態度やコミュニケーション」に関する考えを記述する。
	試験	80%	
	レポート	20%	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	・本科目では、「疾病や障がいを抱え、在宅で暮らし続けている生活者」の視点でこれまでの履修科目と関連づけながら履修してください。		
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートについては、コメントを付して期日までに返却する。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (安藤)	ガイダンス 在宅看護の目的、QOLを考えた在宅看護	・本科目の学習目的・目標および学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト等を説明する。 ・在宅看護の目指すもの、提供されている場、QOL、生活している地域を理解する。	事前:シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく(1時間) 事後:講義を振り返り、学びを深める(1時間)
2 (安藤)	在宅看護の対象者の理解	・家族や住まい、住み方を視野に入れた支援 1.「生活者」の視点から在宅療養者を捉える。 2.在宅療養者の特徴(年齢・疾患・障がいなど)を理解する。 3.ICFについて理解する。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:在宅看護の対象者の特徴について学びを深める(1時間)
3 (安藤)	在宅療養者としての家族	1.システム理論を用いて在宅看護の対象者としての家族の捉え方を理解する。 2.在宅看護の対象者としての家族支援の視点を理解する。	事前:テキストを読み「家族とは」について考えておく(1時間) 事後:「家族支援」の特徴について学びを深める(1時間)
4 (安藤)	在宅看護に求められている看護師の役割と機能	在宅看護に求められる看護師の役割と機能を以下の点から考える。 ・地域ケアシステム ・訪問看護の重要性	事前:テキストを読む(1時間) 事後:「在宅看護の役割」についてレポートを提出する(A4用紙1枚1500字程度)(2時間)
5 (安藤)	在宅療養の支援	1.在宅療養の提供の場と特徴 2.入退院・入退所など、療養の場の移行期における看護師の支援	事前:テキストを読み、在宅療養の場について理解しておく(1時間) 事後:各々の場における看護師の役割の特徴について学びを深めておく(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (安藤)	在宅療養に関わる法令・制度とその活用	1.在宅看護に関わる法令の変遷と歴史的背景 2.在宅看護の法的根拠 3.訪問看護制度とサービス提供の具体的内容	事前:テキストを読み、各法令について学習しておく(1時間) 事後:在宅看護に関わる法令・制度について学びを深める(1時間)
7 (安藤)	在宅療養者と家族を支える社会保障制度	1.在宅療養者を支える社会保障制度 2.訪問看護サービスとケアマネジメントにおける社会資源の活用 3.他職種連携の必要性	事前:テキストを読み、訪問看護制度、ケアマネジメントについて学習しておく(1時間) 事後:訪問看護制度、ケアマネジメントについて学びを深める(1時間)
8 (安藤)	在宅看護過程の特徴	在宅看護過程の特徴を以下の視点で理解する。 ・病院で行われる看護との違い ・対象者の生活や価値観の多様性	事前:テキストを読む(1時間) 事後:在宅看護過程の特徴について学びを深める(1時間)
9 (安藤)	在宅療養上のリスクマネジメント、権利保障	在宅看護におけるリスクマネジメントの特徴を以下の視点から理解する。 ・個人の尊厳や自己決定 ・個人情報開示 ・成年後見、虐待防止 ・災害時の訪問看護の役割と心構え	事前:テキストを読む(1時間) 事後:在宅で注意すべきリスクおよび権利保障について学びを深める(1時間)
10 (増田)	在宅看護介入時期別の特徴	在宅看護介入時期の理解 ・在宅療養準備期 ・在宅療養移行期 ・在宅療養安定期 ・急性増悪期 ・終末期(看取り期) ・在宅療養終了期	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
11 (増田)	信頼関係の構築、コミュニケーションと態度、在宅看護における倫理的課題	1.信頼関係が築かれるコミュニケーション技術のポイント 2.訪問看護において必要な態度 3.在宅看護における倫理的課題	事前:テキストを読み、コミュニケーションについて復習する(1時間) 事後:「在宅看護において必要な態度やコミュニケーションについて」レポートを提出する(A4用紙1枚1500字程度)(2時間)
12 (安藤)	終末期の療養者に対する看護	在宅看護の看護展開(終末期前期、安定期、終末期・臨死期、死亡直後)と看護の特徴	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
13 (安藤)	在宅看護過程の展開方法①	1.在宅看護過程の基本構造とアセスメント 2.アセスメント項目と情報整理の方法	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
14 (増田)	在宅看護過程の展開方法②	アセスメントの構造化による課題の抽出方法や目標設定方法	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
15 (安藤)	在宅看護過程の展開方法③	計画立案(具体策の特徴)と評価方法	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)

授業科目	在宅看護論Ⅱ Home Care Nursing Ⅱ	担当教員	作並 亜紀子、安藤 陽子、武澤 千尋、 小川 克子、川口 桂嗣、増田 陽介、 室田 ちひろ、木浪 江衣子、武田 祐貴
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	在宅看護論Ⅰで学んだ内容を基に、在宅療養者の日常生活を「生活行為」として総合的な視点で捉え、在宅看護を展開する知識・態度・技術を修得する		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅療養者と家族への基本的な生活援助技術を理解する。 2.在宅で行われる医療処置技術について理解する。 3.在宅療養者と家族の特性を踏まえた在宅看護の方法・技術について理解する。 4.在宅療養者と家族の健康状態をアセスメントし、課題を説明する。 5.在宅看護の計画を評価の視点も含めて立案することができる。 6.在宅療養者とその家族と共に支援する他機関や他職種との連携について考えることができる。 		
関連科目	3年前期 在宅看護論Ⅰと密接に関連する。		
テキスト	臺有佳他編「地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア」(メディカ出版)		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1.河原加代子「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 第6版」 2.河原加代子「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(2) 地域・在宅看護の実践 第6版」 		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 ・定期試験(60点):到達目標に関する定期試験(筆記試験)によって、目標の達成度を評価する。 ・課題レポート(10点):ゲストスピーカーの講義を受けた内容に基づき学びを記載する。 ・看護過程演習(30点):到達目標で決める提出物によって評価する。
	試験	60%	
	レポート	10%	
	小テスト		
	提出物 その他	30%	
履修上の 留意事項	在宅看護論Ⅰおよびこれまで学んだ看護技術を復習しておいてください。また、グループワークには積極的に参加し、自己の学びを深めるよう努力してください。		
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートについては、コメントを付して期日までに返却する。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (増田)	ガイダンス 対象特性に応じた看護 ①要介護高齢者の看護	・本科目の学習目的・目標および学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト、演習の進め方、課題等を説明する。 ・糖尿病、高血圧症を抱える要介護高齢者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく(1時間) 事後:講義を振り返り、学びを深める(1時間)
2 (作並)	対象特性に応じた看護 ②認知症、精神疾患の療養者の看護	認知症、精神疾患の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
3 (増田)	対象特性に応じた看護 ③脳血管疾患、脳神経疾患の療養者の看護	脳血管疾患、パーキンソン病の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
4 (室田)	対象特性に応じた看護 ④在宅酸素療法を必要とする療養者および小児の療養者の看護	COPDの療養者および小児の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
5 (室田)	対象特性に応じた看護 ⑤神経難病の療養者の看護	ALSの療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
6 (室田)	対象特性に応じた看護 ⑥終末期の療養者の看護	終末期(がん)の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (武田) 8 (室田)	医療管理を要する療養者の看護とリハビリテーション①②	在宅療養者を支える実践者（特別講師）から講義を受け、在宅看護技術を学ぶ。 1.在宅における皮膚・排泄ケア（褥瘡創傷ケア、人工肛門、人工膀胱、膀胱留置カテーテル）（皮膚・排泄ケア認定看護師） 2.在宅におけるリハビリテーション（訪問リハビリテーション経験者）	事前：テキストを読む（1時間） 事後：「実践者からの講義を受けての学び」についてレポートを提出する（A4用紙1枚1500字程度）（2時間）
9 - 12 (作並) (安藤) (武澤) (小川) (川口)	在宅における看護過程の展開①②③④	グループワーク（4～5名）を実施する。 1.学生個々に取り組んだアセスメントを持ち寄り、グループ内で共有し、全体像と対象理解を共有する。 2.学生個々に作成した看護計画の内容を共有し、訪問時の看護計画を立案する。 3.訪問時の看護計画から一場面を想定したロールプレイを検討する。	事前：個人で考えた看護過程をメンバーに伝えられるように準備する（1時間） 事後：演習の内容を深めておく（1時間）
13 - 14 (作並) (安藤) (武澤) (小川) (川口)	在宅における看護過程の展開⑤⑥	訪問時の看護計画を発表し、ロールプレイを実施する。 1.訪問時の看護計画を発表する。 2.訪問時の看護計画に沿ってロールプレイを実施する。 3.発表とロールプレイを振り返る。	事前：発表準備を行う（1時間） 事後：個人で演習のまとめを行う（1時間）
15 (作並) (安藤) (武澤) (小川) (川口)	在宅における看護過程の展開⑦	1.在宅における看護過程の展開から学んだことをグループで振り返る。 2.在宅看護論Ⅱのまとめ	事前：他グループの発表をふまえ、自己の学びをまとめる（1時間） 事後：グループワークや発表での学びを活かし、事例に関するアセスメント・関連図・看護計画を追加・修正して提出する（2時間）

授業科目	医療安全論 Patient Safety & Disaster Nursing	担当教員	吉田 祐子、福岡 啓子、葛西 陽子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	医療・看護における「安全」の基本的な考え方を理解し、リスクに対する感受性と判断力を磨き、看護の質と医療安全の関連について考える。特に、看護専門職としての責務、医療安全の基本的な考え方、医療安全と看護の質、患者の安全対策、感染防止、事故防止等について理解を深める。また、災害に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期における看護について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を学ぶことの意義を理解する。 2. 医療安全の重要性と医療安全のためのシステムについて理解する。 3. 医療事故に伴う看護職の法的問題について理解する。 4. 医療事故のメカニズムを理解する。 5. 起こりやすい医療事故とその対策について考察することができる。 6. 医療安全管理と医療の質、看護の質との関連について理解する。 7. 感染によるリスクと感染防止対策について理解する。 8. 災害に関する基本的知識を学習し、災害時における看護の役割と機能について理解する。 		
関連科目	看護管理論、看護技術総論の感染予防		
テキスト	山内豊明他編集「医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして」(南江堂)		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 松下由美子他編集「ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全」(メディカ出版) 2. 川村治子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践2 医療安全」(医学書院) 3. 川村治子「医療安全ワークブック (第4版)」(医学書院) 4. 小林美亜編集「医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力 (改訂第2版)」(学研メディカル秀潤社) 5. 河野龍太郎「医療におけるヒューマンエラーなぜ間違える どう防ぐ」(医学書院) 6. 坂本史衣「基礎から学ぶ医療関連感染対策標準予防からサーベイランスまで 改訂第3版」(南江堂) 7. 満田年宏「ナースのための院内感染対策 CDC ガイドラインを中心に考える基本と実践一」(照林社) 8. 酒井明子 菊池志津子編集「災害看護」(南江堂) 9. 黒田裕子 酒井明子監修「新版災害看護一人間の生命と生活を守る」(メディカ出版) 10. 小原真理子監修「いのちとこころを救う災害看護」(学習研究社) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 講義の理解度を評価するための小テストを実施する。小テストの実施方法等は初回講義で説明を行う。目標到達状況を吉田 50% 福岡 25% 葛西 25%の割合で構成した試験により評価する。 試験 80%、小テスト 20%で総合評価を行う。
	試験	80	
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	授業内容の範囲が広いので、テキスト・参考文献で事前・事後学習をしっかりとっておきましょう。		
課題に対するフィードバックの方法	講義の理解度を確認するための問いを設定した小テストのフィードバックを、全体に対して講義の中で行います。		
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した臨床看護に関する実務経験に基づき、現場での事例、医療安全・感染対策、災害看護の取り組みなどを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (吉田)	ガイダンス、医療安全を学ぶ意義と医療安全の動向	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 医療安全にかかわる基本概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全を学ぶ意義 2) 医療安全に関わる動向 3) 医療安全に関する用語の定義 3. 医療安全のためのシステムと国や団体の取り組み 4. 医療安全管理と医療(看護)の質の評価 	事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。
2 (吉田)	医療事故における法的責任	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故に伴う看護職の法的責任 2. 看護倫理と医療安全 	事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3 (吉田)	医療事故のメカニズム と事故防止	1. 医療事故発生のメカニズム 1) ヒューマンエラー 2) 人間特性 3) 環境 2. 事故分析と事故対策	事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。
4 (吉田)	病院組織における医療 安全対策	1. 病院組織における医療安全対策の実際 1) 誤薬 2) 医療機器・医療用具のトラブル 2. チーム医療からみる医療事故とその対策	事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。
5 (吉田)	起こりやすい医療事故 の特徴とその対策①	1. 転倒・転落 2. 患者誤認	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し整理する(1時間程度)。
6 (吉田)	起こりやすい医療事故 の特徴とその対策②	1. 食事・栄養 2. チューブ・カテーテル類のトラブル	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し整理する(1時間程度)。
7 (福岡)	感染の基礎知識	1. 感染に関する基礎的知識 1) 感染とは 2) 医療関連感染について 3) 医療関連感染コントロールが難しくなった背景	事前学習：感染免疫学で学んだことを復習してくる(1時間程度)。 事後学習：事前学習に講義内容を追加・修正してまとめる(1時間程度)。
8 (福岡)	感染予防①	1. スタンダードプリコーションと感染経路別予防策 2. 接触感染予防策 3. 飛沫感染予防策 4. 職業感染防止	事前学習：感染防止策としてのスタンダードプリコーションについてノートに整理する(1時間程度)。 事後学習：事前学習に講義内容を追加・修正してまとめる(1時間程度)。
9 (福岡)	感染予防② 感染予防策	1. 処置・ケア時の感染防止 2. 血流感染防止 3. 尿路感染防止 4. 院内感染肺炎防止 5. 手術部位感染防止	事前学習：感染の種類とその要因及びそれぞれの感染防止策について事前に整理する(1時間程度)。 事後学習：事前学習の内容について授業内容を追加・修正し、理解を深める(1時間程度)。
10 (福岡)	感染に関する法的事 項、認定看護師(感染 管理)の役割	1. 感染症法について 1) 歴史的変遷 2) 基本理念、基本方針等 3) 法律の内容 2. 認定看護師(感染管理)の役割と機能 3. 認定看護師が行う感染管理の実際	事前学習：感染症法について参考書を参考にしてまとめる(1時間程度)。 事後学習：医療における感染によるリスクとその感染予防策と感染管理における看護師の役割について指定用紙にレポートする(1時間程度)。
11 (葛西)	災害看護の歴史的背 景、災害と災害医療・ 災害看護に関する基礎 知識	1. 災害看護の歴史的背景 2. 災害・災害看護の定義 3. 災害の種類による疾病構造の特徴 4. 災害サイクル各期における特徴	事前学習：シラバスを読み、災害看護に対する疑問を明らかにする(1時間程度)。 事後学習：授業を想起し、災害の構造について理解を深める(1時間程度)。
12 (葛西)	災害時の看護活動の実 際と実践に必要な知識	1. 国内外における災害関係機関(行政及び諸機関)の役割・支援体制 2. 災害時要援護者への看護 3. 災害が及ぼす被災者・援助者への心理的影響とケア 4. 災害時に必要な技術・トリアージ法	事前学習：災害サイクル各期の看護活動の特徴と看護の役割について、自身の思考を整理し、疑問を明らかにする(1時間程度)。 事後学習：疑問が明らかになってきたか、授業で学んだことを整理する(1時間程度)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13 (葛西)	災害への備え	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時への備え 2. 初動体制 3. 災害訓練 4. 避難所運営 	<p>事前学習：災害発生を想定し、事前に考えられる準備を列挙する(1時間程度)。</p> <p>事後学習：講義・演習内容から、災害の影響を少なくするための準備について学んだことを整理する(1時間程度)。</p>
14 (葛西)	災害看護の重要性と看護師が果たす役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時の看護活動の実際と実践に必要な知識 2. 災害時における看護師の役割 3. 災害への備え 	<p>事後学習：災害看護の重要性と災害時に看護職が果たす役割について学んだことを整理する(1時間程度)。</p>
15 (吉田)	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート課題へのフィードバック 2. 看護学生として遭遇しやすい事例の検討 3. 全体を通じた振り返り 	<p>事前学習：これまでの学習内容について振り返っておく(1時間程度)。</p> <p>事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する(1時間程度)。</p>

授業科目	看護学研究法 Research Methods in Nursing	担当教員	吉田 祐子、木津 由美子、末光 厚夫
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	看護学の研究の意義・目的、研究方法、研究論文の書き方、発表等に関する基礎知識を習得し、看護課題研究で活用できることを目的とする。研究を進めるために必要な文献検索の方法や活用方法、研究論文の読み方、研究デザイン、データ収集方法と分析方法について学ぶ。また看護研究における倫理について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の研究の意義と必要性を理解できる。 2. キーワードを用いて文献検索ができる。 3. 研究課題にマッチした研究デザインと研究の種類について理解できる。 4. 看護研究を進めるにあたって研究者に求められる倫理について理解できる。 5. 量的研究・質的研究の種類と進め方を理解できる。 6. 看護研究論文をクリティークし、他の学生と討議ができる。 7. 論文作成までの過程を述べるができる。 		
関連科目	既習の「表現技法」「統計分析法」と臨地実習を含めた看護全般の科目と関連します。また4年次の「看護課題研究」密接に関連します。		
テキスト	南裕子「看護における研究 第2版」(日本看護協会出版社)		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 谷津裕子「Start Up 質的看護研究」(学研メディカル秀潤社) 2. 横川博英(監) 藤林和俊「看護研究をはじめのための統計と臨床疫学—研究デザインから検定方法の理解に役立つ」(学研メディカル秀潤社) 3. 李 節子「看護研究こころえ帳 -- 研究の基本からプレゼンテーションまで」(医歯薬出版) <p>* 授業時にも参考文献を提示します。</p>		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標の到達状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする。
	レポート	50	①最終レポート(50点) ・最終レポートが定期試験に該当しますので、提出しなかった場合は評価の対象になりません。
	小テスト		・最終レポート(50点)として、学修の到達度を評価する。
	提出物	50	②提出物 (50点) ・課題(文献検索リスト・文献クリティークの成果)などを課し、提出物(50点)として学修の到達度を評価する。
その他			
履修上の留意事項	4年次の「看護課題研究」につながる科目です。基本をしっかりと学んでください。実際に文献を読んだり、文献検索をする方法を演習しますので、その後は自ら図書館で文献検索をしたり、文献を読み、文献収集をする力と文献を読む力をつけていきましょう。提出物の評価点が高いので、期限を守って提出してください。		
課題に対するフィードバックの方法	授業内で全体へフィードバックします。		
実務経験を活かした教育内容			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (吉田)	研究とは何か	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (本科目の目的、目標、内容、評価) 2. 研究とは 3. 看護研究の意義と目的 	事前: シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく(1時間) 事後: テキストと配付資料を用いて看護研究の意義・目的をノートにまとめる(2時間)。
2 (吉田)	研究過程の概観 研究デザインと研究方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究のプロセス 2. 研究デザインと研究方法 	事前: テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後: テキストと配付資料を読み、授業内容をノートに整理する(2時間)。
3 (吉田)	研究における倫理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究における倫理原則 2. 看護研究における倫理の必要性 3. 研究倫理に関わる指針 	事前: テキストの該当ページを読み、不明な用語は調べておく(1時間)。 事後: テキストと配付資料を用いて看護研究倫理的に進めるために必要な視点をノートに整理する(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (吉田)	文献検索と文献検討①	1. 文献検討の意義・目的	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
5 (吉田・木津他)	文献検索と文献検討②	1. 文献検索の方法 2. 文献を入手する方法 * 図書館の司書の方の支援を受ける	事前：テキストの該当ページを読み、興味関心のある言葉を考えておく(1時間)。 事後：授業で体験した文献検索を実際に行い、リストを作成し、文献を1つ取り寄せる(2時間)。
6 (末光)	研究と統計	1. 研究に用いられる統計の基本	事前：1年次の統計に関する授業を復習する(1時間)。 事後：配付資料を読み直し、授業内容をノートに整理する(2時間)。
7 (吉田)	量的研究法①	1. 量的研究とは何か 2. 量的研究の特徴と種類	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
8 (吉田)	量的研究法②	1. 量的研究のデータ収集方法	事前：事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
9 (吉田)	量的研究法③	1. 量的研究論文のクリティーク	事前：配付された量的研究論文を読みクリティークする(2時間)。 事後：授業で行ったクリティークを見直しノートに整理する。
10 (吉田) (木津)	演習：看護課題研究発表会聴講	1. 4年次の看護課題研究発表会の聴講	事前：発表会参加のオリエンテーションを受け、聴講の方法を確認する(1時間)。 事後：発表会の学びをノートにまとめる(2時間)。
11 (吉田)	質的研究法①	1. 質的研究とは何か 2. 質的研究の特徴と種類	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
12 (吉田)	質的研究法②	1. 質的研究におけるデータ収集と分析方法	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
13 (吉田)	質的研究法③	1. 質的研究論文のクリティーク	事前：配付された量的研究論文を読みクリティークする(2時間)。 事後：授業で行ったクリティークを見直しノートに整理する。
14 (吉田)	研究成果の発表 看護課題研究テーマ	1. 研究成果の発表方法 2. 研究論文の構成と論文作成時の留意事項 3. 看護課題研究にむけての研究テーマ調査	事前：看護課題研究で取り組みたいテーマを考える(1時間)。 事後：自分の研究テーマを明らかにし、テーマ希望調査表を作成する(2時間)。
15 (吉田)	研究計画書作成	1. 研究計画書作成の意義と構成 2. 研究計画書の作成過程の実際	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。

授業科目	看護管理論 Nursing Management	担当教員	吉田 祐子、浪岡 まさみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	看護におけるマネジメントの概念、看護サービスのマネジメントの概念について学び、看護組織を運営していくために必要な考え方を理解する。また、質の高い看護サービスを提供するための看護管理のあり方、多様な看護実践の場における看護マネジメントの実際を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の概念、看護を取り巻く諸制度について理解する。 2. 看護サービスのマネジメントの概念について理解する。 3. マネジメントに必要な知識と技術について理解する。 4. 多様な看護実践の場における看護マネジメントのあり方について理解する。 		
関連科目	医療安全論		
テキスト	上泉和子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理（第10版）」(医学書院)		
参考書	手島恵・藤本幸三編集「看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル（改訂第2版）」(南江堂)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 試験（70%）とレポート（30%）の総合で60%を満たすものを合格とする。 試験は、到達目標の達成を評価する。 レポートは、看護管理を考える上で基本となる概念についての理解度を評価する。
	試験	70	
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物 その他		
履修上の留意事項	看護管理は、既習の授業すべてに関連があります。これまでの学修を振り返り授業に臨んでください。		
課題に対するフィードバックの方法	レポートについてのフィードバックを第8回目の講義で全体に行う。		
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した看護管理に関する実務経験に基づき、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (吉田)	ガイダンス、 看護管理の概念	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 看護におけるマネジメントの概念と変遷 <ol style="list-style-type: none"> 1) マネジメントとは 2) マネジメントプロセス 3) マネジメントの変遷 	事前学習：シラバスを読み、これまでに学んだことからこの授業内容についての疑問点を明らかにしておく。テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：授業内容を整理する。
2 (吉田)	看護組織論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織構造・理念と組織図 2. 看護組織 	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
3 (吉田)	看護サービスの マネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. サービスとは 2. サービスの質 3. サービス提供体制 	事前学習：看護サービスのマネジメントについて、テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
4 (吉田)	看護を取り巻く 諸制度、政策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職と法制度 2. 看護職の教育制度 3. 医療制度 	事前学習：看護職に関連する法律および医療制度について、これまで学んだ授業科目の内容、テキストの該当部分から整理する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
5 (浪岡)	人的資源活用論①	<ol style="list-style-type: none"> 1. モチベーション 2. ストレスマネジメント 3. 労務管理・ワークライフバランス 	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (浪岡)	人的資源活用論②	1. 継続教育 2. 目標管理 3. キャリア開発	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。
7 (浪岡)	リーダーシップ論	1. リーダーシップとメンバーシップ 2. 看護管理者の役割	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。
8 (吉田)	まとめ	1. レポート課題へのフィードバック 2. 全体を通した振り返り	事前学習：これまでの学習内容について振り返っておく。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。

授業科目	公衆衛生看護学概論 Introduction to Public Health Nursing	担当教員	近藤 明代
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	公衆衛生看護の概要と社会的機能、活動目的・理念、対象や展開方法の特性を理解する。		
到達目標	1.公衆衛生看護の発生と発展過程を学び、公衆衛生看護の社会的機能を理解する。 2.公衆衛生看護の定義、目的、役割、理念について理解する。 3.公衆衛生看護の対象特性を理解する。 4.公衆衛生看護の展開方法の特性を理解する。		
関連科目	3年次後期から開始する公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎になる。		
テキスト	標美奈子著者代表「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」(医学書院) 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる」(メディックメディア) その他授業に必要な資料は、その都度配布する。		
参考書	大国美智子「保健婦の歴史」(医学書院) リリアン・ウォルド「ヘンリー・ストリートの家」(日本看護協会出版会) 木下安子「近代日本看護史」(メヂカルフレンド社) その他授業に必要な文献は、その都度紹介する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	100	公衆衛生看護の概要と社会的機能、活動目的、理念、対象や展開方法の特性に関する筆記試験を実施し、目標の到達度を評価する。筆記試験は授業終了後の定期試験期間前に行う。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	・毎回ラバスの「学習の主題」「授業内容」を念頭に置きながら授業内容を理解する。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問の解決は先延ばしにせず、その場あるいは授業終了後に担当教員に質問してください。		
課題に対するフィードバックの方法	最終授業においてポイントを押さえながら全体をフィードバックする。		
実務経験を 活かした教育内容	保健師として公衆衛生看護活動を実施してきた実務経験者の立場から、実際の活動事例も紹介しながら本科目の目標である公衆衛生看護学の基本となる考え方を伝えます。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	公衆衛生看護の概念/定義、社会的機能/、活動の場	本科目の目的・目標、授業内容と評価方法、履修上の留意点。 公衆衛生看護の概念/定義、社会的機能/役割、活動の場。	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
2	公衆衛生看護活動の理念と理論	公衆衛生看護の理念 公衆衛生・公衆衛生看護の発展過程と諸理論	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
3	公衆衛生看護の対象の特性	公衆衛生看護の対象の特性	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
4	公衆衛生看護の歴史	公衆衛生看護の発生と発展過程	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
5	公衆衛生看護展開方法の特性①	公衆衛生看護展開方法の全体像 地域社会を対象とする看護過程	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
6	公衆衛生看護展開方法の特性②	個人・家族・グループ・地域組織の健康課題への介入方法	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
7	公衆衛生看護展開方法の特性③	地区担当・業務担当 「地域における保健師の保健活動に関する指針」 (平成25年4月19日付 健発0419第1号)について	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
8	公衆衛生看護展開方法の特性④	関係機関、関係職種、地域資源との連携と地域システム構築	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。

授業科目	公衆衛生看護活動論 I Public Health Nursing I	担当教員	武澤 千尋、川口 桂嗣、近藤 明代
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	地域で生活する個人・家族の健康の維持増進・疾病の予防と回復に向けた支援方法（健康相談、家庭訪問、健康診査、健康教育、グループ支援）を理解し、各方法を展開するための基礎的能力を習得する。		
到達目標	1.公衆衛生看護で用いられる支援方法の全体構造を理解する。 2.個人・家族の健康問題の解決・課題達成のために用いられる支援方法（健康相談、家庭訪問、健康診査、健康教育、グループ支援）の特徴、内容を理解する。 3.健康相談、家庭訪問、健康教育、グループ支援を展開する基礎的能力を習得する。		
関連科目	2年後期 家族看護論・健康教育論、3年前期 公衆衛生看護学概論、4年後期 公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱが関連科目である。		
テキスト	中村裕美子編「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術」(医学書院) 村嶋幸代、岸恵美子編「保健学講座 公衆衛生看護支援技術」(メヂカルフレンド社)		
参考書	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著「最新保健学講座別巻 1 健康教育論」(メヂカルフレンド社) ※その他は講義の際に必要な参考文献を紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	70	・定期試験 (70点) : 到達目標に関する定期試験 (筆記試験) によって、目標の達成度を評価する。武澤:35点 川口: 35点 ・家庭訪問演習 (15点) : 保健師が実施する家庭訪問による支援方法について、①家族アセスメント、②家庭訪問計画立案、③家族の主体性を促す関わり観点で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30	・健康教育演習 (15点) : 保健師が実施する小集団を対象とした健康教育の特徴を踏まえた支援について、①地域特性を踏まえた集団のアセスメント、②健康教育事業の立案、③住民自らが健康を管理するための集団への支援方法の観点で評価する。
その他			
履修上の留意事項	・授業で学んだ内容は、教科書や参考文献を活用して自ら学びを深めましょう。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度解決できるよう主体的な学習行動を心がけましょう。		
課題に対するフィードバックの方法	・提出物はコメントを付して返却する。		
実務経験を活かした教育内容	・地域での保健師活動の実務経験に基づき、公衆衛生看護場面で用いる支援方法について授業を行います。 ・地域での事例などを基にした演習を実施し、支援方法の実際をイメージ出来るように授業を展開します。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (武澤)	・公衆衛生看護における支援方法の全体構造と特徴 ・公衆衛生看護における健康相談	1.個人・家族・小集団を対象とした健康問題の解決・課題達成のための支援方法の意義 2.公衆衛生看護における健康相談の概念、目的、対象 3. 公衆衛生看護における健康相談の位置づけ、展開方法、特徴、留意点	事前：公衆衛生看護学概論で学んだ公衆衛生看護展開方法の特性について復習する (1時間) 事後：テキストや参考文献を活用し、学習した内容を深める (1時間)
2 (武澤)	・公衆衛生看護における健康診査・検診	公衆衛生看護における健康診査・検診の目的、種類、対象、方法、留意点	事前：テキストや参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく (1時間) 事後：テキストや参考文献を活用し、学習した内容を深める (1時間)
3-4 (武澤)	・公衆衛生看護における家庭訪問①②	公衆衛生看護における家庭訪問の目的、対象、機能、特徴、展開方法、留意点	事前：家族看護論で学習した内容を復習して準備を行う (1時間) 事後：テキストや参考文献を活用し、学習した内容を深める (2時間)
5-6 (武澤) (川口)	公衆衛生看護における家庭訪問の展開①②	1.提示された事例を家族アセスメントの視点で分析し、健康課題を明確化する。 2.対象への支援目標を立てる。 3.家族を一単位とした支援計画を立案し、評価方法を検討する。 4.家庭訪問の演習 (ロールプレイ) の準備を行う	事前：課題に対し個人およびグループでの取り組みを行う (1時間) 事後：授業中に作成した課題について確認し、修正を行う (2時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 - 8 (武澤 川口 近藤)	公衆衛生看護における 家庭訪問の展開③④	1.保健師役として、実際の家庭訪問場面を展開する。 2.実施した家庭訪問場面を評価し、次回計画を検討する。 3.ロールプレイの体験から家庭訪問の留意点を学ぶ。	事前：発表練習を行う（1時間） 事後：対象者の反応から自身が実施した支援を評価し提出する（2時間）
9 - 10 (川口)	公衆衛生看護における 健康教育①②	1.公衆衛生看護における健康教育の目的、対象、展開方法、特徴、留意点 2.健康教育の企画・実施・評価	事前：健康教育論で学習した内容を復習して準備を行う（1時間） 事後：テキストや参考文献を活用し、学習した内容を深める（1時間）
11 - 13 (川口) (武澤)	公衆衛生看護における 健康教育の展開①②③	1.提示された小集団をアセスメントし、健康課題を明確化する。 2.小集団への支援目標を立てる。 3.小集団への支援計画を立案し、評価方法を検討する。 4.健康教育で使用する教育媒体を作成する。 5.健康教育の展開（ロールプレイ）の準備を行う。	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（2時間） 事後：授業中に作成した課題について確認し、修正を行う（2時間）
14 - 15 (川口) (武澤) (近藤)	公衆衛生看護における 健康教育の展開④⑤	1.対象集団のメンバー役と保健師役、ロールプレイ観察者役を設定し交互に演じる。 2. ロールプレイの体験から小集団（グループ）支援の留意点を学ぶ。	事前：発表練習を行う（1時間） 事後：小集団への健康教育の特徴と留意点をレポートにして提出する（2時間）

授業科目	公衆衛生看護活動論Ⅱ Public Health Nursing II	担当教員	小川 克子、武澤 千尋、川口 桂嗣、 近藤 明代、作並 亜紀子、渡辺 千鶴
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	2単位
授業目的	コミュニティ（地域共同社会）の健康課題の明確化、健康と福祉水準の向上を図る保健計画の立案、介入方法の選択・評価を展開する基礎的能力を身につけるために、地域住民を対象とする公衆衛生看護過程の理論・方法を用いて地域のコミュニティアセスメントを演習する。また、住民自身の、住民自身による、住民自身のための保健施策実現のために、住民と共働して実施する地域活動のあり方を学習し、人々が所属する集団や地域組織の健康課題の解決、健康レベルの向上を構成員自身が主体的に実現する過程とその支援方法を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康を規定する環境としての地域社会を理解し、公衆衛生看護における地域社会の概念規定を説明できる。 2. コミュニティを看護の対象として認識し、コミュニティの健康課題を抽出、地域保健計画や公衆衛生看護計画の立案、実施、評価、即ちコミュニティを対象とする看護過程を展開できる。 3. ヘルスプロモーションの理念に基づき、コミュニティで生活する人々が自らの健康を維持・増進・回復するための主体的・自主的な言動を支援する理論、展開方法を理解し、支援のための基礎的知識を説明できる。 4. 地域組織、地域ケアシステム構築のための支援方法を説明できる。 5. 対象別健康課題別公衆衛生看護活動の展開方法を説明できる。 		
関連科目	履修した全ての科目に関連があります。また、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅲの関連科目です。		
テキスト	松田正己他「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」（医学書院） 佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド（第2版）」（医歯薬出版） 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2023/2024」（厚生労働統計協会） 医療情報科学研究所編「公衆衛生がみえる2022-2023」（メディックメディア）		
参考書	授業ガイダンス又は授業時間に随時紹介します。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点
	試験	90	・定期試験（90点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価します（小川13点分、武澤20点分、川口25点分、近藤16点分、作並16点分）。 ・コミュニティ看護アセスメント演習において、レポートを①地域で生活する人々の健康と生活実態に必要なデータを特定、収集できる②収集したデータを整理し、分析を行うことができる③地域の概要、地域の基本構造（コア）から地域に住んでいる人々の特性を把握するの観点で評価します（10点）
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	・本科目では健康課題を、対象別、課題別に捉えます。学習内容が多いため、毎回の授業内容を整理し、復習を行い、確実に理解してください。 ・グループやコミュニティを対象とする支援方法を学びます。公衆衛生看護活動論Ⅰでの学習する支援方法と関連づけて学習してください。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度担当教員に質問してください。		
課題に対するフィードバックの方法	・授業ごとに理解度を確認し、授業最後に全体にフィードバックを行います。 ・演習は発表を行い、フィードバックを行います。また、レポートは添削を行い返却します。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の体験を講義に織り交ぜながら、公衆衛生看護活動の実践に必要な知識を理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (近藤)	・公衆衛生看護学体系における本科目の位置づけ ・地域で生活する人々や居住している地域社会の特性に即した公衆衛生看護活動展開方法の概要	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意点、学習評価方法について説明する。 1. コミュニティを対象とする公衆衛生看護過程の理論と方法 2. 集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法の諸相 3. 対象別健康課題別公衆衛生看護活動	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1時間）
2 (近藤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（1） 母子保健活動①	わが国の近現代における母子保健福祉の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1時間）
3 (近藤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（2） 母子保健活動②	児の成長発達段階別健康課題に即した母子保健活動	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (近藤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(3) 母子保健活動③	ハイリスク児への母子保健活動	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)
5 (武澤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(4) 産業保健活動①	産業保健の歴史と現代の産業保健活動体系	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
6 (武澤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(5) 産業保健活動②	働く人々の健康問題の諸相	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
7 (武澤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(6) 産業保健活動③	産業保健看護職の役割と業務	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
8 (川口)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(7) 成人保健活動①	わが国の近現代における成人保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)
9 (川口)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(8) 成人保健活動②	成人期の健康課題別保健活動	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)
10 (川口)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(9) 高齢者保健活動①	わが国の近現代における高齢者保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
11 (川口)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(10) 高齢者保健活動②	高齢者の健康課題別保健活動	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
12 (武澤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(11) 精神保健活動①	わが国の近現代における精神保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
13 (武澤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(12) 精神保健活動②	わが国の近現代における精神保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
14 (渡辺)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(13) 学校保健活動①	学校保健の歴史と学校保健活動体系	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
15 (渡辺)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(14) 学校保健活動②	学校における健康課題と養護教諭の役割と業務	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
16 (作並)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(15) 感染症保健活動①	わが国の近現代における感染症保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
17 (作並)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(16) 感染症保健活動	地域における感染症保健活動の展開	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
18 (作並)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(17) 難病保健活動①	わが国の近現代における難病保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
19 (作並)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(18) 難病保健活動②	地域における難病保健活動の展開	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
20 (川口)	集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法(1)	グループの育成と地域活動への発展における保健師の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
21 (小川)	集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法 (2)	住民組織・地区組織の育成と保健師の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
22 (小川)	コミュニティを対象とする公衆衛生看護過程	1. 公衆衛生看護過程とは 2. 地域アセスメント (地域診断) の目的 3. 情報収集の方法と分析 4. 公衆衛生看護過程の理論・モデル・ツール	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
23 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (1) (地域の概要アセスメント①)	1. コミュニティ看護アセスメント演習ガイダンス 2. データ収集・地区踏査データの加工・判断 3. データ加工・判断	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
24 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (2) (地域の概要アセスメント②)	アセスメント項目を定めて地域の概要をアセスメントする	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
25 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (3) (地域の概要アセスメント③)	グループメンバーのアセスメントを統合し、地域の概要アセスメントレポートを完成させる	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
26 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (4) (地域の人々の特性アセスメント①)	アセスメント項目を定めて地域の人々の特性をアセスメントする	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
27 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (5) (地域の人々の特性アセスメント②)	地域の人々の特性をアセスメントする	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
28 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (6) (地域の人々の特性アセスメント③)	グループメンバーのアセスメントを統合し、アセスメントレポートを作成する	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
29 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (7) (発表とグループディスカッションの準備)	発表とディスカッションの準備を行う。演習を通しての学び、疑問点を整理する	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
30 (小川) (武澤) (川口) (近藤)	コミュニティ看護アセスメント演習 (8) (発表とディスカッション)	発表とグループディスカッションを行う	事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。

授業科目	公衆衛生看護管理論 Management of Public Health Nursing	担当教員	近藤 明代、安藤 陽子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	公衆衛生看護の目的は、人々が自らの健康や QOL を維持・改善する能力の向上および人々を取り巻く環境の改善を支援することにより、集団の健康の保持増進・健康障害の予防と回復を促進し、人々の生命の延伸、社会の安寧に寄与することである。公衆衛生看護活動を効果的、能率的に達成するための公衆衛生看護管理の方法について学ぶ。また、健康危機管理（災害、感染症等）のあり方についても学習する。		
到達目標	1.公衆衛生看護管理の意義について理解する。 2.公衆衛生看護管理の方法について理解する。 3.地域における健康危機管理について理解する。		
関連科目	3年前期 公衆衛生看護学概論、4年後期 公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱが関連科目である。		
テキスト	標美奈子著者代表「標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論」(医学書院) 村嶋幸代,岸恵美子編「保健学講座 公衆衛生看護支援技術」(メヂカルフレンド社)		
参考書	授業中に適宜、紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 到達目標に関する定期試験によって、目標の到達度を評価する。 安藤：50点 近藤：50点
	試験	100	
	レポート		
	小テスト		
	提出物 その他		
履修上の留意事項	・毎回のシラバスの「学習の主題」「授業内容」を念頭に置きながら事前にテキスト等を確認しましょう。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度解決できるよう主体的な学習行動を心がけましょう。		
課題に対するフィードバックの方法	・最終授業において、科目全体の学習内容をフィードバックする。		
実務経験を活かした教育内容	・本科目担当教員が従事した保健師活動を基に、初任期から管理期における公衆衛生看護管理について授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (近藤)	公衆衛生看護管理の概念	1. 本科目の目的、目標、学習内容、履修上の留意点、評価 2. 公衆衛生看護管理の目的と機能	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
2 (近藤)	公衆衛生看護管理の諸相 1 - 地域ケアの質の保証	1. 地域の社会資源の把握 2. 地域の特性を生かした社会資源開発と施策化 3. 保健医療福祉計画の策定	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
3 (近藤)	公衆衛生看護管理の諸相 2 - 組織運営・管理、業務管理	1. 組織の目的、各部署の役割 2. 他部門との連携、情報の共有、協働	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
4 (近藤)	公衆衛生看護管理の諸相 3 - 人材育成	1. 保健師教育制度の変遷 2. 現任教育の目的と方法 3. 人材育成計画	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
5 (安藤)	公衆衛生看護管理の諸相 4 - 予算管理、人事管理	1. 予算の確保、予算の執行 2. 計画的な人事配置(管理)	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
6 (安藤)	公衆衛生看護管理の諸相 5 - 健康危機管理	1. 健康危機管理とリスクマネジメント 2. 保健活動のリスクマネジメント	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
7 (安藤)	公衆衛生看護管理の諸相 6 - 災害保健活動	感染症および自然災害時の危機管理体制と公衆衛生看護業務	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
8 (安藤)	公衆衛生看護管理の諸相 7 - 情報管理	1. 健康関連情報の収集 2. 情報管理の方法 3. 情報公開 4. 個人情報保護	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)

授業科目	英語Ⅳ（総合） English IV	担当教員	松尾 文子
対象学科・年次・学期	栄養学科/看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	1. 英語の4技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2. 英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。		
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握できる。 2. 専門領域の文献を読むことができる。 3. 自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。		
関連科目	英語 I, II, III		
テキスト	<i>Alive and Active</i> . Asama M., Lambert N. and Iwao Y. (NAN'UN-DO, 2022)		
参考書			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	70	学んだことの理解度を測る定期試験 70%。Unit ごとの Warm-up Exercise の小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 定期試験を未受験の場合は、評価対象としない。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
その他	10		
履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。テキストの Inspiration Exercise に関する情報を Teams にアップするので、積極的に利用する。		
課題に対するフィードバックの方法	小テストの答え合わせを授業中に行い、さらに音声と音声のスク립ト、解答、およびテキストの Inspiration Exercise の解答例を Teams にアップする。		
実務経験を活かした教育内容			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	栄養とフィットネス	Introduction / Unit 1: Nutrition and Fitness	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
2	フィットネスクラブの実態	Unit 2: 24/7 Fitness Clubs	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
3	運動と脳年齢	Unit 3: Exercise and Brain Function	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
4	運動療法	Unit 4: Exercise Therapy	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
5	高齢化を支える新たなテクノロジー	Unit 5: To Age or Not to Age	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
6	電動自転車人気	Unit 6: Riding into the Future	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
7	健康スポーツと技術応用	Unit 7: 3D Printing for Healthcare and Sport	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
8	これまでのテキストの理解度確認	中間試験	試験勉強・次回の授業の予習 (4時間)
9	スポーツの進化系	Unit 8: Adaptive Sports	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
10	不測の事態に備える応急手当	Unit 9: First Response	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
11	ワクチン接種をめぐる賛否両論	Unit 10: Vaccination—Crucial or Dangerous	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
12	メディカルツーリズムの是非	Unit 11: Medical Tourism	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
13	スポーツにおける薬物使用の鋼材	Unit 12: Athletic Performance Enhancement	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14	進化するスポーツシューズ	Unit 13: Athletic Footwear Design	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
15	アドベンチャーの新たな流儀	Unit 14: Adventure is for Fashion	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)

授業科目	文学と人間 Literature and Humanity	担当教員	畠山 瑞樹
対象学科・年次・学期	栄養学科/看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	<p>文学は、長い間残り続け愛され続けている、人間社会の財産です。多様な文学作品をひもとき、自らの考えを深めることは、他を受容し自己の感性を高め、豊かな人間性を育むことに繋がります。</p> <p>この講義では、日本の伝統的な文学や文化を通して、人間・社会・時代を構成する要素についてテーマ毎に考察します。日本人に馴染み深い昔話や魅力的な古典文学作品を対象とし、多くの作品の読解を通じて、体系的に基礎的な知識や教養を身に付けるとともに、自ら考え表現する力の基礎を培うことを目的とします。</p>		
到達目標	<p>1.日本の文学や文化についての、基礎的な知識・教養を身に付けることができる。</p> <p>2.文学・文化と人間との関わりについて、自ら考え表現することができる。</p>		
関連科目	高等学校の国語便覧等を利用し、古典文学の基礎を復習しておくことで、講義内容をより深く理解できる。		
テキスト	なし（プリント配布）		
参考書	講義時適宜紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		
	レポート	60	
	小テスト		
	提出物 その他	40	
履修上の留意事項	<p>1.古典文学作品を多く読むことになるため留意すること。資料は事前に配布する。</p> <p>2.進度により、講義で扱う作品および扱う回を変更する場合がある。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	<p>1.講義時に実施する小レポートは添削後返却を行い、各自が到達・改善のポイントを具体的に把握できるようにする。</p> <p>2.前回実施した小レポートの内容について、次回講義時に総括を行い、到達目標への各自の達成度を確認できるようにする。</p>		
実務経験を活かした教育内容			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス 古典文学と現代	ガイダンス 現代における古典文学について考える（『落窪物語』） 中古の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
2	古典文学と昔話	視覚・聴覚について考える（「かぐや姫」） 上代・中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
3	古典文学のはじまり	身体観について考える（『古事記』） 上代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
4	古典文学の虚実	病について考える（『大鏡』『平家物語』） 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
5	古典文学の変遷①	享受について考える（「浦島太郎」）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
6	古典文学の変遷② 古典文学と文化①	享受について考える（「浦島太郎」）② 日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	古典文学と文化② 古典文学と伝説①	日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）② 日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）① 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
8	古典文学と伝説②	日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）② 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）

授業科目	国際社会学 International Sociology	担当教員	翁 康健
対象学科・年次・学期	栄養学科/看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバル化の進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。		
到達目標	国際的な時事問題を理解できる社会人を目指す。		
関連科目	「現代社会学」の知識が基盤である。		
テキスト	特に指定しない。時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。		
参考書	1.石井香世子編「国際社会学入門」(ナカニシヤ出版) 2.西原和久・樽本英樹編「現代人の国際社会学・入門—トランスナショナルリズムという視点」(有斐閣コンパクト) 3.宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編「国際社会学」(有斐閣)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 定期試験 (50%) と講義内で実施するミニ・レポート (50%) から目標の到達状況を評価する。
	試験		
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	50	
その他			
履修上の留意事項	・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。		
課題に対するフィードバックの方法	各回講義末尾に質疑応答の時間を設ける。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求める。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭(あるいは末尾)で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとする。		
実務経験を活かした教育内容			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	オリエンテーション・グローバル化	・グローバル化 ・トランスナショナルリズム	・事前学習: シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること (2時間) ・事後学習: 関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみる (2時間)
2	国境を越える人—移民と無国籍者の問題	・「移民」とはだれか ・国籍と市民権 ・グローバル化と無国籍者、身分証明	・事前学習: 第2回講義資料「国境を越える人—移民と無国籍者の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2時間) ・事後学習: 移民と無国籍者の問題について、自分なりに説明をしてみる (2時間)
3	グローバル化時代の難民・国内避難民	・「難民」とはだれか ・グローバル化時代の難民 ・難民の越境化をめぐる議論 ・日本における難民問題	・事前学習: 第3回講義資料「グローバル化時代の難民・国内避難民」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2時間) ・事後学習: 難民・国内避難民のことについて、講義から理解したことをまとめること (2時間)
4	グローバル化がすすむ日常生活	・越境する家族 ・トランスナショナル教育 ・医療におけるグローバル化の進展	・事前学習: 第4回講義資料「グローバル化がすすむ日常生活」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2時間) ・事後学習: 越境する家族生活、教育、医療の問題をまとめること (2時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	グローバル時代の観光・ 民族・宗教の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と国際観光 ・国境・観光・出稼ぎ労働者 ・グローバル化時代の宗教とアイデンティティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 5 回講義資料「グローバル時代の観光・民族・宗教の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル社会における観光・民族・宗教の関係を整理すること（2 時間）
6	社会問題からみるローカルとグローバルの関係	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪のグローバル化 ・ローカル資源とグローバル市場の間 ・紛争のグローバル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 6 回講義資料「社会問題からみるローカルとグローバルの関係」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：ローカルとグローバルの関係を説明してみる（2 時間）
7	国際格差と貧困問題	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困のグローバル化 ・ボーダーレス化する市場 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 7 回講義資料「国際格差と貧困問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：貧困のグローバル化とグローバル市場の格差について、まとめること（2 時間）
8	全体のまとめ・補足	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のまとめ ・期末レポートの案内 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 8 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：8 回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考えること（2 時間）

授業科目	保健医療福祉行政論 II Health & Welfare Administration II	担当教員	武澤 千尋、小川 克子、安藤 陽子、 川口 桂嗣、近藤 明代
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉行政の仕組みと行政施策における財政について学ぶ。 ・主要な地域保健活動の実際と地域保健活動の進め方について学ぶ。 ・保健医療福祉計画の考え方と策定の基本について学ぶ。 ・保健医療福祉行政における保健師の役割、栄養士の役割を学ぶ。 ・地域保健医療福祉計画策定について学ぶとともに、地域の健康問題解決に必要な社会資源の開発や保健・医療・福祉サービスの仕組みについて学ぶ。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健活動の基盤である行政・関係法規・財政の仕組みと機能について理解する。 ・主要な地域保健活動の実際を知ることによって、地域保健活動の具体的な進め方を理解する。 ・保健医療福祉行政と地域保健医療福祉計画の策定における保健師や栄養士の役割について理解する。 		
関連科目	保健医療福祉行政論Ⅰが関連科目である。		
テキスト	藤内修二「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院)・厚生労働統計協会「国民衛生の動向2022/2023」(厚生労働統計協会) 医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる2022-2023」(メディックメディア)		
参考書	「衛生行政大要」(日本公衆衛生協会) 野村陽子編集「最新 保健学講座7 保健医療福祉行政論」(メヂカルフレンド社) ※その他、必要に応じプリント配付		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	100	保健医療福祉行政の仕組み、財政、主要な地域保健活動とそれらの計画策定の基本に関する内容の定期試験(筆記試験)を実施し、目標の達成度を評価する。 武澤30点、小川30点、安藤20点、川口15点、近藤5点
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	保健医療福祉行政の仕組みや関係法規等の概要については、3年次に履修済み、本科目ではさらに深く学習するので、事前学習として、「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習を行い、授業に臨むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	最終授業においてポイントを押さえながら全体をフィードバックする。		
実務経験を 活かした教育内容	行政において保健師として活動をしてきた実務経験者の立場から、実際の活動例を紹介しながら、理解しやすい様に講義を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (武澤)	保健医療福祉行政の概要	1.厚生行政と保健医療福祉行政 2.保健医療福祉行政の仕組み 3.地方自治と地方分権 4.個人情報と個人情報保護	事前:1と2については「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習に努め、さらに3と4については該当箇所を読み疑問を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
2 (武澤)	保健医療福祉行政の財政	1.国と地方公共団体の財政の仕組み ・財政の意義と機能 ・国家財政 ・地方財政 2.予算の機能と原則 ・財政民主主義 ・国の予算の手続き ・地方公共団体の予算の手続き	事前:事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
3 (武澤)	健康の概念と公衆衛生の概念	1.健康の概念 ・健康の概念の変遷 ・現在の健康観 2.WHO(世界保健機関)の健康に対する考え方 ・WHOの健康に対する考え方 ・WHO憲章と日本国憲法 3.公衆衛生の概念	事前:事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(1時間)。
4 (武澤)	世界と日本の公衆衛生活動の歴史	1.世界の公衆衛生活動の歴史 2.日本の公衆衛生活動の歴史	事後:公衆衛生活動の歴史的発展における欧米諸国と日本の相違点を整理し、理解する(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (川口)	地域における主要な保健活動①	1.地方分権と地域保健法 ・地域保健法の制定 ・地域保健法の体系 ・地域保健対策の推進に関する基本的な指針 2.国民健康づくり対策 ・第一・第二・第三(健康日本 21)・第四次(健康日本 21(第2次))対策	事前:「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学んだ内容を復習する(1時間)。 事後:教科書と資料をもとにして学修内容を復習する(2時間)。
6 (近藤)	地域における主要な保健活動②	母子保健対策	事後:母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理する(2時間)。
7 (川口)	地域における主要な保健活動③	成人・高齢者保健対策	事後:成人・高齢者保健対策の変遷とともに、保健対策の関係法規についても整理する(2時間)。
8 (安藤)	地域における主要な保健活動④	障害者(児)保健対策	事後:精神保健対策、難病対策の変遷と、実際の活動を関係法規と関連づけて復習する(2時間)。
9 (安藤)	地域における主要な保健活動⑤	感染症対策	事前:「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学修した「感染症対策のポイント」を復習する(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
10 (安藤)	地域における主要な保健活動⑥	結核対策	事前:結核対策の歴史的変遷と結核の現状と対策の実際について整理しておく。予防接種についても「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習をする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
11 (小川)	地域における保健活動①	市町村における主要な保健活動	事後:地域における保健活動の授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする(2時間)。
12 (小川)	地域における保健活動②	保健所における主要な保健活動	事後:母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理する(2時間)。
13 (小川)	地域保健医療福祉計画①	地方自治体の保健医療福祉計画 ・地方自治体と計画行政 ・地方自治体の保健医療福祉に関する分野別計画	事後:地方自治体の行政計画と保健医療福祉計画との関係や課題の理解に努める(2時間)。
14 (小川)	地域保健医療福祉計画②	地方自治体の計画策定	事後:地域保健医療福祉計画の策定、推進・管理・評価の進め方について復習して理解するとともに、厚生労働省健康局長通知「地域における保健師の保健活動について」(平成25年4月25日健発0419第1号)を読み、計画策定と実施等における保健師の役割について整理する(2時間)。
15 (近藤)	地域保健活動の展開	地域保健活動の進め方	事後:地域保健活動の基本と保健師・栄養士の役割について各自のノートに整理する(2時間)。

授業科目	保健統計学 II Health Statistics II		担当教員	志渡 晃一、米田 龍大
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1単位	
授業目的	統計を用いた調査の意義と方法について学習し、地域の健康状態の分析・課題発見に向けた実践力を身に着ける。			
到達目標	① 健康や疾病にかかわる統計の目的と使い方の理解を深める。 ② 統計を用いた調査・研究の基礎を身に着け、広い視点から説明できるようになる。			
関連科目	保健統計学 I			
テキスト	1. 浅野嘉延「看護学生のための疫学・保健統計学」(南山堂) 2018 2. 講義資料を配布する			
参考書	1. 福富和夫, 橋本修二「保健統計・疫学」(南山堂) 2018			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点	
	試験	100	目標の到達状況を定期試験により評価する。 定期試験を受験しなかった場合は、評価の対象としない。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
その他				
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に集中し、復習により知識を身につけること。 ・ 配付資料のみでなく、テキストを十分に読み込んで、体系的に復習を行うこと。 各授業の前後に 1 時間程度の予習・復習を要する。			
課題に対するフィードバックの方法				
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、調査研究事例などを講義に織り交ぜ、統計資料の読み方や調査手法、各種指標について理解しやすいように授業を行う。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習	
1 (志渡)	ガイダンス	講義目的, 内容の概説		
2 (志渡)	保健統計①	人口統計・指標の振り返り	講義内容を復習する。	
3 (志渡)	保健統計②	保健統計・指標の振り返り	講義内容を復習する。	
4 (米田)	調査法概論①	研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ①	講義内容を復習する。	
5 (米田)	調査法概論②	精神保健研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ②。	講義内容を復習する。	
6 (米田)	調査法概論③	統計調査と事例調査, 調査の倫理	講義内容を復習する。	
7 (米田)	各論①	標本抽出の方法, データの種類と尺度	講義内容を復習する。	
8 (米田)	各論②	調査票の作成, 実査の方法	講義内容を復習する。	
9 (米田)	演習①	調査の計画, 調査票の作成の実践	講義内容を復習する。	
10 (米田)	演習②	調査の計画, 調査票の作成の実践	講義内容を復習する。	
11 (志渡)	統計解析①	量的統計における調査技術① (単純集計, 要約統計量など)	講義内容を復習する。	
12 (志渡)	統計解析②	量的統計における調査技術② (クロス集計, 相関など)	講義内容を復習する。	
13 (志渡)	統計解析③	量的統計における調査技術③ (χ^2 検定, t 検定など)	講義内容を復習する。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14 (志渡)	統計解析④	量的調査における調査技術④(多変量ロジスティック解析, 多重比較など)	講義内容を復習する。
15 (志渡)	まとめ	講義内容の総括	講義内容を復習する。

授業科目	精神看護活動論 II Psychiatric Nursing II	担当教員	原田 由香、高橋 正樹
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	精神の病いや問題を抱える対象者への看護援助方法を学ぶ。さらに、自己のコミュニケーション能力を培い、これまでの学習内容を精神看護実習で活用できるよう準備する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護領域における看護過程の概要について理解できる。 2. 紙上事例をもとに看護過程（アセスメント、関連図、看護問題の明確化、計画立案、評価）を展開できる。 3. ロールプレイを通して、精神看護領域における対象者の理解を深めると共にコミュニケーション能力を培う。 4. 精神の健康課題を抱える人の体験談を聞くことにより、精神障がいをもつ人の理解を深める。 		
関連科目	精神看護学概論、精神看護活動論Ⅰ、精神看護実習		
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰこころの健康と地域包括ケア 改訂第3版」(南江堂)2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版」(南江堂)2022		
参考書	田中美恵子編「精神看護学—学生・患者のストーリーで綴る実習展開 第2版」(医歯薬出版)2015		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60点以上を合格とする。 小テスト：講義時間内において授業内容に関するテスト（40%） 提出物：看護過程の展開に関する課題（30%） 体験談に関する1回のワークシート（10%） その他：発表、取り組み姿勢（20%）
	試験		
	レポート		
	小テスト	40	
	提出物	40	
その他	20		
履修上の留意事項	看護過程の展開は復習を行い、必ず個人ワークを行った上でグループワークに取り組むこと。さらに、発表などで気づいたことは青のボールペンで追加や修正を行うこと。		
課題に対するフィードバックの方法	提出物には口頭でのフィードバックもしくはコメントを付して返却する。		
実務経験を活かした教育内容	臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神障がいをもつ人への看護援助方法について理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1・2 (原田・高橋)	ガイダンス（目的、目標、評価値）精神看護実践とは事例を用いての看護過程の展開：①アセスメント、関連図・問題リスト	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護実践の目的について理解する。 ・精神領域において重要となる情報やアセスメント、関連図・問題リストについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：基礎情報・アセスメント・関連図・問題リスト・看護計画提出（8時間） ・事後学習：講義で気づいた点について追加・修正する（3時間）
3 (原田・高橋)	事例を用いての看護過程の展開：②看護計画の立案 <GW：2教室>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに看護計画立案に向けてGWを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：事例の看護計画について確認しておく（30分）。 ・事後学習：グループごとに事例の看護計画を立案する（2時間）。
4 (原田・高橋)	事例を用いての看護過程の展開：③看護計画 <発表：2教室>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに作成した看護計画で代表的なものを発表し、共有する。 ・看護計画のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：グループごとに作成した事例の看護計画を提出する（2時間） ・事後学習：報告会での学びについて看護計画に追加修正する（1時間）
5・6 (原田・高橋)	事例を用いての看護過程の展開：④実施（ロールプレイ） <2教室>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループメンバーでロールプレイを実施する。 ・ロールプレイに関する意見交換（GW） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：ロールプレイの内容について準備（2時間） ・事後学習：ロールプレイに関する学びについて整理する（1時間）
7 (原田)	事例を用いての看護過程の展開：⑤評価	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程、ロールプレイに関する小テスト ・SOAPの書き方に関するまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習：看護過程・ロールプレイでの学びの総復習（4時間） 事後学習：小テストで分からなかったところを確認する（1時間）
8 (原田)	精神障がいのある人についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ゲストスピーカーの精神障がい（統合失調症、発達障がい）をもつ人から体験談を聞き、意見交換する 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習：精神障がいをもつ人と意見交換できるように質問や意見についてまとめる（1時間） 事後学習：ワークシートの作成と資料に目を通し復習する（1時間）

授業科目	精神看護実習 Psychiatric Nursing : Practicum	担当教員	原田 由香、高橋 正樹
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	心を病む人とのかかわりを通し、対象者について生活の観点から理解を深め、必要な看護活動および精神医療チームにおける多職種との協働について学ぶ。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受持ちの対象者とのかかわりを通して、精神保健上の健康課題により日常生活や、対人関係に困難を抱えている人について理解を深める。 2. 受持ちの対象者の発達段階や健康状態・生活の状況をアセスメントし、精神の健康が生活におよぼす影響について理解する。 3. 受け持ちの対象者とのコミュニケーションの振り返りを通して得られた気づきを援助技術として活用し患者 - 看護師関係について学ぶ。 4. 受け持ちの対象者を生活者の視点から対象者を取り巻く環境や多職種チームによる協働の意義を学ぶ。 		
実習内容	具体的な内容については実習要項にそって実習オリエンテーションにおいて説明する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	100	実習評価表に基づき、実習施設での実習内容、実習態度、実習記録をもとに総合的に評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	これまでの学習を生かし、真摯な姿勢で積極的に取り組むこと。		
実務経験を活かした教育内容	精神科病棟・病院にて実務経験のある担当教員が実習に同行する。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症または気分障がいなどの精神疾患を有する人1名を受け持ち、対象者ならびに関係性の理解を深め、必要な看護活動を展開する。 2. 病棟でのミニカンファレンス（毎日）、第1週目および第2週目の学内カンファレンス（各1回）において、実習で生じた疑問や問題点について検討したり、グループ間で実習での学びを共有する。 3. 1グループ学生2～4名を各病院施設に配置して実習する。 		
実習施設	岡本病院、旭山病院、さっぽろ香雪病院、五稜会病院、大谷地病院、ここりカプロダクション		

授業科目	看護課題研究 Nursing Research	担当教員	木津 由美子、吉田 祐子 他
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	2単位
授業目的	自己の看護への興味や疑問から自らの課題を設定し解決するために、これまで学習してきた情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの汎用的技能と看護学研究法で学んだ基礎的知識をもとに適切な手法を選択して計画的かつ系統的に探究することで、創造的思考力を養う。また、研究計画書を作成し、討議や発表を通して論理的表現や批判力の向上を図るとともに研究の基礎的知識・技術・態度を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の探求課題を明確にする。 2. 自己の課題に関連する先行文献を検索し、整理することができる。 3. 文献を批判的に読むことができる。 4. テーマを探求するための計画書を作成することができる。 5. 研究に係る倫理的配慮のもとに、計画書を実施することができる。 6. 研究計画書を発表することができる。 7. 研究の基本的知識・技術・態度を身につける。 		
関連科目	3年次に履修した看護学研究法と密接に関連する。		
テキスト	なし		
参考書	研究の基礎的な方法については、看護学研究法のテキスト・参考文献に同じ。 課題に関連した文献は、担当教員の指導・助言をもとに各自で検索し活用する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		評価については、ガイダンス時に評価表を提示し説明する。 ・研究計画書 (60%) ・発表資料 (10%) ・研究計画書作成に対する姿勢 (15%) ・発表 (15%) 以上の評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他	100		
履修上の留意事項	グループで1年を通して研究計画書の作成を学習します。チームワークを発揮して取り組んでください。		
課題に対するフィードバックの方法	教員により方法は異なりますが、計画書作成過程で提出物に口頭またはコメントを付すなどの方法でフィードバックします。		
実務経験を活かした教育内容	各担当教員は、実務経験者の立場から専門分野の特徴を踏まえて、学生が看護課題を探求できるように演習を展開します。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (木津) (全担当教員)	看護課題研究の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点) 2. 学習するゼミグループの発表 3. 各ゼミに分かれ年間スケジュールの作成 	事前: シラバスを読み、履修上の疑問を明らかにしておく。看護学研究法最終講義時に提出した研究テーマ希望について内容を確認し、ガイダンスに臨む。 事後: 看護課題研究の学習計画を立てる(1時間)。
2~5 (木津) (全担当教員)	研究課題の設定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員のもとで、研究課題を設定する。 ・グループ・ディスカッション ・研究課題に関する文献検索 ・研究課題の設定 	事前: 研究課題に関する考えを明確にしておく(1時間)。 事後: ゼミで行った内容を整理しノートのまとめる(1時間)。
6~10 (木津) (全担当教員)	文献検索と整理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員のもとで、研究課題に関する文献検索、購読し課題の明確化 ・研究課題に関連した文献を収集する。 ・収集した文献を系統的に整理する。 ・整理した文献を購読、要約し、研究課題を明確化する。 	事前: グループ学習に必要な文献を読む(1時間)。 事後: ゼミで行った内容を整理し、ノートにまとめる(1時間)。
11~15 (木津) (全担当教員)	文献レビュー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 収集、整理した文献について批判的検討 ・研究課題に関連した適切な論文を選択する。 ・選択文献を精読し文献カードを作成する。 ・文献の分類、分析、統合により研究課題を概観する。 	事前: 文献をクリティークする(2時間)。 事後: ゼミで行った内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
16～25 (木津) (全担当 教員)	研究計画書作成 発表準備	1. 研究計画書の作成 2. 研究計画書発表準備 ・発表抄録を作成要領に基づいて作成する。 ・発表内容に即したパワーポイント資料を作成する。	事前：配付の要項を読み、計画書作成の要領を確認する(1時間)。 事後：ゼミメンバーで協力し計画書を作成する。
26 (木津) (吉田))	発表会の進め方	1. 発表会オリエンテーション ・発表者、司会進行係、参加者の役割責任の理解 ・メンバー間で役割分担の決定 ・発表準備をする	事前：抄録やスライドの確認をする(1時間)。 事後：発表に向けてゼミメンバーで発表の練習をする(2時間)。
27～30 (木津) (全担当 教員)	看護課題研究発表会	1. 発表の主体的な参加 ・タイムスケジュールに沿って発表を行う。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割を担い、学びを共有する。	事前：ゼミメンバーで発表練習を行い発表会に臨む(2時間)。 事後：ゼミの発表を振り返り、自己の課題を明確にする(1時間)。

授業科目	リハビリテーション看護論 Rehabilitation Nursing	担当教員	小野 善昭、佐藤 由佳子、村井 昌子
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	リハビリテーションの概念について学び、リハビリテーション看護の基礎的知識・技術・態度について学習する。ここでは、リハビリテーションを必要としている人および家族への看護と保健医療福祉チームとの連携・協働と看護の役割について理解する。また、在宅でリハビリテーションを受けている人々へのケアや健康増進のために必要な知識・技術を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの意味を理解する 2. リハビリテーションにおける看護の役割について理解する 3. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題について理解する 4. リハビリテーションを必要としている人の特徴を理解する 5. リハビリテーションの目的とリハビリテーションに関わる職種の役割について理解し、チーム医療における看護職の役割を理解する 6. リハビリテーションを必要としている人とその家族への看護援助について理解する 7. 在宅でリハビリテーションをしている人とその家族に対する必要な援助について理解する 		
関連科目	リハビリテーション関連する科目は多岐にわたる。専門基礎科目の「個人と健康」、「社会と健康」、専門科目の「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」の各科目と関連している。		
テキスト	酒井郁子/金城利雄 編集「リハビリテーション看護 改訂第3版」(南江堂)		
参考書	中西純子/石川ふみよ 編集「リハビリテーション看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ) 武田宜子/下村晃子 他「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 第6版」(医学書院) 奥宮暁子他 編集「ナーシンググラフィカ成人看護学⑤ リハビリテーション看護」(メディカ出版) 落合美夫子 監修「新体系看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 第2版」(メヂカルフレンド社)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた障がいをもつ人の生活に関するレポートなど2つの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	試験	60%	
	レポート	40%	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	事前、事後学習を確実に行って講義に参加してください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに1~2時間の時間を要します。		
課題に対するフィードバックの方法	提出物にコメントを付して返却する場合と授業内で解説する場合があります。なお、詳細については、課題提示時にフィードバックについて説明します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、リハビリテーション看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に佐藤先生からは病院でのリハビリテーション看護、村井先生からは在宅でのリハビリテーション看護について実践を踏まえて授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (小野)	リハビリテーションの意味と看護の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. リハビリテーションとは 3. 国際生活機能分類 (ICF) の考え方 4. リハビリテーション医療システムと看護の役割 	事前学習：シラバスを熟読し、目標と内容について確認する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
2 (小野)	リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論	<ol style="list-style-type: none"> 1. QOL 2. 自立と自律 3. 動機と主体性 4. 社会的不利 	事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する
3 (小野)	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題 2. 生活機能障害のある人とその家族の理解① 	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 リハビリテーションに関する法律や障害者を支える制度 1-2 看護実践に関連する道徳的概念とリハビリテーション看護 1-3 リハビリテーション看護における倫理的葛藤 2-1 身体的・心理的特徴 2-2 生活上の特徴 2-3 家族の特徴 	事前学習：必要な概念や制度などについて、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。指示された課題をレポートにまとめ、提出する

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (小野)	生活機能障害のある人 とその家族の理解②	障がいのある人の生活を理解するためのフィールドワーク	事前学習：事前に提示された課題に取り組む 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
5 (小野)	回復過程とリハビリテーション看護	1. 急性、回復期、生活期の各ステージにおける対象者の特徴 2. 各ステージにおけるリハビリテーションの目的と看護援助のポイント 3. フレイルとサルコペニア ※生活期に関しては 13 回目で詳細を講義	事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
6 (小野)	呼吸機能障害のある人 へのリハビリテーション看護	1. 呼吸機能障害のある対象者のリハビリテーションの目的 2. 呼吸リハビリテーションの実際 3. 呼吸リハビリテーションを受けている対象者への看護の実際	事前学習：呼吸器疾患および看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
7 (小野)	循環機能障害のある人 へのリハビリテーション看護	1. 循環機能障害のある人へのリハビリテーションの目的 2. 心臓リハビリテーションの実際 3. 心臓リハビリテーションを受けている対象者への看護の実際	事前学習：循環器疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
8 (佐藤)	摂食嚥下障害のある人 へのリハビリテーション看護	1. 摂食嚥下のメカニズムとその障害 2. 嚥下障害のアセスメント 3. 嚥下障害のある対象者へのリハビリテーション看護	事前学習：摂食嚥下障害及びその看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
9 (佐藤)	高次脳機能障害・言語機能障害のある人への リハビリテーション看護	1. 高次脳機能障害とリハビリテーション 2. 言語機能障害とリハビリテーション	事前学習：各機能障害及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
10 (佐藤)	脳神経疾患のある人への リハビリテーション看護	1. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーション看護 3. 脳神経疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際	事前学習：脳神経疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
11 (佐藤)	障害を有する子どもへの リハビリテーション看護	1. 障害を有する子どもとリハビリテーション 2. 障害を有する子どもへのリハビリテーション看護の実際	事前学習：障害を有する子どもへのリハビリテーション及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
12 (村井)	在宅リハビリテーションを行っている人への リハビリテーション看護 1	在宅リハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助 1. 生活期リハビリテーションが行われる場とその特徴 2. 在宅でのリハビリテーションの実際 3. 地域リハビリテーション	事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
13 (村井)	在宅リハビリテーションを行っている人への リハビリテーション看護 2	在宅でリハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助	事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
14 (小野)	運動機能障害のある人 へのリハビリテーション看護	1. 運動器疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 運動器疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際	事前学習：運動器疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
15 (小野)	リハビリテーション医療・看護の課題・まとめ	1. 障がいのある人の医療、教育や生活の格差 2. ロボット工学とリハビリテーション 3. 災害とリハビリテーション 4. まとめ	事前学習：これまでの講義資料を確認する 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

授業科目	がん看護論 Oncology Nursing	担当教員	小島 悦子、大串 祐美子、菊地 美香
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	がん看護の実践の基盤となる知識・技術を理解するとともに、がん医療における多職種連携の重要性と看護師の役割を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの疫学とがんの特徴について概説できる。 2. がんの予防、診断と治療について概説できる。 3. がんサバイバーシップの考え方ががんサバイバーへの支援の基本について説明できる。 4. がんサバイバーの全人的苦痛に対する支援について説明できる。 5. がん医療の中で生じる倫理的な課題を理解し、その対応について意見を述べるができる。 6. がん医療におけるチームアプローチの重要性と看護の役割について説明できる。 		
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ・Ⅱが関連科目です。		
テキスト	なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小松浩子 他「系統看護学講座別巻 がん看護学」(医学書院) 2. 鈴木久美 他「看護学テキスト NICE がん看護」(南江堂) 3. 黒田ちはる「がんになったら知っておきたいお金の話 看護師 FP が授ける家計、制度、就労の知恵」(日経メディカル開発) 4. 濱口恵子 他「がん化学療法ケアガイド 第3版」(中山書店) 5. 祖父江由紀子 他「がん放射線療法ケアガイド 第3版」(中山書店) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 提出物は授業内容に関する理解度と提出状況を含めて評価する(100%)。
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100%	
その他			
履修上の留意事項	質の高いがん看護の実践について一緒に考えていきましょう。		
課題に対するフィードバックの方法	提出物については基本的にコメントを付して返却します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (小島)	ガイダンス がんとがん医療の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの罹患率、死亡率、生存率 2. がんの病態 3. がんの予防 4. がんの診断と治療の概要 	事前学習：事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明確にしておく。学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
2 (小島)	がんサバイバーの理解 (1)	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんサバイバーシップの考え方 2. がんサバイバーの歩むプロセス 3. がんサバイバーの全人的苦痛 	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
3 (小島)	がんサバイバーの理解 (2)	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんのもつ社会的影響 2. がん医療に伴う経済的問題 3. がんサバイバーの就労 	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
4 (小島)	がんサバイバーの支援 (1)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意思決定支援 2. がん医療の中で生じる倫理的課題 3. 多職種によるチームアプローチ 	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
5 (小島)	がんサバイバーの支援 (2)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本におけるがん対策 2. 早期からの緩和ケア 3. サポートグループ、セルフヘルプグループ / ピアサポート 	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (小島)	がんサバイバーの支援 (3)	1. 患者主体の症状マネジメント 2. 代表的な身体症状のアセスメント	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
7 (小島)	がんサバイバーの支援 (4)	1. 代表的な症状に対する薬物療法、非薬物療法	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
8 (小島)	がんサバイバーの支援 (5)	1. がん手術療法の特性 2. 手術療法ががん患者の心身に及ぼす影響とケア	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
9 (小島)	がんサバイバーの支援 (6)	1. がん薬物療法と使用される薬剤の特性 2. 薬物療法に伴う有害事象とそれに対するケア	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
10 (小島)	がんサバイバーの支援 (7)	1. がん放射線療法と使用される放射線の特性 2. 放射線療法に伴う有害事象とそれに対するケア	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
11 (大串)	化学療法認定看護師の 活動	1. 化学療法認定看護師の役割 2. 化学療法認定看護師が行う看護の実際	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
12 (大串)			
13 (菊地)	がん看護専門看護師の 活動	1. がん看護専門看護師の役割 2. がん看護専門看護師が行う看護の実際	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間)
14 (菊地)			
15 (小島)	がん看護のまとめ	質の高いがん看護を実践するために看護師としてできることを考える	事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(2時間)

授業科目	クリティカル看護論 Critical Nursing	担当教員	小野 善昭、春名 純平、村中 沙織
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	生命の危機状態（重篤・急変状態）にある患者・家族への看護の基本的な知識・技術を理解するために、患者・家族の特徴や倫理的問題の基本概念を理解し、クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解する。また、クリティカルな場における看護師の果たす役割について理解するとともにクリティカルケアの専門性について考察する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケアに関する基本概念について理解できる 2. クリティカルな状態にある患者の病態とその特徴を理解できる 3. クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解できる 4. 呼吸管理、循環管理、代謝管理が必要な患者への看護について理解できる 5. 代表的な疾患に特徴的な看護について理解できる 		
関連科目	主に成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護実習Ⅰに関連する。その他、専門基礎科目の「個人と健康」、「社会と健康」、専門科目の「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」の各科目と関連している。		
テキスト	明石恵子,益田美津美他「新体系看護学全書 経過別成人看護学 1急性期看護：クリティカルケア」（メヂカルフレンド社）		
参考書	道又元裕他「系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学」（医学書院） 佐藤まゆみ,林直子他「成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護・クリティカルケア（改訂第3版）」（南江堂） 池松裕子「クリティカルケア看護Ⅰ - 患者理解と基本的看護技術」（メヂカルフレンド社） 池松裕子「クリティカルケア看護Ⅱ - アセスメントと看護ケア」（メヂカルフレンド社） 池松裕子他「クリティカルケア看護論」（ヌーヴェルヒロカワ） 山勢善江「救急・クリティカルケアにおける看取り（Nursing Mook 49）」（学研） 山勢博彰他「救急・重症患者と家族のための心のケア - 看護師による精神的援助の理論と実践」（メディカ出版） 黒田裕子他「クリティカルケア看護 完全ガイド」（医歯薬出版）		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標達成状況を定期試験（60%）、レポート（40%）により総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた危機的状況にある事例に関するレポートなど2つの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	試験	60%	
	レポート	40%	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	本科目に関係するこれまでの学習について復習し、事前学習を行って授業に参加してください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに1~2時間の時間を要します。		
課題に対するフィードバックの方法	提出物にコメントを付して返却する場合と授業内で解説する場合があります。なお、詳細については、課題提示時にフィードバックについて説明します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、クリティカル看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に春名先生、村中先生からは CNS としての活動も踏まえて授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (小野)	ガイダンス、基本概念	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. クリティカルケアの定義 3. クリティカルケア看護の対象と特徴 	事前学習：シラバスを熟読し、目標と内容について確認する テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
2 (小野)	クリティカルケア看護師に求められる能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予測力と判断力 2. 知識・技術 3. 役割 	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
3 (小野)	患者・家族の心理面の安定を図るための援助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 危機理論 2. ストレスコーピング 3. 家族看護 	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (小野)	侵襲に伴う生体反応	1. 生体反応の推移 2. 神経・内分泌系反応 3. サイトカインの作用様式 4. 全身性炎症反応症候群 (SIRS) 5. 代謝性抗炎症反応症候群 (CARS)	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
5 (春名)	呼吸不全患者への看護	1. 呼吸不全と人工呼吸器装着の適応 2. 人工呼吸の主な換気様式 3. 全身への影響・合併症 4. 観察とケア	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
6 (春名)	鎮痛・鎮静、せん妄予防とケア	1. 痛みの評価とマネジメント 2. 鎮静の評価とマネジメント 3. せん妄の評価とマネジメント 4. せん妄患者および家族へのケア	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
7 (春名)	循環不全患者への看護	1. 循環状態の安定を図るための援助 2. PCPS: 経皮的心肺補助装置 3. IABP: 大動脈バルーンパンピング	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
8 (春名)	クリティカルケアにおける日常生活援助と早期リハビリテーション	1. 体位管理 2. 清潔援助 3. 栄養管理 4. 活動・睡眠への援助 5. 二次的合併症予防 (深部静脈血栓症、褥瘡・皮膚トラブルなど) 6. ICU-AW と廃用症候群の予防	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
9 (小野)	急性腹症患者への看護	1. 急性腹症を起こす疾患 2. 診断と治療 3. 看護ケア	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
10 (小野)	二次性中枢神経系意識障害のある患者への看護	1. 主な原因となる疾患 2. 意識障害のアセスメント 3. 治療 4. 看護ケア	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
11 (村中)	外傷患者への看護	外傷患者の特徴と看護ケア	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
12 (村中)	移植医療、脳死と臓器移植	1. 臓器移植とは 2. 臓器移植の現状 3. 脳死 4. 脳死判定 5. 臓器移植における看護師の役割	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
13 (村中)	クリティカルケアにおける終末期医療 1	1. クリティカルケアにおける終末期 2. 倫理問題への対応	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
14 (村中)	クリティカルケアにおける終末期医療 2	1. 意思決定支援 2. 緩和ケア	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
15 (小野)	クリティカルケアと倫理的問題、チーム医療、まとめ	1. 看護倫理の定義と原則 2. 多職種との協働 3. チーム医療の中の看護師の役割 4. まとめ	事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 指示された課題をレポートにまとめ、提出する

授業科目	慢性看護論 Chronic Care Nursing	担当教員	藤井 瑞恵、加藤 剛寿、渡辺 美和、若林 マリア
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	<p>看護職は、慢性疾患を抱える一人ひとりの多様な価値観や生き方、さまざまな役割を持った一人の生活者であることを理解し、具体的な知識・技術を提供するとともに、セルフマネジメントしていける力を身に付けられるようアプローチしていく必要がある。</p> <p>本授業では、慢性疾患を抱えて生活している人の身体的・心理社会的なニーズを理解し、その人らしい生活を送るための行動変容を促す看護について考えることを目的とする。</p> <p>また、臨床現場の第一線で活躍する専門・認定看護師からの講義を通して、専門性の高い慢性期看護を発展的に広い視野で捉えることを目的とする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患を抱える人の特徴と看護の役割を概説できる。 慢性疾患を抱える人の身体的・心理社会的なニーズを説明できる。 慢性の病気とともに自分らしい生活を送るための行動変容を促す看護について考えることができる。 慢性期看護の専門性について考えることができる。 		
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、成人看護実習Ⅰ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。		
テキスト	鈴木久美、他編「成人看護学 慢性期看護 - 病気とともに生活する人を支える 第3版」(南江堂)		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 鈴木志津枝・藤田佐和 編「慢性期看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ) 安酸史子 他「ナースングラフィカ 成人看護学② セルフマネジメント」(メディカ出版) 安酸史子「糖尿病患者のセルフマネジメント教育 エンパワメントと自己効力 改訂3版」(メディカ出版) P・ディヤング 他「解決のための面接技法 第3版」「同4版」(金剛出版) 河口てる子 編「慢性看護の患者教育」(メディカ出版) 黒田裕子 (監)「看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第3版」(Gakken) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		<p>目標到達状況をレポート・提出物によって評価する。</p> <p>藤井 30%：課題レポートのテーマは講義時に説明します。</p> <p>加藤 50%：事例発表会 20%、レポート 30%</p> <p>渡辺 20%：小テストの出題範囲は渡辺担当3回分の授業からです。</p> <p>レポートの評価基準は、ルーブリックで提示します。</p>
	レポート	60%	
	小テスト	20%	
	提出物		
その他	20%		
履修上の留意事項	<p>看護師役、患者役がペアとなって一連の展開を進めていきます。慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護③～④(第4回、第12回)では、学生が看護師役、患者役となり、看護師役は行動変容を促す「ソリューション・フォーカストアプローチ」を患者役実践してもらい、実際に約1か月後に、生活習慣の変化が患者役にみられたかの評価までの一連の過程を展開していきます。事例発表会では、主体的に協力し合いながら進めましょう。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに1～3時間の時間を要します。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	<p>第13～15回の実践発表会で、修得ができていない良い点、改善が必要な点などを全体に向けフィードバックする。また、到達度がわかるようルーブリック表を授業終了後、返却する。</p>		
実務経験を活かした教育内容	<p>実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。</p>		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (藤井)	ガイダンス、慢性疾患を抱える人の特徴と看護の役割：症状マネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 慢性の症状・疾患の特徴 症状マネジメントモデルを活用した統合的アプローチ 	事後学習:テーマにそって課題をまとめる
2 (加藤)	ガイダンス、慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護①	<ol style="list-style-type: none"> 解決のための面接技法「ソリューション・フォーカストアプローチ」 ソリューション・フォーカストアプローチの実践例 	事後学習:第4回で計画立案の際、活用できるよう講義内容を振り返る
3 (加藤)	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護②	<ol style="list-style-type: none"> 解決のための面接技法「ソリューション・フォーカストアプローチ」 ソリューション・フォーカストアプローチの実践例 	事後学習:自身の生活習慣で変えたいと思っているが行動変容が難しいものを記載する(第4回で患者役時に使用するため)
4 (加藤)	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護④	<ol style="list-style-type: none"> 行動変容を支援するプログラムの実践 	事後学習:実践した際の患者役の言動の記録

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (藤井)	慢性疾患を抱える人の特徴と看護の役割：悲哀・悲嘆	1. 悲哀・悲嘆 2. 悲哀・悲嘆モデルを活用した看護援助	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
6 (藤井)	慢性疾患を抱える人の特徴と看護の役割；病みの軌跡	1. 病みの軌跡理論 2. 病みの軌跡理論を活用した看護援助	事後学習：課題レポートを講義時に提示します。
7、8 (若林)	透析看護認定看護師の役割 透析看護認定看護師が行う慢性腎臓病を抱えて生活する人の看護	1. 透析看護認定看護師の役割 2. 透析看護認定看護師の慢性腎臓病の人への看護の実際 3. キャリア形成	事後学習：学びを整理する
9、10、11 (渡辺)	慢性疾患看護専門看護師の役割 慢性疾患看護専門看護師が行う糖尿病を抱えて生活する人の看護	1. 慢性疾患看護専門看護師の役割 2. 慢性疾患看護専門看護師の糖尿病の人への看護の実際 3. キャリア形成	事後学習：小テストに向けた学修を行う
12 (加藤)	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑥	1. 行動変容を支援するプログラムの実践の評価 発表スライド作成（立案したプログラム全体のまとめ）	事後学習：発表スライド、原稿作成
13 (加藤)	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑦	1. 実践発表会	事後学習：学びを整理する
14 (加藤)	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑦	1. 実践発表会	事後学習：学びを整理する
15 (加藤)	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑧	1. 実践発表会 2. 意見交換（ディスカッション）	事後学習：学びを整理する

授業科目	終末期看護論 Terminal Care Nursing	担当教員	伊藤 円、小島 悦子、青田 美穂、梶原 陽子
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	生命を脅かす疾患に伴う問題に直面している患者・家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルなニーズを理解し、患者・家族の QOL を最大限に保つための支援について考える。また、多職種チームアプローチにおける看護師の役割を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケア、ホスピスケア、ターミナルケア、エンド・オブ・ライフ・ケアの用語を整理できる。 2. 質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアの実践に必要な要素を説明できる。 3. エンド・オブ・ライフにある患者・家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルなニーズを説明できる。 4. エンド・オブ・ライフにある患者・家族のケアについて説明できる。 		
関連科目	関連科目は、成人看護学概論・成人看護活動論Ⅰ・Ⅱ・成人看護実習Ⅱとなります。		
テキスト	田村恵子編「終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」(メヂカルフレンド社)		
参考書	授業内に適宜紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 第1回～第8回の講義中・後に、授業で理解したこと、授業内容および事例への看護や臨地実習の学びに関連した意見・考え・感想を所定の用紙にまとめ、提出する。授業での学びや自分の考え等の具体的記述、授業態度を合わせて評価する(100%)。
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100	
その他			
履修上の留意事項	生命を脅かす疾患に伴う問題に直面している患者・家族に対し、看護職として何ができるのかについて一緒に考えましょう。		
課題に対するフィードバックの方法	提出物に対してコメントを付したり、授業内で解説をします。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (伊藤)	ガイダンス エンド・オブ・ライフ・ケアについて	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケア、ホスピスケア、ターミナルケア、エンド・オブ・ライフケアとは 2. エンド・オブ・ライフ・ケアの特徴と看護師の役割 3. 自分のエンド・オブ・ライフについて 	事前学習：学習の主題に関する予習(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間)
2 (伊藤)	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. エンド・オブ・ライフ・ケアで看護師が直面する倫理的課題 2. アドバンス・ケア・プランニング 	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間)
3 (伊藤)	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける症状マネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期に起こる主な症状 2. 終末期における症状マネジメント 3. 症状緩和における多職種連携 	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間)
4 (小島)	家族の悲嘆に対するケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 喪失、悲嘆、死別とは 2. 家族の悲嘆のアセスメントと援助 	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間)
5 (伊藤)	高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を取り巻く社会状況と終末期を迎える場 2. 高齢者ケアにおける倫理 3. 高齢者の病いの特徴と尊厳を守る援助 	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (小島)	臨終前後のケア	1. 臨終までのケア 2. エンゼルケア	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間)
7 (青田)	エンド・オブ・ライフ・ケアの実際(1)	1. 臨死期のケアの実際 2. 看取り時のケアの実際	事前学習：学習の主題に関する予習(2時間) 事後学習：リアクションペーパー、学習の主題に関する復習(2時間)
8 (梶原)	エンド・オブ・ライフ・ケアの実際(2)	1. 在宅における緩和ケアと多職種連携の実際 2. 在宅における臨死期のケアの実際	事前学習：学習の主題に関する予習(2時間) 事後学習：リアクションペーパー、学習の主題に関する復習(2時間)

授業科目	国際看護論 International Nursing	担当教員	正岡 経子、石川 祐美、近藤 美智子、 小池 真理子、北間 砂織、鈴木 幹子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	グローバル化の概念やグローバル化が健康に与える影響について学び、世界の健康問題、特に途上国を中心に世界の健康問題の現状と対策を理解し、各国の協調により問題を解決するための仕組みを学ぶ。また、社会文化を背景とする健康・疾病概念、及び保健行動の多様性を知り、看護の普遍性と多様性を理解し、より広い視野から看護の果たすべき役割を考察する。さらに、保健医療の国際協力における看護の役割、諸外国の社会経済や文化・教育に起因する健康課題と看護の現地における活動、災害等への国際支援活動に関する基礎知識から、看護活動を通じての国際共存の考え方を習得する。		
到達目標	1. グローバル・ナーシングの概念を理解する。 2. 看護における国際協力、国際交流の現状について理解する。 3. グローバル・ヘルスにおいて看護職である自分自身の果たす役割について考察する。		
関連科目	環境保健論、健康教育論、国際社会論		
テキスト	特に指定はしない。		
参考書	大橋一友・岩澤和子編：国際化と看護-日本と世界で実現するグローバルな看護を目指して メディカ出版		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		レポートの提出状況、内容から到達目標 1～3 の到達状況を評価する。 正岡(1・2回) : ミニツツペーパー 30% 小池(3回)・石川(4回)・近藤(5・6回)・北間(7回)・鈴木(8回) : ミニレポート 70% ()内の数字は、各々授業回数(担当)を示す
	レポート	100	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	授業スケジュールは非常勤講師の都合および学習の進捗状況により変更する場合がある。		
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントをして返却する。		
実務経験を 活かした教育内容	具体的な活動経験を踏まえ、その知見を活かした授業を行う。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (正岡)	国際看護学とグローバル・ナーシング	1. 国際看護学の主要な概念 2. 国際看護を行う看護職に必要な能力	事前学習：看護に国際的な視点が必要な背景を調べる (3時間) 事後学習：ミニツツペーパーに取り組む (0.5時間)
2 (正岡)	世界の健康格差と国際的な取り組み	1. 先進国と発展途上国の健康格差の現状と背景 2. 国際協力機関の取組み 3. 看護専門職の役割	事前学習：世界の健康格差の現状について調べる (3時間) 事後学習：ミニツツペーパーに取り組む (0.5時間)
3 (小池)	JOCV セネガル看護師 隊員としての活動	1. JOCV 青年海外協力隊の国際的役割 2. セネガルへの協力の実際	事前学習：青年海外協力隊の役割、セネガルについて調べる。(2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間)
4 (石川)	5Sで救える生命-バン グラーデシュの周産期環 境	1. バングラデシュの周産期をめぐる諸環境 2. バングラデシュへの協力の実際	事前学習：バングラデシュについて調べ、特に周産期医療の現状について調べる (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間)
5 (近藤)	国際緊急援助隊の活動	1. 日本の国際緊急援助隊について 2. 国際緊急援助隊の具体的な活動	事前学習：国際緊急援助隊の現状について調べる (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間)
6 (近藤)	在日外国人の健康課題 と看護	1. 在日外国人が体験するわが国の保健医療の特徴 2. 在日外国人の健康課題とその背景 3. 在日外国人への看護	事前学習：在日外国人が体験するわが国の保健医療の現状と特徴的健康課題および看護について調べる (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (北間)	在住外国人の健康支援 -医療通訳者の視点から -	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在日外国人の健康意識 2. 在日外国人が日本で経験する医療文化の違い 3. 医療通訳者としての在宅外国人への健康支援 	事前学習：在日外国人が日本で生活 する中で抱く健康意識の現状とその 背景にある医療文化について調べ、 支援について考える (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間)
8 (鈴木)	国際的看護の活動 (海 外における災害医療支 援)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力における看護の役割 2. 国際的看護活動の実際 	事前学習：国際看護師協会・日本看 護協会のホームページを閲覧し、国 際的看護活動の実際を調べる (2時 間) 事後学習：ミニレポート (1時 間)

授業科目	看護教育論 Nursing Education	担当教員	大日向 輝美
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	<p>本科目は「看護教育の歴史・現状・課題」をテーマとします。しかし、これらを体系的に叙述することは不可能なので、看護・看護教育のありようを概観し、批判する材料を提供したいと思います。なぜなら、「教育」という営みの本来的な価値は「多くのことを教えるのではなく、多くのことが見えてくることを教える」(須田勝彦) ことにあると考えるからです。「多くのことが見えてくる」というのは、物ごとを多面的かつ批判的に捉え、将来を切り拓いていく力を得ていくことを意味します。本科目では、看護・看護教育の観点から「多くのことが見えてくる」ための材料を提供し、それらをもとに自らの考えを深めてもらいたいと願います。この科目への取り組みによって、大学で看護学を学んだ意味を改めて問い、看護・看護学に向き合う自己のありようを捉え直す契機としてください。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・看護教育の目的・機能について、授業内容と関連づけて自己の意見を表明できる。 2. 看護の専門職化について、授業内容と関連づけて自己の意見を表明できる。 3. 我が国の看護職養成制度の変遷と特徴、課題について、規定要因と関連づけて説明できる。 4. 我が国の看護職養成課程の特徴、課題について、規定要因と関連づけて説明できる。 5. 大学で看護学を学んだ意味を問い直し、自己のキャリア・アップ、生涯学習のあり方について構想できる。 		
関連科目	看護管理論		
テキスト	なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 杉森みどり、舟島なをみ編「看護教育学」第6版(医学書院) 2. グレグ美鈴、池西悦子「看護教育学」(南江堂) その他、適宜授業中に紹介します。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		提出物：毎時の授業、事前・事後学習ではワークシートを用いて思考をまとめ、提出します。評価基準等の詳細は1回目の授業で説明します。 レポート：看護教育に関する自分なりの考察を行っているか否か等を評価します。評価基準等の詳細は8回目の授業で説明します。
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物	70	
その他			
履修上の留意事項	授業は、学生と教員、学生同士の対話の場なので、積極的な参加を求めます。また、この科目では「考える」ことを重視します。学生生活の最終年にこれまでの学修を改めて意味づけ、看護・看護教育について考えてみたいと希望する学生の履修を歓迎します。なお、授業進行は履修者の取り組みや希望によって変更することがあります。下記の授業計画は現時点における一応のストーリーと理解してください。		
課題に対するフィードバックの方法	提出物は基本的にコメントを記載して返却します。 前時の提出物の記載内容に関し、次の時間にコメントします。		
実務経験を活かした教育内容			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス、教育とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の目的・内容・方法、履修上の留意事項(ガイダンス) ・「教育とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・教育の概念と概要に関する講義 	事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む
2	看護教育とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護教育とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・看護教育の概念と概要に関する講義 	事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む。
3	看護職は専門職か	<ul style="list-style-type: none"> ・「専門職とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・専門職の概念・要件、看護の専門職化等に関する講義 	事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む。
4	看護職養成制度の体系と変遷を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・教育法制と看護職養成制度の位置づけ、変遷、規定要因等に関する講義 	事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む
5	看護職養成制度の現状と課題を捉える	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職をめぐる二重制度(看護師・准看護師)に関する講義 ・准看護師制度にかかわる問いへの取り組み 	事前(1時間):配付資料を講読し、ワークシートの課題に取り組む 事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む
6	看護職養成課程の特徴と変遷を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師助産師看護師法と指定規則、指定規則の変遷等に関する講義 ・指定規則の変遷と看護学の発展過程にかかわる問いへの取り組み 	事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	看護職養成課程の現状と課題を捉える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の教育課程の特徴と課題にかかわる問いへの取り組み ・ 看護職養成課程の課題と展望に関する講義 	事後（1時間）：ワークシートの課題に取り組む
8	看護職としてのキャリア・アップと継続学習に向き合う	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアと継続学習に関する講義 	事後（1時間）：自らのキャリアデザインをワークシートにまとめる、その他ワークシートの課題に取り組む

授業科目	在宅看護実習 Home Care Nursing : Practicum	担当教員	安藤 陽子、作並 亜紀子、武澤 千尋、 小川 克子、川口 桂嗣
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	在宅における実際の看護活動を通して、疾病や障がいを持ちながら療養している人々とその家族の健康状態や生活状況を理解する。そして、本人や家族の思いや望みを実現できるよう生活を支える看護の実践に必要な基礎的能力を養う。在宅看護の手段である訪問看護を通して在宅看護を理解し、看護師の役割を理解する。		
実習目標	1.在宅療養者の健康状態、生活状況を、ICF の概念を参考に、身体、心理、環境・生活、家族・介護状況の側面からアセスメントする。 2.在宅療養者が抱える療養上の課題を理解する。 3.在宅療養者の思いや望む生活を可能にするための看護計画を根拠に基づき考えることができる。 4.在宅療養者のニーズに応じた支援方法を理解する。 5.在宅療養者・家族を支援する地域包括ケアシステムについて理解する。		
関連科目	3年後期 在宅看護論ⅠおよびⅡが密接に関連する。		
実習内容	具体的な内容については実習要項を用いて、実習オリエンテーションで説明する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 ・実習時間の2/3以上の出席者が評価対象となる ・実習評価表に基づき、目標達成度を評価する
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他	100%		
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を行い、実習に臨んでください。 ・実習オリエンテーションも実習の一部です。必ず出席してください。 ・看護の対象者は地域で療養しながら生活している人々です。本人と家族がどのような思いを持ちながら生活されているのかに関心を持ち、その生活を支える看護の役割をしっかりと考えるようにしてください。 ・実習で受けた説明や体験したことの意味を考えながら学びを深めてください。 		
課題に対するフィードバックの方法	実習終了時には学生の成長を促すよう、学生の自己課題について伝える。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、疾病や障がいをもって生活している対象者と家族に対する在宅看護について理解しやすいよう実習指導を行います。		
実習方法	<p>グループ（2～3名）毎に、いずれかの訪問看護ステーションで以下の方法に従って実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.実習体制 1)実習は実習施設2週間、うち学内実習3日間で行う。 2.実習内容 1)受け持ち事例について：実習中に1事例を受け持ち、看護過程を展開する。 ・可能な限り、2回以上の訪問看護を実施する。 2)受け持ち事例以外の方への訪問看護や訪問リハビリへの同行、デイケア等へ参加し、学びを深める。 3)他機関・他職種間の連携活動を学ぶ機会として、可能な限り「サービス調整会議」「退院予定者の退院支援」等へ参加する。 4)行動調整および学生カンファレンス ・毎日、訪問ステーション内で実習指導者と行動調整を行い、実習に臨む。 ・実習終了時には1日の振り返りを学生間で実施する。2週目の最終日には指導者も含めたカンファレンスを行う。 5)学内実習は、指定された課題に沿って学習する。 		
実習施設	訪問看護ステーションピンポンハート、訪問看護ステーション晴日、訪問看護リハビリテーション温っどほむ、医療法人愛全会在宅ケアセンターみなみ 訪問看護ステーションみなみ、医療法人愛全会在宅ケアセンターまこまない 訪問看護ステーションまこまない、医療法人愛全会在宅ケアセンターちゅうおう 訪問看護ステーションとよひら・ちゅうおう、社会医療法人恵和会 訪問看護ステーション水源池すずらん、医療法人札幌山の上病院 札幌山の上リハ訪問看護ステーション、SOMPO ケア株式会社 SOMPO ケア札幌発寒訪問看護、勤医協つきさむ訪問看護ステーション、勤医協さくすい訪問看護ステーション、勤医協ひがし訪問看護ステーション、札幌東徳洲会訪問看護ステーション、医療法人東札幌病院 訪問看護ステーション東札幌、医療法人東札幌病院 訪問看護ステーションみずほ		

授業科目	看護総合実習 Integrative Nursing : Practicum	担当教員	木津 由美子、吉田 祐子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	看護実践能力を培うことをねらいとして、4年間の学習の集大成として既習の学習内容や体験を統合し、複数患者を対象とした看護活動を行うとともに今後の自己課題を明確にすることである。このねらいを達成するために、看護チームの一員として、複数の患者・家族への看護を実践するなかで、看護の優先度ならびに必要性を判断し、今後の基盤となる看護実践能力を身につける。また、保健医療福祉チームが患者・家族を中心にどのように連携・協働しているのかの実際を学ぶ。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解に必要な情報を意図的に収集する。 2. 患者－看護師間のケアの概念に基づき、援助的人間関係を形成する。 3. 看護チームの一員として看護実践のなかで生じる多様な状況を判断し実践する。 4. 患者の状況に応じて安全に看護を実践する。 5. 保健医療福祉チームにおける看護職者の果たす役割、機能についての実際を理解する。 6. 実習の全プロセスを通して責任ある態度で実習する。 7. 看護職としての今後の自己課題を明確にする。 		
関連科目	1年次から学習した科目すべてが関連する。看護学生として4年間の学びの統合となる。		
実習内容	具体的な内容については、実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 実習要項に記載の方法で評価をする。 実習評価基準、出席状況、態度に基づき、目標達成状況を評価する。 詳細は、実習オリエンテーション時に示す。
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他	100		
履修上の留意事項	実習のオリエンテーションは必ず参加すること。その上で、病棟の特性に合わせた事前学習を必ず行っておく。また、これまでの学習内容（講義・実習等）を復習し、複数の対象者を受け持ってタイムリーに看護実践ができるよう準備を整えておく。		
課題に対するフィードバックの方法	実習中毎日記載する行動計画・評価用紙にコメントを付して返却する。また病棟での看護実践では、その都度口頭でフィードバックする。		
実務経験を活かした教育内容			
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者を受け持ち、看護チームスタッフ / 実習指導者とともに看護を実践する。 2. 看護チームスタッフ / 実習指導者とともに、複数患者のケアの優先度を考え、一日の行動計画を立案・実施する。 3. 必要時、病棟カンファレンスに参加（見学）する。 4. 学生同士で情報を共有し、協働しながら看護を実践する。 5. 週1回、教員および施設の実習指導者の参加のもとでケースカンファレンスを行う。 ※詳細は実習要項を参照のこと。		
実習施設	札幌医科大学附属病院、札幌東徳洲会病院、札幌徳洲会病院、北海道大野記念病院、札幌麻生脳神経外科病院、札幌北楡病院、柏葉脳神経外科病院、東札幌病院、北光記念病院、クラーク病院、札幌しらかば台病院、イムス札幌消化器中央総合病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院		

授業科目	実践総合演習 Comprehensive Seminar in Nursing Practice		担当教員	木津 由美子、吉田 祐子、他全看護教員
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位	
授業目的	本科目では、看護実践に関する既習の知識・技術・態度を統合し、課題を解決するための創造的思考力、看護実践力を養うことを目的とする。さらに、この学習を通して、看護実践能力における自己課題を明確にし、自己成長に必要な対策を自ら立案する能力を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の習得状況を確認し、具体的な行動レベルで準備、実施することができる。 2. 対象者の状況に合わせて、根拠に基づき看護技術を選択し、実施することができる。 3. 上記の学習過程を通じて自己の課題を整理し、改善・向上のための対策を立てることができる。 			
関連科目	1年次から学習した看護師に必要な科目すべてが関連し、4年次卒業時の看護実践能力を培う。			
テキスト	なし			
参考書	これまでの専門基礎科目・専門科目で使用したテキスト・参考書 ※その他、学習内容に合わせ、随時紹介する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の達成状況を提出物により総合的に評価する。 ①筆記試験(30%) ②看護技術到達度チェック(50%) ③自己課題レポート(20%)	
	試験			
	レポート			
	小テスト			
	提出物	100		
その他				
履修上の留意事項	これまでの知識・技術・態度を振り返り、看護職者としての実践力を養うために、主体的に行動・学習してください。			
課題に対するフィードバックの方法	提出物の返却はしないが、全体へコメントを口頭で行う。			
実務経験を活かした教育内容				
回数(担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (木津) (吉田)	看護技術の総復習①	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 紙面事例の情報整理 		事前：シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく(1時間)。事後：紙面事例の情報を所定用紙に整理する(1時間)。
2 (木津) (吉田)	看護技術の総復習②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験(看護技術に関する問題) 		事前：国家試験対策の看護技術について学習する(1時間)。事後：筆記試験の自己採点と間違えた問題の正解を調べる(2時間)。
3 (木津) (吉田)	看護技術の総復習③	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例の看護計画立案① 2. 既習の看護技術の復習 		事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。
4 (木津) (吉田)	看護技術の総復習④	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例の看護計画立案② 2. 既習の看護技術の復習 		事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。
5 (木津) (吉田)	看護技術の総復習⑤	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例の行動計画の立案① 2. 既習の看護技術の復習 		事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。
6 (木津) (吉田)	看護技術の総復習⑥	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例の行動計画の立案② 2. 既習の看護技術の復習 		事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (木津) (吉田)	看護技術の総復習⑦	1. 筆記試験問題の解答・解説	事前：自己回答を確認する(1時間)。 事後：解説と自己回答を確認し、弱点補強をする(1時間)。
8 (木津) (吉田)	看護技術の総復習⑧	1. 行動計画をもとにした看護技術練習①	事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。
9 (木津) (吉田)	看護技術の総復習⑨	1. 行動計画をもとにした看護技術練習②	事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。
10 (木津) (吉田)	看護技術の総復習⑩	1. 行動計画をもとにした看護技術練習③	事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。
11 (木津) (吉田)	看護技術の総復習⑪	1. 行動計画をもとにした看護技術練習④	事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。
12 (全担当 教員)	看護技術到達度チェック①	1. 看護技術到達度チェックオリエンテーション	事前：看護技術の自己練習で疑問点を明らかにしておく(1時間)。 事後：看護技術到達度チェックの方法を配付資料で確認する(1時間)。
13 (全担当 教員)	看護技術到達度チェック②	1. 行動計画に基づいた援助の実践①	事前：紙面事例に必要な援助の実践ができるように自己練習する(2時間)。 事後：学生や教員からのコメントをまとめる(1時間)。
14 (全担当 教員)	看護技術到達度チェック③	1. 行動計画に基づいた援助の実践②	事前：紙面事例に必要な援助の実践ができるように自己練習する(2時間)。 事後：学生や教員からのコメントをまとめる(1時間)。
15 (木津)	まとめ	1. 看護技術、対象者に合わせた日常生活援助の自己課題の明確化 2. 自己課題を改善・向上するための対策の整理 3. レポート作成	事前：看護技術の自己の課題を明確にしておく(1時間)。 事後：提出物を準備する(2時間)。

授業科目	公衆衛生看護活動論Ⅲ Public Health Nursing III	担当教員	小川 克子、武澤 千尋、川口 桂嗣、 近藤 明代
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	地域で生活する人々の環境と健康水準及び健康課題に即した公衆衛生看護活動展開の方法を理解する。		
到達目標	1. 地域で生活する人々の健康水準の把握に必要なデータを特定し、収集する方法が理解できる。 2. 地域で生活する人々の健康と生活実態をアセスメントし、健康課題を抽出することができる。 3. 個別の健康課題を構造化し、地域保健対策を考えることができる。		
関連科目	疫学、保健統計学Ⅰ・Ⅱ、保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、 公衆衛生看護管理論		
テキスト	佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド（第2版）」（医歯薬出版）		
参考書	厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2023/2024」（厚生労働統計協会） 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる 2022-2023」（メディックメディア）		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		・グループで作成した地域アセスメントレポート内容について、到達目標 の観点から評価（80点）する。その他、グループ作業の取り組み姿勢、発 表やディスカッションにおける参加度（20点）をもとに評価する。 ・レポートが未提出の場合は評価の対象としません。
	レポート	80	
	小テスト		
	提出物		
その他	20		
履修上の 留意事項	・事前、事後学習を確実にし、演習に臨みましょう。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度担当教員に質問しましょう。		
課題に対するフィ ードバックの方法	地域アセスメントレポートは提出日を設定し、添削の上返却を行います。また授業内で発表時間を設定しています ので、その場面でフィードバックを行います。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師としての経験から地域の健康課題の捉え方、対策の立案方法について理解しやすい ように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (小川)	コミュニティを対象 とした看護過程(1)	本科目の目的、目標、学習内容の概要と履修上の留意点、評 価方法について説明する 1. 人々の健康と生活のアセスメントと健康課題の特定まで 2. 健康課題の種類、表現の原則、健康課題の構造化 3. 人々の健康と生活のアセスメントと健康課題の優先順位	事前：保健師の活動計画、地域保健情 報年報から地域の状況を把握する（2 時間）。 事後：授業で使用したプリントや紹介 された文献を確認し、全体を構造化/体 系化して捉える（2時間）。
2 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護ア セスメント演習(1) (サブシステムアセ スメント①)	アセスメント項目を定めてサブシステムをアセスメントす る	事前：演習(1)に向けて、各データが 示す内容について復習し、各自データ 収集を行う（2時間）。 事後：授業中に行ったアセスメントを 見直す（2時間）。
3 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護ア セスメント演習(2) (サブシステムアセ スメント②)	グループメンバーのアセスメントを統合し、サブシステムのの アセスメントレポートを作成する	事前：前回実施したアセスメントを見 直す（2時間）。 事後：サブシステムアセスメントの再 確認・修正を行う（2時間）。
4 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護ア セスメント演習(3) (健康水準アセスマ ント①)	アセスメント項目を定めて人々の健康水準をアセスメント する	事前：演習(3)に向けて、各データが 示す内容について復習し、各自データ 収集を行う（2時間）。 事後：授業中に行ったアセスメントを 見直す（2時間）。
5 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護ア セスメント演習(4) (健康水準アセスマ ント②)	グループメンバーのアセスメントを統合し、健康水準のアセ スメントレポートを作成する。	事前：前回実施したアセスメントを見 直す（2時間）。 事後：アセスメントレポートの再確認 を行う（2時間）。
6 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護ア セスメント演習(5) (健康課題の抽出)	グループメンバーのアセスメントから、健康課題を抽出する	事前：グループで統合したアセスマ ントを見直し、健康課題を検討する(2 時間)。 事後：アセスメントレポートを再確認 し、発表とディスカッションの準備を 行う（2時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (小川) (武澤) (川口) (近藤)	コミュニティ看護ア セスメント演習(6) (発表とディスカッ ション)	サブシステムと人々の健康水準のアセスメント、抽出した健康課題を発表し、ディスカッションを行う	事前：発表・ディスカッションの準備を行う(2時間)。 事後：ディスカッションでの学びを整理し、アセスメントを修正する(2時間)。
8 (小川)	コミュニティを対象 とする看護過程(2)	健康課題解決の方法(対策立案と評価方法)	事前：グループで抽出した健康課題からその対策や評価方法を検討する(2時間)。 事後：講義内容から、事前に考えた対策や評価方法を再検討する(2時間)。

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅰ Public Health Nursing : Practicum Ⅰ	担当教員	近藤 明代、武澤 千尋、小川 克子、川口 桂嗣
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境・社会環境と関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題・課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域社会で生活する個人・家族を公衆衛生看護の対象としてとらえ、家庭訪問の看護過程を通して個人・家族への支援方法・技術を理解できる。 2.共通の健康課題を持つ人々の集団を公衆衛生看護の対象としてとらえ、健康教育の看護過程を通して集団への支援方法・技術を理解できる。 3.地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題解決のために展開される公衆衛生看護活動は、ハイリスク・アプローチやポピュレーション・アプローチ等様々な理論や方法・技術を組み合わせて展開されることを理解する。 4.住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。 		
関連科目	3年次前期から学習した公衆衛生看護学に関する科目すべて、保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ 疫学、保健統計Ⅰ・Ⅱ		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	評価方法は実習要項に記載		目標到達度を実習の評価基準に基づいて評価する。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に提示された学修内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるよう努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者及び住民との交流を大切に、地域の人々の生活の理解に努める。 		
課題に対するフィードバックの方法	実習で見学、体験する保健活動を既習の学びと結び付けて考えることができる様に、振り返りを促しながら助言を行う。学生の学びの状況に応じて、講義や演習で学修した内容を振り返りながら、支援技術の習得を目指す。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとに授業を担当した教員と、実際に保健師活動をしている実習指導者が協力し、学生が実習で体験する内容を理解し、実践技術を修得できる様に実習を行う。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1.保健師の動向のもと家庭訪問を行う。 2.集団を対象にして、健康教育の企画・実践・評価の一連のプロセスを体験する。 3.実習地域（施設）で行われる保健活動に参加し、保健師の支援方法について理解する。 4.関係機関、関係職種との会議等に参加し、多職種との連携・調整の実際を体験する。 5.実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。 		
実習施設	倶知安保健所、岩内保健所、帯広保健所および3保健所管内の市町村		

授業科目	公衆衛生看護実習 II Public Health Nursing : Practicum II	担当教員	近藤 明代、武澤 千尋、小川 克子、 川口 桂嗣
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境と社会環境とを関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題・課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域社会で生活する人々および地域社会を公衆衛生看護の対象として理解し、地域で生活する人々および地域社会の健康課題を明らかにすることができる。 2.地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題を解決するための計画や対策を理解できる。 3.地域社会で生活する人々に対する公衆衛生看護活動は、保健・医療・福祉など様々な分野の人々と連携と協働および様々な制度や公的・私的資源を活用し、住民主体の展開が重視されていることを理解できる 4.健康危機管理における、組織的な管理体制やシステム構築の必要性について理解できる。 5.住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。 		
関連科目	3年次前期から学習した公衆衛生看護学に関する科目すべて、保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ 疫学、保健統計Ⅰ・Ⅱ		
実習内容	具体的内容については実習要項を用いて、実習オリエンテーションにて説明します。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	評価方法は実 習要項に記載		目標到達度を実習の評価基準に基づいて評価する。
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に提示された学習内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるように努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者および住民との交流を大切に、地域の人々の生活の理解に努める。 		
課題に対するフィ ードバックの方法	実習で見学、体験する保健活動を既習の学びと結び付けて考えることができる様に、振り返りを促しながら助言を行う。学生の学びの状況に応じて、講義や演習で学修した内容を振り返りながら、支援技術の習得を目指す。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験をもとに授業を担当した教員と、実際に保健師活動をしている実習指導者が協力し、学生が実習で体験する内容を理解し、実践技術を修得できる様に実習を行う。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1.実習地域のアセスメントを行い、地域の課題を抽出し、実際に取り組まれている健康課題との整合性、解決するための計画や対策を検討する。 2.実習地域の環境を査定しながら、地域に合った保健活動の方法について検討する。 3.地域における健康危機管理施策・体制がどの様に整備され、予防策が講じられているかを知り、予防活動を保健師の役割について考える。 4.地域ケアシステムの果たす役割と地域における保健師のコーディネート機能について考える。 5.公衆衛生看護活動の評価の意義、評価の視点、方法などについて検討する。 6.実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。 		
実習施設	俱知安保健所、岩内保健所、帯広保健所および3保健所管内の市町村		

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅲ Public Health Nursing : Practicum III	担当教員	近藤 明代、武澤 千尋、小川 克子、 川口 桂嗣
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	実習	単位数	1単位
ねらい	産業保健分野における労働者の健康の保持・増進活動がどのような組織体系の中で行われているかを理解し、産業保健における保健師の役割を理解する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.労働者集団における健康課題の特徴を理解できる。 2.労働者の健康の保持・増進活動が、どの様に組織体系の中で行われているのかを理解する。 3.産業医、衛生管理者等との連携、協働の必要性を理解できる。 4.事業場に所属する保健師の役割を理解できる。 5.外部労働衛生機関における保健師の役割を理解できる。 		
関連科目	3年次前期から学習した公衆衛生看護学に関する科目すべて、保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ 疫学、保健統計Ⅰ・Ⅱ		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標到達度を実習の評価基準に基づいて評価する。
	評価方法は実 習要項に記載		
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に提示された学習内容を予習し、効果的・効率的な実習ができる様に努めること。 ・実習施設では実習指導者をはじめとする関係者および働く人々との交流を大切に、産業に従事する人々の理解に努める。 		
課題に対するフ ィードバックの 方法	実習で見学、体験する保健活動を既習の学びと結び付けて考えることができる様に、振り返りを促しながら助言を行う。学生の学びの状況に応じて、講義や演習で学修した内容を振り返りながら、支援技術の習得を目指す。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験をもとに授業を担当した教員と、実際に保健師活動をしている実習指導者が協力し、学生が実習で体験する内容を理解し、実践技術を修得できる様に実習を行う。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1.産業保健分野における健康支援活動の実際を見学する。 2.健康相談、生活習慣病の予防のための健診、健康測定、医療機関との連携、健康教室、健康診断、個人情報の管理など実習施設で実際に実施されている場面があれば見学する。参加できなかった内容については、学習課題として取り組み、主体的に指導者の説明を受ける。 3.健康診断の事後措置、事業者・衛生管理者への指導など労働保健管理協会の活動をまとめる。 4.実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。 		
実習施設	北海道労働保健管理協会、JR 札幌病院		



札幌保健医療大学

〒007-0894 札幌市東区中沼西4条2丁目1番15号

TEL(011)792-3350 FAX(011)792-3358

<http://www.sapporo-hokeniryō-u.ac.jp>